

低ポンプ領域における有効理論を用いた KPO の解析

2023 年 10 月 12 日

目次

| | | |
|--------|--|----|
| 第 I 部 | Introduction | 2 |
| 1 | property of the KPO model Hamiltonian | 3 |
| 2 | いくつかの数値計算結果 | 3 |
| 3 | このノートの目的 | 3 |
| 4 | KPO Hamiltonian の行列表示 | 5 |
| 第 II 部 | 時間に依存しない摂動論 | 6 |
| 5 | 時間に依存しない摂動論 (time-independent perturbation theory) | 7 |
| 5.1 | 問題設定 | 7 |
| 5.2 | 摂動方程式 | 7 |
| 6 | 時間に依存しない縮退のある摂動論 | 8 |
| 6.1 | 縮退について | 8 |
| 6.2 | 基本解法 | 9 |
| 6.3 | エネルギー固有値の補正值 | 9 |
| 6.4 | 固有状態について | 11 |
| 6.5 | 1 次摂動で縮退が解けなかった場合 | 13 |
| 6.6 | エネルギー固有値の補正值 | 13 |
| 6.7 | | 16 |
| 6.8 | 固有状態について | 16 |
| 7 | 縮退のない場合 | 20 |
| 7.1 | 1 次摂動 | 20 |
| 7.2 | 2 次摂動 | 23 |

| | | |
|-------------------------------------|--|-----------|
| 7.3 | 摂動論が有効なための条件 | 26 |
| 第 III 部 KPO に対する摂動論 version1 | | 27 |
| 8 | $n = 0$ と 8 が縮退する場合 | 27 |
| 8.1 | 有効モデルの定義 | 27 |
| 8.2 | | 28 |
| 8.3 | | 31 |
| 8.4 | 縮退のない摂動論への移行 | 42 |
| 第 IV 部 KPO に対する摂動論 version2 | | 49 |
| 9 | $n = 0$ と 8 が縮退する場合 | 49 |
| 9.1 | 有効モデルの定義 | 49 |
| 9.2 | | 50 |
| 9.3 | | 53 |
| 9.4 | 縮退のない摂動論への移行 | 65 |
| 10 | 高次の摂動の計算について | 67 |
| 10.1 | KPO に関する摂動論 | 67 |
| 第 V 部 その他の摂動論について | | 77 |
| 11 | Schrieffer-Wolff 変換 | 77 |
| 11.1 | Iterative calculation of \hat{S} | 78 |
| 11.2 | Example : Jaynes-Cummings model | 79 |
| 12 | Peter Knight perturbation | 81 |
| 12.1 | $ 0\rangle$ and $ 4\rangle$ | 81 |
| 12.2 | $ 0\rangle$ and $ 6\rangle$ | 84 |
| 12.3 | Dispersive Shift | 88 |

第 I 部

Introduction

1 property of the KPO model Hamiltonian

次の KPO Hamiltonian を考える：

$$\hat{H}_{\text{KPO}} = \hat{H}_0 + p\hat{V} \quad (1)$$

$$\hat{H}_0 = \Delta\hat{a}^\dagger\hat{a} + \frac{\chi}{2}\hat{a}^\dagger\hat{a}^\dagger\hat{a}\hat{a} \quad (2)$$

$$\hat{V} = (\hat{a}^2 + \hat{a}^{\dagger 2}) \quad (3)$$

ここで、 \hat{H}_0 は対角化できており、エネルギー固有状態とエネルギー固有値は以下で与えられる：

$$\hat{H}_0 = \Delta\hat{n} + \frac{\chi}{2}\hat{n}(\hat{n} - 1) \quad (4)$$

$$\hat{H}_0 |n\rangle = E_n |n\rangle, \quad E_n = \Delta n + \frac{\chi}{2}n(n - 1) \quad (5)$$

このとき、基底状態と各励起状態が縮退する条件は固有エネルギーが 0 となる時、すなわち、

$$E_n = \Delta n + \frac{\chi}{2}n(n - 1) = 0 \quad (6)$$

$$\Delta = -\frac{\chi}{2}(n - 1) \quad (7)$$

となる。

2 いくつかの数値計算結果

上に示した KPO の Hamiltonian の興味深い性質を確認するために、次の GKSL 型マスター方程式を用いて数値計算を行った：

$$\frac{\partial \rho}{\partial t} = -i \left[\hat{H}_{\text{KPO}}, \rho \right] + \frac{\gamma}{2} (2\hat{a}\rho\hat{a}^\dagger - \{\hat{a}^\dagger\hat{a}, \rho\}). \quad (8)$$

図 1, 2 はマスター方程式の定常状態 $\dot{\rho}_{\text{ss}} \equiv \frac{\partial \rho}{\partial t} = 0$ を数値計算によって求め、その平均光子数 $\langle \hat{a}^\dagger \hat{a} \rangle \equiv \text{Tr}[\rho_{\text{ss}} \hat{a}^\dagger \hat{a}]$ をパラメトリックドライブ p , detuning Δ をそれぞれ変え、求めた。図に示すように、Detuning が Kerr 係数 χ とが

$$\Delta = -\frac{\chi}{2}(n - 1) \quad (9)$$

の条件（これを共鳴条件と呼ぶ。）を満たすとき、わずかなパラメトリックドライブでさえ、平均光子数が急激に増加していることがわかる。

3 このノートの目的

このノートでは、なぜ、共鳴条件 Eq.(9) を満たすとき、わずかなパラメトリックドライブで、平均光子数が急激に増加しているのかを理論的に解明するためのノートである。理論解析の手法として、時間に依存しない

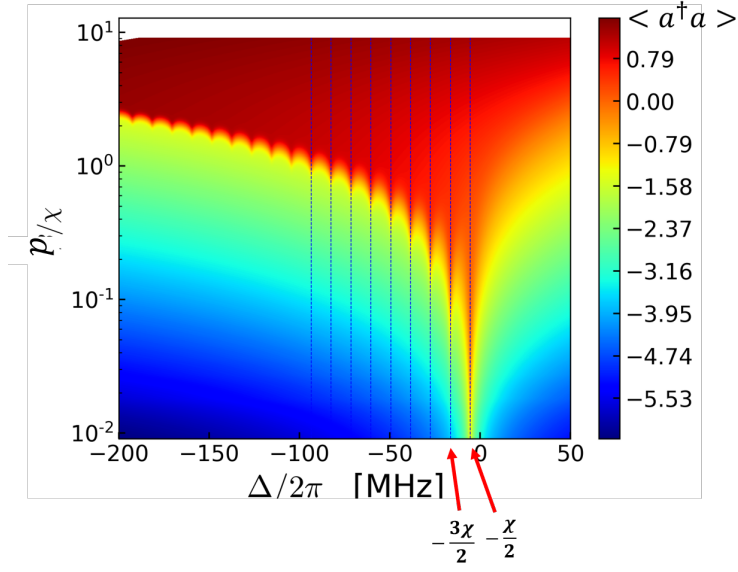


図 1 z 軸は平均光子数に常用対数を取ったもの. $Kerr/2\pi = 11$ MHz, $\gamma/2\pi = 1.4$ MHz. x 軸は detuning, y 軸はパラメトリックドライブを表す.

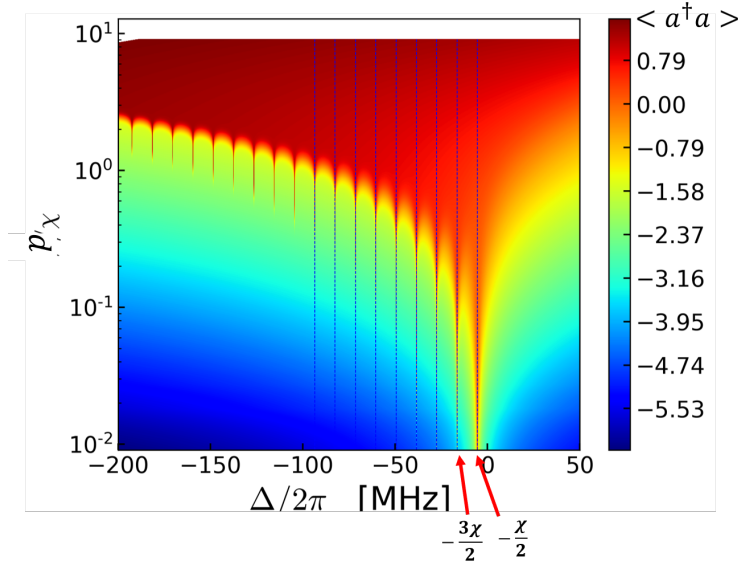


図 2 z 軸は平均光子数に常用対数を取ったもの. $Kerr/2\pi = 11$ MHz, $\gamma/2\pi = 0.0001$ MHz. x 軸は detuning, y 軸はパラメトリックドライブを表す.

縮退のある場合の摂動論を用いる. また, おまけとして, Schrieffer-Wolff 変換や Peter Knight perturbation (断熱消去?) などの摂動論による解析も (あまりうまくはいかなかったが) 試みたので, 紹介する.

4 KPO Hamiltonian の行列表示

KPO Hamiltonian に対して, Detuning Δ を共鳴条件 Eq.(9) を満たすようにとる. このとき, 摂動 Hamiltonian $\hat{V} = (\hat{a}^2 + \hat{a}^{\dagger 2})$ は 2 光子駆動を表しているため, Hamiltonian は偶数サイトと奇数サイトにブロック対角化可能である. 今回注目するのは, 基底状態と偶数番目の励起状態が縮退する場合であり, 図 3 のような有効モデルを考えることができる. つまり, KPO Hamiltonian を偶数番目の Fock 状態で展開し, 次のように行列で表現することが可能である:

$$\hat{H}_{\text{KPO}} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \dots & \dots \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ \vdots \\ \vdots \end{matrix} & \begin{pmatrix} E_0 & \sqrt{2 \cdot 1}p & 0 & 0 & 0 & \dots & \dots \\ \sqrt{2 \cdot 1}p & E_2 & \sqrt{4 \cdot 3}p & 0 & 0 & \dots & \dots \\ 0 & \sqrt{4 \cdot 3}p & E_4 & \sqrt{6 \cdot 5}p & 0 & \dots & \dots \\ 0 & 0 & \sqrt{6 \cdot 5}p & E_6 & \sqrt{8 \cdot 7}p & \dots & \dots \\ 0 & 0 & 0 & \sqrt{8 \cdot 7}p & E_8 & \dots & \dots \\ \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \dots & \ddots & \vdots \\ \vdots & \dots & \dots & \dots & \dots & \dots & \ddots \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (10)$$

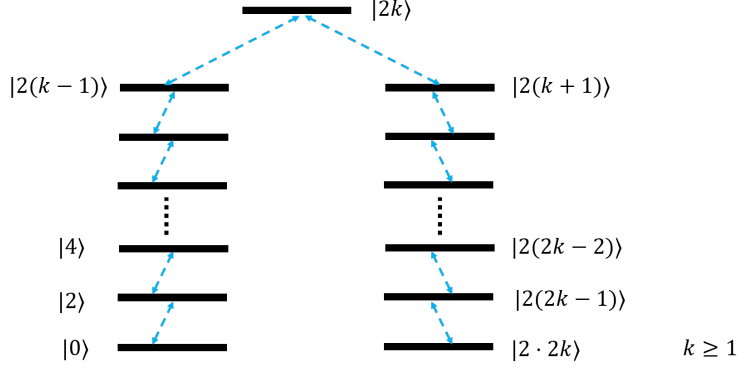


図 3 KPO の有効モデルの一般系

具体例を見てみると, $n = 4, (k = 1)$, すなわち, 0 と 4 が縮退する場合, 有効モデルは, 図 4 のようになり, Hamiltonian の行列表示は,

$$\hat{H}_{\text{KPO}}^{\text{eff}0 \rightarrow 4} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} E_0 & \sqrt{2 \cdot 1}p & 0 \\ \sqrt{2 \cdot 1}p & E_2 & \sqrt{4 \cdot 3}p \\ 0 & \sqrt{4 \cdot 3}p & E_4 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (11)$$

となる.

$n = 8, (k = 2)$, すなわち, 0 と 8 が縮退する場合, 有効モデルは, 図 5 のようになり, Hamiltonian の行

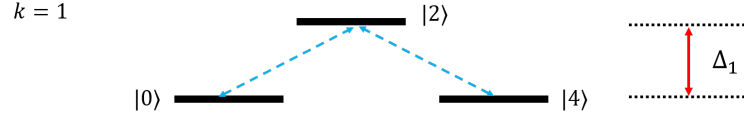
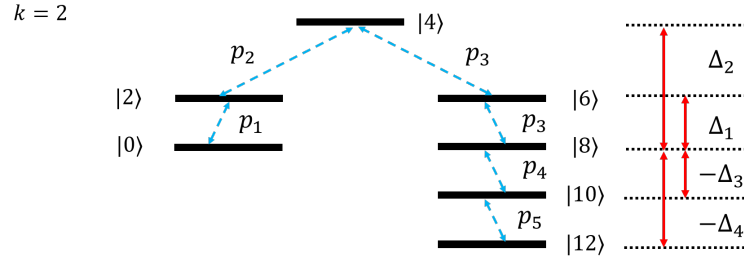


図4 基底状態と4励起状態が縮退する場合のKPOの有効モデル

列表示は,

$$\hat{H}_{\text{KPO}}^{\text{eff}} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} E_0 & p_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ p_1 & E_2 & p_2 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & p_2 & E_4 & p_3 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & p_3 & E_6 & p_4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_4 & E_8 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & E_{10} & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & E_{12} \end{pmatrix} \end{matrix} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & p_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ p_1 & \Delta_1 & p_2 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & p_2 & \Delta_2 & p_3 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & p_3 & \Delta_1 & p_4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_4 & 0 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & -\Delta_3 & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & -\Delta_4 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (12)$$

となる. このとき, $E_0 = E_8 = 0$, $p_1 = \sqrt{2 \cdot 1}p$, $p_2 = \sqrt{4 \cdot 3}p$, $p_3 = \sqrt{6 \cdot 5}p$, $p_4 = \sqrt{8 \cdot 7}p$, $p_5 = \sqrt{10 \cdot 9}p$, $p_6 = \sqrt{12 \cdot 11}p$ である. である.



このとき、0,8と2,6が縮退する

図5 基底状態と8励起状態が縮退する場合のKPOの有効モデル

第II部

時間に依存しない摂動論

ここでは、時間に依存しない摂動論の一般論について、解説し、摂動論を使う際に有用な近似公式を導出する.

5 時間に依存しない摂動論 (time-independent perturbation theory)

調和振動子や水素原子など，Schrödinger 方程式を解析的に解ける例は極めて少ない．そこで，近似的に Schrödinger 方程式を解く必要がある．Schrödinger 方程式を近似的に解く方法の一つとして，摂動論がある．摂動論は完全に解ける問題に対して，わずかな補正（摂動）を与えた場合を近似的に解く方法である．本書では，時間に依存せず，縮退のない場合の摂動論について論じる．

5.1 問題設定

いま，解くべき Schrödinger の固有値方程式は

$$\hat{H} |\varphi_n\rangle = E_n |\varphi_n\rangle \quad n = 1, 2, \dots \quad (13)$$

とする．いま，我々が求めたいのは (13) のエネルギー固有値 E_n とその固有状態 $|\varphi_n\rangle$ であるが，それらの厳密解をえることができないとする．すなわち，(13) は厳密には解けないとする．(13) の与えられた物理系のハミルトニアン \hat{H} が

$$\hat{H} = \hat{H}_0 + \lambda \hat{V} \quad (14)$$

の形をもつとする．すると，(13) は

$$(\hat{H}_0 + \lambda \hat{V}) |\varphi_n\rangle = E_n |\varphi_n\rangle \quad n = 1, 2, \dots \quad (15)$$

とかける．ここで， λ は無次元のパラメータで十分に小さい ($\lambda \ll 1$) とする． \hat{H}_0 を非摂動ハミルトニアン， \hat{V} を摂動ハミルトニアン，または摂動ポテンシャルとよぶ．ハミルトニアンが (14) でかけられるとき， \hat{H}_0 の Schrödinger の固有値方程式

$$\hat{H}_0 |\varphi_n^{(0)}\rangle = \epsilon_n |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (16)$$

は完全に解けるものとし，(16) の固有状態 $|\varphi_n^{(0)}\rangle$ の無限個の集合 $\{|\varphi_n^{(0)}\rangle\}_{n=1,2,\dots}$ は正規直交完全系をなすものとする．また， ϵ_n は \hat{H}_0 のエネルギー固有値であり，ここでは，縮退のある場合を考える．固有値方程式 (15) において，次のことを要請する．

要請 5.1 $\lambda \rightarrow 0$ のとき $E \rightarrow \epsilon_n$ となる

つまり，固有値方程式 (15) の解で要請 5.1 をみたすものを求める．

5.2 摂動方程式

摂動を受けたハミルトニアン (14) の固有値問題 (15)，すなわち，

$$(\hat{H}_0 + \lambda \hat{V}) |\varphi_n\rangle = E_n |\varphi_n\rangle \quad n = 1, 2, \dots \quad (17)$$

を解きたい． λ は十分小さいとするから，摂動の影響は λ のべき級数に展開して考えることができるだろう．(17) のエネルギー固有値 E_n と固有状態 $|\varphi_n\rangle$ を λ でべき級数展開する：

$$E_n = \epsilon_n + \lambda E_n^{(1)} + \lambda^2 E_n^{(2)} + \dots \quad (18)$$

$$|\varphi_n\rangle = |\varphi_n^{(0)}\rangle + \lambda |\varphi_n^{(1)}\rangle + \lambda^2 |\varphi_n^{(2)}\rangle + \dots \quad (19)$$

ここで、 $E_n^{(0)}$ に当たるところを ϵ_n としたのは、要請 5.1 による。

(17) 両辺へ (28) と (29) を代入すると、

$$\begin{aligned} & \left(\hat{H}_0 + \lambda \hat{V} \right) \left(|\varphi_n^{(0)}\rangle + \lambda |\varphi_n^{(1)}\rangle + \lambda^2 |\varphi_n^{(2)}\rangle + \cdots \right) \\ &= \left(\epsilon_n + \lambda E_n^{(1)} + \lambda^2 E_n^{(2)} + \cdots \right) \left(|\varphi_n^{(0)}\rangle + \lambda |\varphi_n^{(1)}\rangle + \lambda^2 |\varphi_n^{(2)}\rangle + \cdots \right) \end{aligned} \quad (20)$$

となる。次にこの式の両辺を λ のべきで整理して、同じべきの項を等しいとおく。これが摂動論の原理である。これはこの等式が十分小さい λ に対して常に成り立つという要求にほかならない。

(20) の両辺を λ のべきで整理し、同べきの項をとりだす：

$$\lambda^0 : \quad \hat{H}_0 |\varphi_n^{(0)}\rangle = \epsilon_n |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (21)$$

$$\lambda^1 : \quad \hat{H}_0 |\varphi_n^{(1)}\rangle + \hat{V} |\varphi_n^{(0)}\rangle = \epsilon_n |\varphi_n^{(1)}\rangle + E_n^{(1)} |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (22)$$

$$\lambda^2 : \quad \hat{H}_0 |\varphi_n^{(2)}\rangle + \hat{V} |\varphi_n^{(1)}\rangle = \epsilon_n |\varphi_n^{(2)}\rangle + E_n^{(1)} |\varphi_n^{(1)}\rangle + E_n^{(2)} |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (23)$$

$$\lambda^3 : \quad \hat{H}_0 |\varphi_n^{(3)}\rangle + \hat{V} |\varphi_n^{(2)}\rangle = \epsilon_n |\varphi_n^{(3)}\rangle + E_n^{(1)} |\varphi_n^{(2)}\rangle + E_n^{(2)} |\varphi_n^{(1)}\rangle + E_n^{(3)} |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (24)$$

⋮

$$\lambda^N : \quad \hat{H}_0 |\varphi_n^{(N)}\rangle + \hat{V} |\varphi_n^{(N-1)}\rangle = \epsilon_n |\varphi_n^{(N)}\rangle + \sum_{k=1}^N E_n^{(k)} |\varphi_n^{(N-k)}\rangle \quad (25)$$

これを摂動方程式という。

6 時間に依存しない縮退のある摂動論

6.1 縮退について

エネルギー固有値 ϵ_n に属する \hat{H}_0 の固有値が N 重縮退している場合を考える。これらの縮退している固有状態を区別するために、量子数 $\alpha = 1, 2, \dots, N$ を導入し、 $|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle$ と書くことにする。そして、これらについて規格直交化しておく：

$$\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle = \delta_{\alpha, \beta} \quad (26)$$

また、 ϵ_n 以外の他の固有状態 ϵ_m に属する固有ベクトルを $|\varphi_m^{(0)}\rangle$ で表し、 $\langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_m^{(0)} \rangle = \delta_{m', m}$ とする。さらにこのとき、 $\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_m^{(0)} \rangle = 0$, ($\alpha = 1, 2, \dots, N$) である。

縮退のある場合、 N 個の固有ベクトル $|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle$ のほかに、これらの任意の重ね合わせもまた \hat{H}_0 の固有ベクトルである。そこで、Sch.eq の解として、次も考えられる：

$$|\varphi_n^{(0)}\rangle = \sum_{\beta=1}^N |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle C_\beta, \quad (27)$$

後に、重ね合わせ状態 $|\varphi_n^{(0)}\rangle$ は、縮退がとけた場合のインデックスを書き加え、修正を行うことに注意。係数 C_β を求めることで、 \hat{H}_0 の固有状態 $|\varphi_n^{(0)}\rangle$ が決まる。このとき、 \hat{H} の固有状態、固有値に関する摂動展開と摂動方程式は、それぞれ、次のように与えられる：

$$E_n = \epsilon_n + \lambda E_n^{(1)} + \lambda^2 E_n^{(2)} + \cdots \quad (28)$$

$$|\varphi_n\rangle = |\varphi_n^{(0)}\rangle + \lambda |\varphi_n^{(1)}\rangle + \lambda^2 |\varphi_n^{(2)}\rangle + \cdots \quad (29)$$

$$\lambda^0 : \quad \hat{H}_0 |\varphi_n^{(0)}\rangle = \epsilon_n |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (30)$$

$$\lambda^1 : \quad (\epsilon_n - \hat{H}_0) |\varphi_n^{(1)}\rangle = (\hat{V} - E_n^{(1)}) |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (31)$$

$$\lambda^2 : \quad (\epsilon_n - \hat{H}_0) |\varphi_n^{(2)}\rangle = (\hat{V} - E_n^{(1)}) |\varphi_n^{(1)}\rangle - E_n^{(2)} |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (32)$$

$$\lambda^3 : \quad (\epsilon_n - \hat{H}_0) |\varphi_n^{(3)}\rangle = (\hat{V} - E_n^{(1)}) |\varphi_n^{(2)}\rangle - E_n^{(2)} |\varphi_n^{(1)}\rangle - E_n^{(3)} |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (33)$$

⋮

$$\lambda^N : \quad (\epsilon_n - \hat{H}_0) |\varphi_n^{(N)}\rangle = (\hat{V} - E_n^{(1)}) |\varphi_n^{(N-1)}\rangle - E_n^{(2)} |\varphi_n^{(1)}\rangle - \dots - E_n^{(N)} |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (34)$$

6.2 基本解法

6.3 エネルギー固有値の補正值

エネルギー固有値の補正值の 1 次近似について考える．そのために，Eq. (31)

$$(\epsilon_n - \hat{H}_0) |\varphi_n^{(1)}\rangle = (\hat{V} - E_n^{(1)}) |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (35)$$

に左から， $|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle$ を書けると，

$$(\epsilon_n - \epsilon_n) \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(1)} \rangle = \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle - E_n^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(0)} \rangle \quad (36)$$

$$(\epsilon_n - \epsilon_n) \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(1)} \rangle = \sum_{\beta=1}^N \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle C_{\beta} - \sum_{\beta=1}^N E_n^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle C_{\beta} \quad (37)$$

を得る．ここで，Eq. (27) を使い，右辺を展開した．左辺第一項は明らかにゼロ，よって

$$\sum_{\beta=1}^N [E_n^{(1)} \delta_{\alpha,\beta} - \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle] C_{\beta} = 0 \quad (38)$$

となる．この C_{β} に関する斉 1 次連立方程式が 0 以外の解を持つためには， C_{β} の係数のつくる行列が 0 でなくてはならない．すなわち，固有値 $E_n^{(1)}$ は以下の特性方程式の解である：

$$\det (E_n^{(1)} \delta_{\alpha,\beta} - \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle) = 0 \quad (39)$$

この固有値方程式は重解も含めて N 個の解： $E_{n,\alpha}^{(1)}$ ($\alpha = 1, 2, \dots, N$) を持つ．そして， N 個のそれぞれの解 $E_{n,\alpha}^{(1)}$ を行列方程式に代入し，規格化条件 $\sum_{\beta} |C_{\beta}| = 1$ のもとで，(38) を解くことにより，それぞれの解 $E_{n,\alpha}^{(1)}$ に対する係数が決定する．その係数を改めて $C_{\beta,\alpha}$ と書き，これに対応する固有ベクトルを

$$|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle = \sum_{\beta=1}^N |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle C_{\beta,\alpha} \quad (40)$$

と書き直す．これで第 0 近似での固有状態を決めることができた．固有状態 $|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle$ を (36) の $|\varphi_n^{(0)}\rangle$ へ代入すると，

$$\langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle = E_n^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \quad (41)$$

を得る。ここで、係数 $C_{\gamma,\beta}^*$ をかけて、 γ について和をとると、

$$E_n^{(1)} \sum_{\gamma} C_{\gamma,\beta}^* \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle = \sum_{\gamma} C_{\gamma,\beta}^* \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle$$

$$E_n^{(1)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle \quad (42)$$

となる。したがって、

$$E_n^{(1)} \delta_{\alpha,\beta} = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle \quad (43)$$

$$E_n^{(1)} = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle \quad (44)$$

を得る。これが、縮退のある場合のエネルギーの1次の補正項である。

(39) の解に重根がなく、第1次近似で状態 $|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle$ のすべての縮退がとけたときの第2次近似のエネルギー補正項について計算する。まず (31) へ、状態ベクトル $\langle \varphi_m^{(0)} |$ をかけると、

$$(\epsilon_n - \epsilon_m) \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle = \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle - E_n^{(1)} \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \quad (45)$$

ここで、右辺第二項は

$$\langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle = \sum_{\beta} C_{\beta,\alpha} \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle = 0 \quad (46)$$

となり、 $\epsilon_n \neq \epsilon_m$ であるから、

$$\tilde{C}_{m,\alpha}^{(1)} = \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle = \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (47)$$

を得る。

また、(32) へ、状態ベクトル $\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha |$ をかけると、

$$(\epsilon_n - \epsilon_n) \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle \rangle = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle - E_n^{(1)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle - E_n^{(2)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle \quad (48)$$

ここで、左辺は0、右辺第二項は（証明できていないが）0になるので、

$$E_n^{(2)} = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle \quad (49)$$

となる。これに完全系 $\hat{1} = \hat{P} + \hat{Q}$, where $\hat{P} = \sum_{\beta} |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta |$, $\hat{Q} = \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \langle \langle \varphi_m^{(0)} |$ を挿入し、

$$E_{n,\alpha}^{(2)} = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} \hat{1} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} \hat{P} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle + \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} \hat{Q} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle$$

$$= \sum_{\beta=1}^N \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle \rangle \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle + \sum_{m \neq n} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \rangle \langle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle$$

$$= \sum_{\beta=1}^N \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle \rangle C_{\beta,\alpha}^{(1)} + \sum_{m \neq n} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \rangle \tilde{C}_{m,\alpha}^{(1)} \quad (50)$$

ここで、右辺第一項に

$$E_{n,\alpha}^{(1)} \delta_{\alpha,\beta} = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle \quad (51)$$

を代入すると

$$\begin{aligned}
E_{n,\alpha}^{(2)} &= \sum_{\beta=1}^N E_n^{(1)} \delta_{\alpha,\beta} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle + \sum_{m \neq n} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= E_{n,\alpha}^{(1)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle + \sum_{m \neq n} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= E_{n,\alpha}^{(1)} C_{\alpha,\alpha}^{(1)} + \sum_{m \neq n} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \rangle \tilde{C}_{m,\alpha}^{(1)}
\end{aligned} \tag{52}$$

を得る。ここで、右辺第一項が 0、右辺第二項に

$$\tilde{C}_{m,\alpha}^{(1)} = \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle = \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \tag{53}$$

を代入することで、

$$E_{n,\alpha}^{(2)} = \sum_{m \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} = \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} \hat{Q} \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \tag{54}$$

を得る。これが第 2 次のエネルギーの補正項である。以上をまとめると、1 次の摂動によって、縮退が解かれるとき、エネルギー固有値は

$$\begin{aligned}
E_{n,\alpha} &= \epsilon_n + \lambda E_{n,\alpha}^{(1)} + \lambda^2 E_{n,\alpha}^{(2)} \\
&= \epsilon_n + \lambda \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle + \lambda^2 \sum_{m \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)}
\end{aligned} \tag{55}$$

で与えられる。

6.4 固有状態について

ここでは (55) が成立するときの固有状態を第 1 近似で求める。(32) に左から $\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta |$, ($\beta \neq \alpha$), をかけると

$$(\epsilon_n - \epsilon_n) \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle \rangle = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle - E_n^{(1)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle - E_n^{(2)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle \tag{56}$$

ここで、第 1 項は消え、第 3 項もまた $\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle = 0$ となるから

$$E_{n,\alpha}^{(1)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle \tag{57}$$

$$E_{n,\alpha}^{(1)} C_{\beta,\alpha}^{(1)} = \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \rangle \tag{58}$$

ここで右辺に、完全性関係 $\hat{1} = \hat{P} + \hat{Q}$ を代入すると、

$$\begin{aligned}
E_{n,\alpha}^{(1)} C_{\beta,\alpha}^{(1)} &= \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} \hat{P} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} \hat{Q} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= \sum_{\gamma=1}^N \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \gamma \rangle \rangle \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \sum_m \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= \sum_{\gamma=1}^N E_{n,\beta}^{(1)} \delta_{\beta,\gamma} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \sum_m \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= E_{n,\beta}^{(1)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \sum_m \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= E_{n,\beta}^{(1)} C_{\beta,\alpha}^{(1)} + \sum_m \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \tilde{C}_{m,\alpha}^{(1)}
\end{aligned} \tag{59}$$

となる。すなわち、

$$(E_{n,\alpha}^{(1)} - E_{n,\beta}^{(1)}) \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle = \sum_m \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \tag{60}$$

を得る。1 次の摂動で ϵ_n の縮退はすべて解かれているから、 $E_{n,\alpha}^{(1)} \neq E_{n,\beta}^{(1)}$ である。したがって、 $\beta \neq \alpha$ に対して、

$$\tilde{C}_{m,\alpha}^{(1)} = \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle = \frac{\langle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \tag{61}$$

をより、

$$\begin{aligned}
C_{\beta,\alpha}^{(1)} &= \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle = \sum_{m \neq n} \frac{1}{(E_{n,\alpha}^{(1)} - E_{n,\beta}^{(1)})} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= \sum_{m \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(E_{n,\alpha}^{(1)} - E_{n,\beta}^{(1)})(\epsilon_n - \epsilon_m)}, \quad \beta \neq \alpha
\end{aligned} \tag{62}$$

よって、固有状態の 1 次補正は

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle &= \hat{P} |\varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle + \hat{Q} |\varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle \\
&= \sum_{\beta=1}^N |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle \\
&= \sum_{\beta \neq \alpha} |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle \\
&= \sum_{\beta \neq \alpha} |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle C_{\beta,\alpha}^{(1)} + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \tilde{C}_{m,\alpha}^{(1)} \\
&= \sum_{m \neq n} \sum_{\beta \neq \alpha} |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)}\rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(E_{n,\alpha}^{(1)} - E_{n,\beta}^{(1)})(\epsilon_n - \epsilon_m)} + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (63)
\end{aligned}$$

以上の結果をまとめると、 λ の 1 次近似で固有状態 $|\varphi_{n,\alpha}\rangle$ は

$$|\varphi_n; \alpha\rangle = |\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle + \lambda |\varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle \quad (64)$$

$$= |\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle + \lambda \sum_{m \neq n} \left\{ \sum_{\beta \neq \alpha} |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)}\rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(E_{n,\alpha}^{(1)} - E_{n,\beta}^{(1)})(\epsilon_n - \epsilon_m)} + |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \right\} \quad (65)$$

で与えられる。

6.5 1 次摂動で縮退が解けなかった場合

1 次の摂動によって、縮退が解けなかった場合を考える。(32)

6.6 エネルギー固有値の補正值

1 次近似について考える。

$$(\epsilon_n - \hat{H}_0) |\varphi_n^{(2)}\rangle = (\hat{V} - E_n^{(1)}) |\varphi_n^{(1)}\rangle - E_n^{(2)} |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (66)$$

これに、左から $\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha |$ を書けると、

$$(\epsilon_n - \epsilon_n) \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(2)}\rangle = \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}\rangle - E_n^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(1)}\rangle - E_n^{(2)} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(0)}\rangle \quad (67)$$

$$= \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}\rangle - E_n^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(1)}\rangle - \sum_{\beta=1}^N E_n^{(2)} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle C_{\beta,\alpha} \quad (68)$$

左辺第一項は明らかにゼロ、右辺第二項もゼロ、よって

$$\sum_{\beta=1}^N E_n^{(2)} \delta_{\alpha,\beta} C_{\beta,\alpha} = \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}\rangle \quad (69)$$

を得る．ここで，右辺を次のように展開する：

$$\begin{aligned}
\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(1)} \rangle &= \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} \hat{1} | \varphi_n^{(1)} \rangle \\
&= \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} \hat{P} | \varphi_n^{(1)} \rangle + \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} \hat{Q} | \varphi_n^{(1)} \rangle \\
&= \sum_{\beta=1}^N \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)} \rangle + \sum_{m \neq n} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)} \rangle \\
&= \sum_{\beta=1}^N \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \sum_{m \neq n} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= \sum_{\beta=1}^N E_n^{(1)} \delta_{\alpha, \beta} \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
&= \sum_{\beta=1}^N E_{n, \alpha}^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \tag{70}
\end{aligned}$$

ここで，右辺第一項は 0，右辺第二項は

$$\begin{aligned}
\sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} &= \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \left(\sum_{\beta=1}^N | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle C_{\beta, \alpha} \right)}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
&= \sum_{\beta=1}^N \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} C_{\beta, \alpha} \tag{71}
\end{aligned}$$

以上より，

$$\sum_{\beta=1}^N \left[E_n^{(2)} \delta_{\alpha, \beta} - (\hat{V}^{(2)})_{\alpha, \beta} \right] C_{\beta, \alpha} = 0, \tag{72}$$

ここで，

$$(\hat{V}^{(2)})_{\alpha, \beta} \equiv \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \tag{73}$$

この C_β に関する斉 1 次連立方程式が 0 以外の解を持つためには， C_β の係数のつくる行列が 0 でなくてはならない．すなわち，固有値 $E_n^{(2)}$ は以下の特性方程式の解である：

$$\det (E_n^{(2)} \delta_{\alpha, \beta} - (\hat{V}^{(2)})_{\alpha, \beta}) = 0 \tag{74}$$

この固有値方程式は重解も含めて N 個の解： $E_{n, \alpha}^{(2)}$ ($\alpha = 1, 2, \dots, N$) を持つ．そして， N 個のそれぞれの解 $E_{n, \alpha}^{(2)}$ を行列方程式に代入し，規格化条件 $\sum_\beta |C_\beta| = 1$ のもとで，(407) を解くことにより，それぞれの解 $E_{n, \alpha}^{(2)}$ に対する係数が決定する．その係数を改めて $C_{\beta, \alpha}$ と書き，これに対応する固有ベクトルを

$$| \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle = \sum_{\beta=1}^N | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle C_{\beta, \alpha} \tag{75}$$

と書き直す．これで第0近似での固有状態を決めることができた．固有状態 $|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle$ を (67) の $|\varphi_n^{(0)}\rangle$ へ代入すると，

$$(\epsilon_n - \epsilon_n) \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle = \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle - E_n^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle - E^{(2)} \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \quad (76)$$

を得る．左辺と右辺第二項は $\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(k)}; \alpha \rangle = 0$ より，ゼロ．したがって，

$$E_n^{(2)} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle = \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle - E_n^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \quad (77)$$

右辺第二項を次のように展開する：

$$\begin{aligned} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle &= \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} \hat{1} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\ &= \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} \hat{P} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} \hat{Q} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\ &= \sum_{\beta=1}^N \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \sum_{m \neq n} \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\ &= \sum_{\beta=1}^N E_n^{(1)} \delta_{\gamma, \beta} \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\ &= E_n^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle + \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \end{aligned} \quad (78)$$

したがって， E_n^1 が重解のとき，

$$E_n^{(2)} \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle = \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (79)$$

ここで，係数 $C_{\gamma, \beta}^*$ をかけて， γ について和をとると，

$$\begin{aligned} E_n^{(2)} \sum_{\gamma} C_{\gamma, \beta}^* \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle &= \sum_{\gamma} C_{\gamma, \beta}^* \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\ E_n^{(2)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle &= \sum_{m \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \end{aligned} \quad (80)$$

となる．したがって，

$$E_n^{(2)} \delta_{\alpha, \beta} = \sum_{m \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (81)$$

$$E_n^{(2)} = \sum_{m \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (82)$$

を得る．これが，1 次で縮退が解けなかった場合における，縮退のある場合のエネルギーの2次の補正項である．

6.7

(74) の解に重根がなく，第 2 次近似で状態 $|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle$ のすべての縮退がとけたときの第 3 次近似のエネルギー補正項について計算する．まず (32) へ，状態ベクトル $\langle\varphi_m^{(0)}|$ をかけると，

$$(\epsilon_n - \epsilon_m) \langle\varphi_m^{(0)}|\varphi_n^{(2)}; \alpha\rangle = \langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle - E_n^{(1)} \langle\varphi_m^{(0)}|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle - E_n^{(2)} \langle\varphi_m^{(0)}|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle \quad (83)$$

ここで，右辺第 3 項は

$$\langle\varphi_m^{(0)}|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle = \sum_{\beta} C_{\beta, \alpha} \langle\varphi_m^{(0)}|\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle = 0 \quad (84)$$

となり， $\epsilon_n \neq \epsilon_m$ であるから，

$$(\epsilon_n - \epsilon_m) \langle\varphi_m^{(0)}|\varphi_n^{(2)}; \alpha\rangle = \langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle - E_n^{(1)} \tilde{C}_{m, \alpha}^{(1)} \quad (85)$$

ここで，右辺を次のように展開すると

$$\begin{aligned} \langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle &= \langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}\hat{1}|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle \\ &= \langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}\hat{P}|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle + \langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}\hat{P}|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle \\ &= \sum_{\beta=1}^N \langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \langle\varphi_n^{(0)}; \beta|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle + \sum_{p \neq n} \langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|\varphi_p^{(0)}\rangle \langle\varphi_p^{(0)}|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle \end{aligned} \quad (86)$$

ここで，

$$\tilde{C}_{p, \alpha}^{(1)} = \langle\varphi_p^{(0)}|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle = \frac{\langle\varphi_p^{(0)}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_p)} \quad (87)$$

を使うと，

$$\langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle = \sum_{\beta=1}^N \langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \langle\varphi_n^{(0)}; \beta|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle + \sum_{p \neq n} \frac{\langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|\varphi_p^{(0)}\rangle \langle\varphi_p^{(0)}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_p)} \quad (88)$$

となる．したがって，

$$\begin{aligned} \tilde{C}_{m, \alpha}^{(2)} &= \langle\varphi_m^{(0)}|\varphi_n^{(2)}; \alpha\rangle \\ &= \sum_{\beta=1}^N \frac{\langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \langle\varphi_n^{(0)}; \beta|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} + \sum_{p \neq n} \frac{\langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|\varphi_p^{(0)}\rangle \langle\varphi_p^{(0)}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} - E_n^{(1)} \frac{\tilde{C}_{m, \alpha}^{(1)}}{(\epsilon_n - \epsilon_p)} \end{aligned} \quad (89)$$

を得る．

6.8 固有状態について

ここでは (??) が成立するときの固有状態を第 2 近似で求める．(33) に左から $\langle\varphi_n^{(0)}; \beta|$, ($\beta \neq \alpha$)，をかけると

$$\begin{aligned} (\epsilon_n - \epsilon_n) \langle\varphi_n^{(0)}; \beta|\varphi_n^{(3)}; \alpha\rangle &= \langle\varphi_n^{(0)}; \beta|\hat{V}|\varphi_n^{(2)}; \alpha\rangle - E_{n, \alpha}^{(1)} \langle\varphi_n^{(0)}; \beta|\varphi_n^{(2)}; \alpha\rangle \\ &\quad - E_{n, \alpha}^{(2)} \langle\varphi_n^{(0)}; \beta|\varphi_n^{(1)}; \alpha\rangle - E_{n, \alpha}^{(3)} \langle\varphi_n^{(0)}; \beta|\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle \end{aligned} \quad (90)$$

ここで、第 4 項もまた $\langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle = 0$ となるから

$$E_{n,\alpha}^{(2)} \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle = \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle - E_{n,\alpha}^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle \quad (91)$$

$$E_{n,\alpha}^{(2)} C_{\beta,\alpha}^{(1)} = \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle - E_{n,\alpha}^{(1)} C_{\beta,\alpha}^{(2)} \quad (92)$$

ここで右辺第一項に、完全性関係 $\hat{1} = \hat{P} + \hat{Q}$ を代入すると、

$$\begin{aligned} \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle &= \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} \hat{1} | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle \\ &= \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} \hat{P} | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle + \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} \hat{Q} | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle \\ &= \sum_{\gamma=1}^N \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \gamma \rangle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle + \sum_{m \neq n} \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle \\ &= \sum_{\gamma=1}^N E_{n,\beta}^{(1)} \delta_{\beta,\gamma} \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle + \sum_m \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle \\ &= E_{n,\gamma}^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle + \sum_m \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle \\ &= E_{n,\gamma}^{(1)} C_{\gamma,\alpha}^{(2)} + \sum_m \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \tilde{C}_{m,\alpha}^{(2)} \end{aligned} \quad (93)$$

となる。 $E_n^{(1)} = 0$ を仮定すると

$$E_{n,\alpha}^{(2)} C_{\beta,\alpha}^{(1)} = \sum_m \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \tilde{C}_{m,\alpha}^{(2)} \quad (94)$$

を得る。上式に

$$\begin{aligned} \tilde{C}_{m,\alpha}^{(2)} &= \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(2)}; \alpha \rangle \\ &= \sum_{\beta=1}^N \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} + \sum_{p \neq n} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} - E_n^{(1)} \frac{\tilde{C}_{m,\alpha}^{(1)}}{(\epsilon_n - \epsilon_p)} \end{aligned} \quad (95)$$

を代入すると

$$\begin{aligned}
E_{n,\alpha}^{(2)} C_{\beta,\alpha}^{(1)} &= \sum_{m \neq n} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \\
&\quad \times \left[\sum_{\beta=1}^N \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} + \sum_{p \neq n} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} - E_n^{(1)} \frac{\tilde{C}_{m,\alpha}^{(1)}}{(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right] \\
&= \sum_{m \neq n} \left[\sum_{\beta=1}^N \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \right. \\
&\quad + \sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \tag{96}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
&= \sum_{m \neq n} \left[\sum_{\beta=1}^N \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \right. \\
&\quad + \sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \left. \right] \\
&\quad - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \tag{97}
\end{aligned}$$

ここで、右辺第一項は

$$\begin{aligned}
&\sum_{m \neq n} \sum_{\beta=1}^N \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
&= \sum_{\beta=1}^N \sum_{m \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= \sum_{\beta=1}^N E_{n,\gamma}^{(2)} \delta_{\gamma,\beta} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle \\
&= E_{n,\beta}^{(2)} \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_n^{(1)}; \alpha \rangle = E_{n,\beta}^{(2)} C_{\beta,\alpha}^{(1)} \tag{98}
\end{aligned}$$

となるから,

$$\begin{aligned}
E_{n,\alpha}^{(2)} C_{\beta,\alpha}^{(1)} &= E_{n,\beta}^{(2)} C_{\beta,\alpha}^{(1)} + \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
\therefore (E_{n,\alpha}^{(2)} - E_{n,\beta}^{(2)}) C_{\beta,\alpha}^{(1)} &= \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \quad (99)
\end{aligned}$$

したがって,

$$\begin{aligned}
C_{\beta,\alpha}^{(1)} &= \frac{1}{(E_{n,\alpha}^{(2)} - E_{n,\beta}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \quad (100)
\end{aligned}$$

よって, 固有状態の1次補正は

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle &= \hat{P} |\varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle + \hat{Q} |\varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle \\
&= \sum_{\beta=1}^N |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_{n,\alpha}^{(1)} \rangle + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_{n,\alpha}^{(1)} \rangle \\
&= \sum_{\beta \neq \alpha} |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_{n,\alpha}^{(1)} \rangle + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_{n,\alpha}^{(1)} \rangle \\
&= \sum_{\beta \neq \alpha} |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \langle \langle \varphi_n^{(0)}; \beta | \varphi_{n,\alpha}^{(1)} \rangle + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_{n,\alpha}^{(1)} \rangle \\
&= \sum_{\beta \neq \alpha} |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \frac{1}{(E_{n,\alpha}^{(2)} - E_{n,\beta}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (101)
\end{aligned}$$

以上の結果をまとめると、 λ の 1 次近似で固有状態 $|\varphi_{n,\alpha}\rangle$ は

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,\alpha}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle + \lambda |\varphi_{n,\alpha}^{(1)}\rangle \\
&= |\varphi_n^{(0)}; \alpha\rangle + \lambda \sum_{\beta \neq \alpha} |\varphi_n^{(0)}; \beta\rangle \frac{1}{(E_{n,\alpha}^{(2)} - E_{n,\beta}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \alpha \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)}
\end{aligned} \tag{102}$$

で与えられる。

7 縮退のない場合

7.1 1 次摂動

■固有エネルギーの 1 次摂動

はじめに固有エネルギーの 1 次摂動 $E_n^{(1)}$ を求める。(31) を次のように整理する：

$$(E_n^{(1)} - \hat{V}) |\varphi_n^{(0)}\rangle = (\hat{H}_0 - \epsilon_n) |\varphi_n^{(1)}\rangle \tag{104}$$

(104) の両辺に左から、 $\langle \varphi_n^{(0)} |$ をかけると、

$$\langle \varphi_n^{(0)} | (E_n^{(1)} - \hat{V}) | \varphi_n^{(0)} \rangle = \langle \varphi_n^{(0)} | (\hat{H}_0 - \epsilon_n) | \varphi_n^{(1)} \rangle \tag{105}$$

となる。ここで、 $|\varphi_n^{(1)}\rangle$ を正規直交完全系 $\{|\varphi_n^{(0)}\rangle\}_{n=1,2,3,\dots}$ で展開すると

$$|\varphi_n^{(1)}\rangle = \sum_{m=1}^{\infty} C_m |\varphi_m^{(0)}\rangle, \quad C_m = \langle \varphi_n^{(0)} | \varphi_n^{(1)} \rangle \tag{106}$$

と展開できる。(106) を (105) へ代入すると

$$\langle \varphi_n^{(0)} | (E_n^{(1)} - \hat{V}) | \varphi_n^{(0)} \rangle = \sum_{m=1}^{\infty} \langle \varphi_n^{(0)} | (\hat{H}_0 - \epsilon_n) | C_m \varphi_m^{(0)} \rangle \tag{107}$$

となる。このとき、(107) の左辺は、

$$\begin{aligned}
\langle \varphi_n^{(0)} | (E_n^{(1)} - \hat{V}) | \varphi_n^{(0)} \rangle &= \langle \varphi_n^{(0)} | E_n^{(1)} | \varphi_n^{(0)} \rangle - \langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \\
&= E_n^{(1)} - \langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle
\end{aligned} \tag{108}$$

となる。また、(107)の右辺は $\hat{H}_0 |\varphi_m^{(0)}\rangle = \epsilon_m |\varphi_m^{(0)}\rangle$ より、

$$\begin{aligned} \sum_{m=1}^{\infty} \langle \varphi_n^{(0)} | (\hat{H}_0 - \epsilon_n) | C_m \varphi_m^{(0)} \rangle &= \sum_{m=1}^{\infty} \langle \varphi_n^{(0)} | (\epsilon_m - \epsilon_n) C_m | \varphi_m^{(0)} \rangle \\ &= \sum_{m=1}^{\infty} (\epsilon_m - \epsilon_n) C_m \langle \varphi_n^{(0)} | \varphi_m^{(0)} \rangle \\ &= \sum_{m=1}^{\infty} (\epsilon_m - \epsilon_n) C_m \delta_{n,m} \end{aligned} \quad (109)$$

となる。ここで $\delta_{n,m}$ はクロネッカーのデルタである。(109)の右辺に対して、 m で和をとると、 $m \neq n$ の項では $\delta_{n,m} = 0$ に、 $m = n$ の項では $(\epsilon_m - \epsilon_n) = 0$ となる。したがって、(109)は恒等的に0となることがわかる。

$$\therefore \sum_{m=1}^{\infty} \langle \varphi_n^{(0)} | (\hat{H}_0 - \epsilon_n) | C_m \varphi_m^{(0)} \rangle = 0 \quad (110)$$

よって、(107)は

$$\langle \varphi_n^{(0)} | (E_n^{(1)} - \hat{V}) | \varphi_n^{(0)} \rangle = 0 \quad (111)$$

となる。したがって、固有エネルギーの1次の摂動は

$$E_n^{(1)} = \langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \quad (112)$$

と求まる。すでにわかっている固有状態 $|\varphi_n^{(0)}\rangle$ に対する摂動 \hat{V} の期待値を求めることで $E_n^{(1)}$ を求めることができる。これは、極めて重要なことである。 $|\varphi_n^{(0)}\rangle$ にとって、摂動 \hat{V} の影響はどれくらいか、(112)を用いて、調べるのできるのである。まとめると、固有エネルギーの1次の近似は

$$E_n \simeq E_n^{(0)} + \lambda E_n^{(1)} = \epsilon_n + \langle \varphi_n^{(0)} | \lambda \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \quad (113)$$

で与えられる。

■固有状態の1次摂動

次に固有状態の1次摂動 $|\varphi_n^{(1)}\rangle$ を求める。(104)の両辺に左から、 $\langle \varphi_m^{(0)} |$ をかけると、

$$\begin{aligned} \langle \varphi_m^{(0)} | (E_n^{(1)} - \hat{V}) | \varphi_n^{(0)} \rangle &= \langle \varphi_m^{(0)} | (\hat{H}_0 - \epsilon_n) | \varphi_n^{(1)} \rangle \\ &= \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{H}_0 | \varphi_n^{(1)} \rangle - \epsilon_n \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)} \rangle \end{aligned} \quad (114)$$

となる。(114)の右辺第1項について、共役をとり、 \hat{H}_0 のエルミート性 $\hat{H}_0^\dagger = \hat{H}_0$ を用いると

$$\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{H}_0 | \varphi_n^{(1)} \rangle^* = \langle \varphi_n^{(1)} | \hat{H}_0^\dagger | \varphi_m^{(0)} \rangle = \langle \varphi_n^{(1)} | \hat{H}_0 | \varphi_m^{(0)} \rangle = \epsilon_m \langle \varphi_n^{(1)} | \varphi_m^{(0)} \rangle \quad (115)$$

そして、もう一度上式に対して共役をとると、

$$\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{H}_0 | \varphi_n^{(1)} \rangle = \epsilon_m^* \langle \varphi_n^{(1)} | \varphi_m^{(0)} \rangle^* = \epsilon_m \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(1)} \rangle \quad (116)$$

となる。よって、(114) は

$$\left\langle \varphi_m^{(0)} \left| (E_n^{(1)} - \hat{V}) \right| \varphi_n^{(0)} \right\rangle = (\epsilon_m - \epsilon_n) \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| \varphi_n^{(1)} \right\rangle \right. \quad (117)$$

となる。ここで再び、 $|\varphi_n^{(1)}\rangle$ を正規直交完全系 $\{|\varphi_n^{(0)}\rangle\}_{n=1,2,3,\dots}$ で展開し、

$$|\varphi_n^{(1)}\rangle = \sum_{k=1}^{\infty} C_k |\varphi_k^{(0)}\rangle, \quad C_k = \left\langle \varphi_n^{(0)} \left| \varphi_n^{(1)} \right\rangle \right. \quad (118)$$

(118) を (117) へ代入すると

$$\left\langle \varphi_m^{(0)} \left| (E_n^{(1)} - \hat{V}) \right| \varphi_n^{(0)} \right\rangle = \sum_{k=1}^{\infty} (\epsilon_m - \epsilon_n) \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| C_k \varphi_k^{(0)} \right\rangle \right. \quad (119)$$

となる。このとき、(119) の左辺は、

$$\begin{aligned} \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| (E_n^{(1)} - \hat{V}) \right| \varphi_n^{(0)} \right\rangle &= \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| E_n^{(1)} \right| \varphi_n^{(0)} \right\rangle - \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| \hat{V} \right| \varphi_n^{(0)} \right\rangle \\ &= E_n^{(1)} \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| \varphi_n^{(0)} \right\rangle \right\rangle - \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| \hat{V} \right| \varphi_n^{(0)} \right\rangle \\ &= - \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| \hat{V} \right| \varphi_n^{(0)} \right\rangle \end{aligned} \quad (120)$$

となる。最後の等式で、 $\langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(0)} \rangle = 0$ を用いた。また、(119) の右辺は $\hat{H}_0 |\varphi_m^{(0)}\rangle = \epsilon_m |\varphi_m^{(0)}\rangle$ より、

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^{\infty} (\epsilon_m - \epsilon_n) \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| C_k \varphi_k^{(0)} \right\rangle \right\rangle &= \sum_{k=1}^{\infty} (\epsilon_m - \epsilon_n) C_k \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| \varphi_k^{(0)} \right\rangle \right\rangle \\ &= \sum_{k=1}^{\infty} (\epsilon_m - \epsilon_n) C_k \delta_{m,k} \end{aligned} \quad (121)$$

となる。ここで $\delta_{m,k}$ はクロネッカーのデルタである。(121) の右辺に対して、 k で和をとると、 $k = m$ の項のみ残る。したがって、(109) は

$$\sum_{k=1}^{\infty} (\epsilon_m - \epsilon_n) \langle \varphi_m^{(0)} | C_k \varphi_k^{(0)} \rangle = (\epsilon_m - \epsilon_n) C_m \quad (122)$$

よって、(119) は

$$- \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| \hat{V} \right| \varphi_n^{(0)} \right\rangle = (\epsilon_m - \epsilon_n) C_m \quad (123)$$

となる。 $m \neq n$ のとき、 $(\epsilon_m - \epsilon_n) \neq 0$ であるから、展開係数 C_m は

$$C_m = \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (124)$$

と求まる。展開係数 (124) を用いて、 $|\varphi_n^{(1)}\rangle$ を展開すれば、固有状態の 1 次摂動

$$|\varphi_n^{(1)}\rangle = \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} C_m |\varphi_m^{(0)}\rangle = \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} |\varphi_m^{(0)}\rangle \quad (125)$$

と求まる．ここで， $\sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty}$ は $m = n$ を除いて， m について和をとることを意味する． $m = n$ を除き和をとるという条件は展開係数 C_m を決めるときの $m \neq n$ からきている．まとめると，固有状態の 1 次の近似は

$$|\varphi_n\rangle \simeq |\varphi_n^{(0)}\rangle + \lambda |\varphi_n^{(1)}\rangle = |\varphi_n^{(0)}\rangle + \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \lambda \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} |\varphi_m^{(0)}\rangle \quad (126)$$

で与えられる．

7.2 2 次摂動

■固有エネルギーの 2 次摂動

はじめに固有エネルギーの 2 次摂動 $E_n^{(2)}$ を求める．(32) を次のように整理する：

$$(\hat{V} - E_n^{(1)}) |\varphi_n^{(1)}\rangle = (\epsilon_n - \hat{H}_0) |\varphi_n^{(2)}\rangle + E_n^{(2)} |\varphi_n^{(0)}\rangle \quad (127)$$

(127) の両辺に左から， $\langle \varphi_n^{(0)} |$ をかけると，

$$\langle \varphi_n^{(0)} | (\hat{V} - E_n^{(1)}) |\varphi_n^{(1)}\rangle = \langle \varphi_n^{(0)} | (\epsilon_n - \hat{H}_0) |\varphi_n^{(2)}\rangle + E_n^{(2)} \quad (128)$$

となる．このとき，(128) の左辺は，

$$\langle \varphi_n^{(0)} | (\hat{V} - E_n^{(1)}) |\varphi_n^{(1)}\rangle = \langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} |\varphi_n^{(1)}\rangle - \langle \varphi_n^{(0)} | E_n^{(1)} |\varphi_n^{(1)}\rangle \quad (129)$$

となる．(129) の第 1 項に (125) を代入すると

$$\begin{aligned} \langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} |\varphi_n^{(1)}\rangle &= \langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} \left(\sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} |\varphi_m^{(0)}\rangle \right) \\ &= \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \end{aligned} \quad (130)$$

また，(129) の第 2 項に (125) を代入すると

$$\begin{aligned} \langle \varphi_n^{(0)} | E_n^{(1)} |\varphi_n^{(1)}\rangle &= E_n^{(1)} \langle \varphi_n^{(0)} | \left(\sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} |\varphi_m^{(0)}\rangle \right) \\ &= E_n^{(1)} \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \langle \varphi_n^{(0)} | \varphi_m^{(0)} \rangle \\ &= E_n^{(1)} \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \delta_{n,m} \end{aligned} \quad (131)$$

となる。最後の項で $m = n$ は除いて m について和をとれば、 $\delta_{n,m} = 0$ となるから、結局

$$\langle \varphi_n^{(0)} | E_n^{(1)} | \varphi_n^{(1)} \rangle = 0 \quad (132)$$

である。

次に、(128) の右辺を計算する。 $|\varphi_n^{(2)}\rangle$ を正規直交完全系 $\{|\varphi_n^{(0)}\rangle\}_{n=1,2,3,\dots}$ を用いて展開する。

$$|\varphi_n^{(2)}\rangle = \sum_{k=1}^{\infty} C'_k |\varphi_k^{(0)}\rangle, \quad C'_k = \langle \varphi_n^{(0)} | \varphi_n^{(2)} \rangle \quad (133)$$

(133) を (128) の右辺第 1 項へ代入すると

$$\begin{aligned} \langle \varphi_n^{(0)} | (\epsilon_n - \hat{H}_0) | \varphi_n^{(2)} \rangle &= \langle \varphi_n^{(0)} | (\epsilon_n - \hat{H}_0) | \varphi_n^{(2)} \rangle \\ &= \sum_{k=1}^{\infty} \langle \varphi_n^{(0)} | (\epsilon_n - \hat{H}_0) | C'_k \varphi_k^{(0)} \rangle \\ &= \sum_{k=1}^{\infty} (\epsilon_n - \epsilon_k) C'_k \langle \varphi_n^{(0)} | \varphi_k^{(0)} \rangle \\ &= \sum_{k=1}^{\infty} (\epsilon_n - \epsilon_k) C'_k \delta_{n,k} = 0 \end{aligned} \quad (134)$$

となる。(130), (132), (134) より、固有エネルギーの 2 次の摂動は

$$E_n^{(2)} = \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (135)$$

と求まる。まとめると、固有エネルギーの 2 次の近似は

$$\begin{aligned} E_n &\simeq E_n^{(0)} + \lambda E_n^{(1)} + \lambda^2 E_n^{(2)} \\ &= \epsilon_n + \langle \varphi_n^{(0)} | \lambda \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle + \lambda^2 \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \end{aligned} \quad (136)$$

で与えられる。

■固有状態の 2 次摂動

次に固有状態の 2 次摂動 $|\varphi_n^{(2)}\rangle$ を求める。(127) の両辺に左から、 $\langle \varphi_m^{(0)} |$ をかけると、

$$\langle \varphi_m^{(0)} | (\hat{V} - E_n^{(1)}) | \varphi_n^{(1)} \rangle = \langle \varphi_m^{(0)} | (\epsilon_n - \hat{H}_0) | \varphi_n^{(2)} \rangle + E_n^{(2)} \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_n^{(0)} \rangle \quad (137)$$

となる。このとき、(137) の左辺は、

$$\langle \varphi_m^{(0)} | (\hat{V} - E_n^{(1)}) | \varphi_n^{(1)} \rangle = \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(1)} \rangle - \langle \varphi_m^{(0)} | E_n^{(1)} | \varphi_n^{(1)} \rangle \quad (138)$$

となる. (138) の第 1 項に (125) を代入すると (ただし, 和をとる記号は $m \rightarrow k$ と変える.)

$$\begin{aligned} \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| \hat{V} \right| \varphi_n^{(1)} \right\rangle &= \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} \left(\sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)} | \varphi_k^{(0)} \rangle \right) \\ &= \sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_k^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)} \end{aligned} \quad (139)$$

また, (138) の第 2 項に (125) を代入すると,

$$\begin{aligned} \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| E_n^{(1)} \right| \varphi_n^{(1)} \right\rangle &= E_n^{(1)} \langle \varphi_m^{(0)} | \left(\sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)} | \varphi_k^{(0)} \rangle \right) \\ &= E_n^{(1)} \sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)} \langle \varphi_m^{(0)} | \varphi_k^{(0)} \rangle \\ &= E_n^{(1)} \sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)} \delta_{m,k} = E_n^{(1)} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\ &= \frac{\langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \end{aligned} \quad (140)$$

となる. 最後の等式で $E_n^{(1)}$ へ (112) を代入した.

次に, (137) の右辺を計算する. $|\varphi_n^{(2)}\rangle$ を正規直交完全系 $\{|\varphi_n^{(0)}\rangle\}_{n=1,2,3,\dots}$ を用いて展開する.

$$|\varphi_n^{(2)}\rangle = \sum_{l=1}^{\infty} C'_l |\varphi_l^{(0)}\rangle, \quad C'_l = \left\langle \varphi_n^{(0)} \left| \varphi_n^{(2)} \right\rangle \quad (141)$$

(141) を (137) の右辺第 1 項へ代入すると

$$\begin{aligned} \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| (\epsilon_n - \hat{H}_0) \right| \varphi_n^{(2)} \right\rangle &= \sum_{l=1}^{\infty} \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| (\epsilon_n - \hat{H}_0) \right| C'_l \varphi_l^{(0)} \right\rangle \\ &= \sum_{l=1}^{\infty} (\epsilon_n - \epsilon_l) C'_l \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| \varphi_l^{(0)} \right\rangle \right\rangle \\ &= \sum_{l=1}^{\infty} (\epsilon_n - \epsilon_l) C'_l \delta_{m,l} = (\epsilon_n - \epsilon_m) C'_m \end{aligned} \quad (142)$$

となる. そして, (137) 右辺第 2 項に (135) を代入すると,

$$E_n^{(2)} \left\langle \varphi_m^{(0)} \left| \varphi_n^{(0)} \right\rangle \right\rangle = \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \delta_{m,n} = 0 \quad (143)$$

となる。最後の項では、 $m = n$ を除いて、 m で和をとったとき、 $\delta_{m,n} = 0$ となることを用いた。(139), (140), (142), (143) より, (137) は

$$\left(\sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_k^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)} \right) - \frac{\langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} = (\epsilon_n - \epsilon_m) C'_m \quad (144)$$

となる。 $m \neq n$ のとき、 $(\epsilon_m - \epsilon_n) \neq 0$ であるから、展開係数 C_m は

$$C'_m = \left(\sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_k^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)(\epsilon_n - \epsilon_m)} \right) - \frac{\langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \quad (145)$$

と求まる。展開係数 (145) を用いて、 $|\varphi_n^{(2)}\rangle$ を展開すれば、固有状態の 2 次摂動

$$\begin{aligned} |\varphi_n^{(2)}\rangle &= \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} C'_m |\varphi_m^{(0)}\rangle \\ &= \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \left[\left(\sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_k^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)(\epsilon_n - \epsilon_m)} \right) - \frac{\langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] |\varphi_m^{(0)}\rangle \end{aligned} \quad (146)$$

と求まる。まとめると、固有状態の 2 次の近似は

$$\begin{aligned} |\varphi_n\rangle &\simeq |\varphi_n^{(0)}\rangle + \lambda |\varphi_n^{(1)}\rangle + \lambda^2 |\varphi_n^{(2)}\rangle \\ &= |\varphi_n^{(0)}\rangle + \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_n^{(0)} | \lambda \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} |\varphi_m^{(0)}\rangle \\ &\quad + \lambda^2 \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \left[\left(\sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_k^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)(\epsilon_n - \epsilon_m)} \right) - \frac{\langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] |\varphi_m^{(0)}\rangle \end{aligned} \quad (147)$$

で与えられる。

7.3 摂動論が有効なための条件

摂動論が有効なためには、摂動によって生まれる補正が小さいものでなければならない。その場合には、1 次の摂動論の計算で十分である。しかし、固有エネルギー、または固有状態の 1 次の摂動を計算したときに、たまたま 0 となったときには、2 次の摂動を計算する必要がある。

状態 $|\varphi_n\rangle$ の 1 次の摂動が小さいための条件は、(125) から、

$$\begin{aligned} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} &\ll 1 \\ \therefore \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle &\ll (\epsilon_n - \epsilon_m) \end{aligned} \quad (148)$$

がすべての $m \neq n$ に対して成り立つことである。つまり、摂動 \hat{V} の行列要素 $\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle$ に比べて、非摂動固有エネルギーの準位の差が十分大きくなければならない。

第 III 部

KPO に対する摂動論 version1

ここでは、基底状態と第 8 励起状態が縮退する場合の KPO の有効モデルを用いる。その Hamiltonian の基底状態を縮退のある時間に依存しない摂動論を用いて、解析的に計算する。

8 $n = 0$ と 8 が縮退する場合

8.1 有効モデルの定義

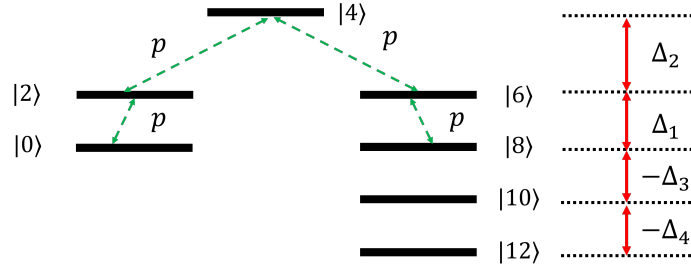


図 6 有効模型の概念図

$$\begin{aligned}
 \hat{H}_{\text{KPO}}^{\text{eff}} &= \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} E_0 & p_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ p_1 & E_2 & p_2 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & p_2 & E_4 & p_3 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & p_3 & E_6 & p_4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_4 & E_8 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & E_{10} & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & E_{12} \end{pmatrix} \end{matrix} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & p_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ p_1 & \Delta_1 & p_2 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & p_2 & \Delta_2 & p_3 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & p_3 & \Delta_1 & p_4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_4 & 0 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & -\Delta_3 & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & -\Delta_4 \end{pmatrix} \end{matrix} \\
&= \hat{H}_0 + \hat{V} \tag{149}
\end{aligned}$$

ここで、この有効模型の非摂動 Hamiltonian \hat{H}_0^{eff} と摂動 Hamiltonian \hat{V}^{eff} はそれぞれ以下のように与える：

$$\hat{H}_0^{\text{eff}} = \begin{array}{c} \begin{array}{ccccccc} \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ |0\rangle & \left(\begin{array}{ccccccc} 0 & p & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ |2\rangle & p & \Delta_1 & p & 0 & 0 & 0 \\ |4\rangle & 0 & p & \Delta_2 & p & 0 & 0 \\ |6\rangle & 0 & 0 & p & \Delta_1 & p & 0 \\ |8\rangle & 0 & 0 & 0 & p & 0 & 0 \\ |10\rangle & 0 & 0 & 0 & 0 & -\Delta_3 & 0 \\ |12\rangle & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & -\Delta_4 \end{array} \right) \end{array} \end{array}$$

$$\hat{V}^{\text{eff}} = \begin{array}{c} \begin{array}{ccccccc} \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ |0\rangle & \left(\begin{array}{ccccccc} 0 & p_1 - p & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ |2\rangle & p_1 - p & 0 & p_2 - p & 0 & 0 & 0 \\ |4\rangle & 0 & p_2 - p & 0 & p_3 - p & 0 & 0 \\ |6\rangle & 0 & 0 & p_3 - p & 0 & p_4 - p & 0 \\ |8\rangle & 0 & 0 & 0 & p_4 - p & 0 & p_5 \\ |10\rangle & 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & 0 \\ |12\rangle & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 \end{array} \right) \end{array} \end{array} \quad (150)$$

$$= \begin{array}{c} \begin{array}{ccccccc} \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ |0\rangle & \left(\begin{array}{ccccccc} 0 & \sqrt{2 \cdot 1}p & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ |2\rangle & \sqrt{2 \cdot 1}p & 0 & \sqrt{4 \cdot 3}p & 0 & 0 & 0 \\ |4\rangle & 0 & \sqrt{4 \cdot 3}p & 0 & \sqrt{6 \cdot 5}p & 0 & 0 \\ |6\rangle & 0 & 0 & \sqrt{6 \cdot 5}p & 0 & \sqrt{8 \cdot 7}p & 0 \\ |8\rangle & 0 & 0 & 0 & \sqrt{8 \cdot 7}p & 0 & \sqrt{10 \cdot 9}p \\ |10\rangle & 0 & 0 & 0 & 0 & \sqrt{10 \cdot 9}p & 0 \\ |12\rangle & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & \sqrt{12 \cdot 11}p \end{array} \right) \end{array} \end{array} \quad (151)$$

ここで、 $p_1 = \sqrt{2 \cdot 1}p$, $p_2 = \sqrt{4 \cdot 3}p$, $p_3 = \sqrt{6 \cdot 5}p$, $p_4 = \sqrt{8 \cdot 7}p$, $p_5 = \sqrt{10 \cdot 9}p$, $p_6 = \sqrt{12 \cdot 11}p$ である。

8.2

次に、この有効模型の非摂動 Hamiltonian \hat{H}_0^{eff} に注目する。この Hamiltonian \hat{H}_0^{eff} は Block 対角化されており、 $\{|0\rangle, |2\rangle, |4\rangle, |6\rangle, |8\rangle\}$ と $|10\rangle, |12\rangle$ で張られる部分空間に分けることができ、Hamiltonian は以下のように書き直すことができる：

$$\hat{H}_0^{\text{eff}} = \hat{H}_0^{0 \rightarrow 8} \oplus \hat{H}_0^{10,12} \quad (152)$$

ここで、

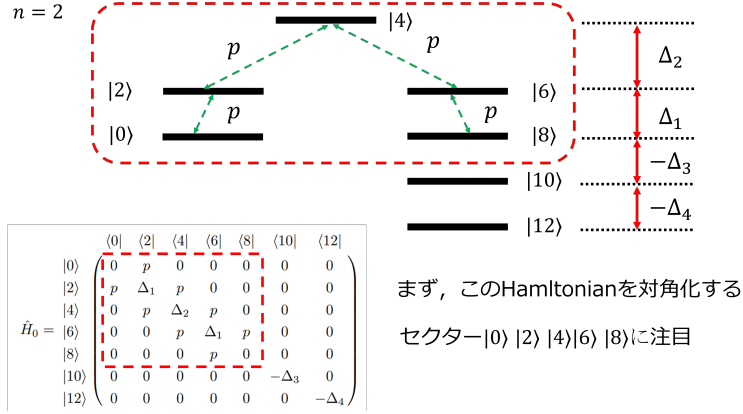


図 7 有効模型の概念図

$$\hat{H}_0^{0 \rightarrow 8} = \begin{pmatrix} \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| \\ |0\rangle & 0 & p & 0 & 0 & 0 \\ |2\rangle & p & \Delta_1 & p & 0 & 0 \\ |4\rangle & 0 & p & \Delta_2 & p & 0 \\ |6\rangle & 0 & 0 & p & \Delta_1 & p \\ |8\rangle & 0 & 0 & 0 & p & 0 \end{pmatrix} \quad (153)$$

$$\hat{H}_0^{10,12} = \begin{pmatrix} \langle 10| & \langle 12| \\ |10\rangle & -\Delta_3 & 0 \\ |12\rangle & 0 & -\Delta_4 \end{pmatrix} \quad (154)$$

である。Hamiltonian $\hat{H}_0^{0 \rightarrow 8}$ を対角化する。

これを実行するために、まず、 $\{|2\rangle, |4\rangle, |6\rangle\}$ で張られる部分空間を考え、その空間における Hamiltonian $\hat{H}^{2,4,6}$ を以下のように定義する：

$$\hat{H}^{2,4,6} = \begin{pmatrix} \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| \\ |2\rangle & \Delta_1 & p & 0 \\ |4\rangle & p & \Delta_2 & p \\ |6\rangle & 0 & p & \Delta_1 \end{pmatrix} \quad (155)$$

ここで、 $\Delta_1 > \Delta_2$ を仮定する。この Hamiltonian を対角化し、エネルギー固有値とエネルギー固有状態を求

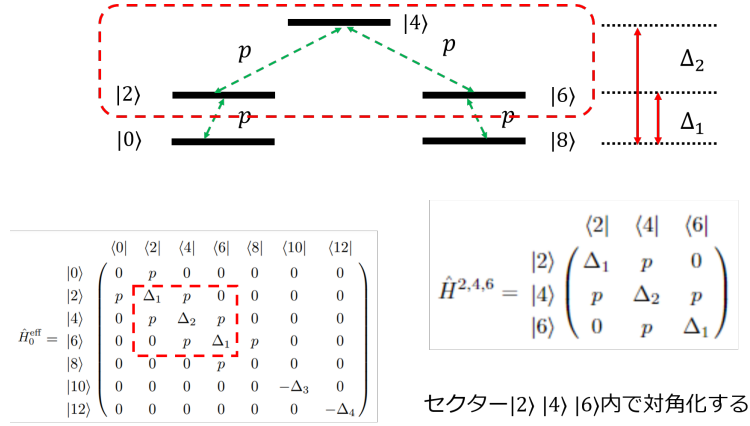


図 8 有効模型の概念図

めると以下のように得られる：

$$E_{D_{2,6}} = \Delta_1 \quad (156)$$

$$\begin{aligned} E_{B_{2,6}} &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 8p^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - \sqrt{(\Delta_2 - \Delta_1)^2 + 8p^2} \right) \end{aligned} \quad (157)$$

$$\begin{aligned} E_4 &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 + \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 8p^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 + \sqrt{(\Delta_2 - \Delta_1)^2 + 8p^2} \right) \end{aligned} \quad (158)$$

ここで、 $E_{D_{2,6}} > E_{B_{2,6}} > E_4$ である．固有状態は $|2\rangle, |4\rangle, |6\rangle$ の基底で展開すれば以下のように得られる：

$$|\psi_D\rangle = C_0 \{-1, 0, 1\} \quad (159)$$

$$\begin{aligned} |\psi_B\rangle &= C_1 \left\{ 1, -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 + \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 8p^2}}{2p}, 1 \right\} \\ &= C_1 \left\{ 1, -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 + \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 8p^2}}{2p}, 1 \right\} \\ &= C_1 \{1, \epsilon_+(\Delta_1, \Delta_2, p), 1\} \end{aligned} \quad (160)$$

$$\begin{aligned} |\psi_4\rangle &= C_2 \left\{ 1, -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 8p^2}}{2p}, 1 \right\} \\ &= C_2 \{1, \epsilon_-(\Delta_1, \Delta_2, p), 1\} \end{aligned} \quad (161)$$

$$\epsilon_{\pm}(\Delta_1, \Delta_2, p) = -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 \pm \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 8p^2}}{2p} \quad (162)$$

規格化すると,

$$|D\rangle \equiv |\psi_0\rangle = \begin{pmatrix} -\frac{1}{\sqrt{2}} \\ 0 \\ \frac{1}{\sqrt{2}} \end{pmatrix} \quad (163)$$

$$|4\rangle \equiv |\psi_1\rangle = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_+|^2+2}} \\ -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 + \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 8p^2}}{2p_2\sqrt{|\epsilon_+|^2+2}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_+|^2+2}} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_+|^2+2}} \\ \frac{\epsilon_+}{\sqrt{|\epsilon_+|^2+2}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_+|^2+2}} \end{pmatrix} \quad (164)$$

$$|B\rangle \equiv |\psi_2\rangle = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_-|^2+2}} \\ -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 8p^2}}{2p_2\sqrt{|\epsilon_-|^2+2}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_-|^2+2}} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_-|^2+2}} \\ \frac{\epsilon_-}{\sqrt{|\epsilon_-|^2+2}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_-|^2+2}} \end{pmatrix} \quad (165)$$

を得る. $\Delta_1 < \Delta_2$ の場合は, $|B\rangle$ と $|4\rangle$ の正負が入れ替わることに注意. パラメトリックドライブの振幅が十分小さいことを仮定すれば, 固有状態として,

$$|D_{2,6}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-|2\rangle + |6\rangle) \quad (166)$$

$$|B_{2,6}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|2\rangle + |6\rangle) \quad (167)$$

を定義できる.

8.3

部分空間 $\{|2\rangle, |4\rangle, |6\rangle\}$ 内で, 対角化することができたため, これで, $|2\rangle$ と $|6\rangle$ の縮退を解くことができた. したがって, 次に, Hamiltonian $\hat{H}_0^{0 \rightarrow 8}$ に対して, 縮退する摂動論を適用し, そのエネルギー固有値と対応するエネルギー固有状態を求めていくことにする.

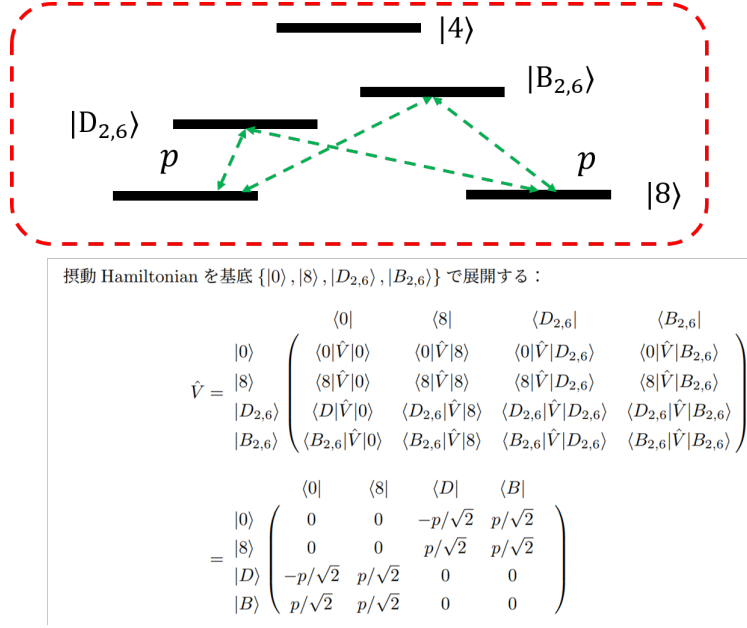


図 9 有効模型の概念図

そのために、まず、摂動 Hamiltonian を基底 $\{|0\rangle, |8\rangle, |D_{2,6}\rangle, |B_{2,6}\rangle\}$ で展開する：

$$\hat{V} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 8| & \langle D_{2,6}| & \langle B_{2,6}| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |8\rangle \\ |D_{2,6}\rangle \\ |B_{2,6}\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} \langle 0|\hat{V}|0\rangle & \langle 0|\hat{V}|8\rangle & \langle 0|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle 0|\hat{V}|B_{2,6}\rangle \\ \langle 8|\hat{V}|0\rangle & \langle 8|\hat{V}|8\rangle & \langle 8|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle 8|\hat{V}|B_{2,6}\rangle \\ \langle D_{2,6}|\hat{V}|0\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|8\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle \\ \langle B_{2,6}|\hat{V}|0\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|8\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (168)$$

$$= \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 8| & \langle D| & \langle B| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |8\rangle \\ |D\rangle \\ |B\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & 0 & -p/\sqrt{2} & p/\sqrt{2} \\ 0 & 0 & p/\sqrt{2} & p/\sqrt{2} \\ -p/\sqrt{2} & p/\sqrt{2} & 0 & 0 \\ p/\sqrt{2} & p/\sqrt{2} & 0 & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (169)$$

$$\langle 0|\hat{V}|D\rangle = \langle D|\hat{V}|0\rangle = -p/\sqrt{2} \quad (170)$$

$$\langle 0|\hat{V}|B\rangle = \langle B|\hat{V}|0\rangle = p/\sqrt{2} \quad (171)$$

$$\langle 8|\hat{V}|D\rangle = \langle D|\hat{V}|8\rangle = p/\sqrt{2} \quad (172)$$

$$\langle 8|\hat{V}|B\rangle = \langle B|\hat{V}|8\rangle = p/\sqrt{2} \quad (173)$$

STEP1：固有状態の1次摂動を計算する

この摂動 Hamiltonian に従って，摂動論を適用していく．まず，固有状態の1次摂動を計算する：

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle &= \sum_{\gamma \neq 0} |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
&= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
&= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_D)} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_B)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \tag{174}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \\
&\times \left[\left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)(\epsilon_n - \epsilon_D)} \right. \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)(\epsilon_n - \epsilon_B)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)^2} \right\} \\
&+ \left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)(\epsilon_n - \epsilon_D)} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)(\epsilon_n - \epsilon_B)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)^2} \right\} \Bigg] \\
&+ |\varphi_D^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)} + |\varphi_B^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)} \tag{175}
\end{aligned}$$

$|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle = C_{0,0} |0\rangle + C_{8,0} |8\rangle$, $|\varphi_n^{(0)}; 8\rangle = C_{0,8} |0\rangle + C_{8,8} |8\rangle$, $|\varphi_D^{(0)}\rangle = |D\rangle$, $|\varphi_B^{(0)}\rangle = |B\rangle$ であるから,

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \\
&\times \left[\left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)(\epsilon_n - \epsilon_D)} \right. \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)(\epsilon_n - \epsilon_B)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)^2} \right\} \\
&+ \left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)(\epsilon_n - \epsilon_D)} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)(\epsilon_n - \epsilon_B)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)^2} \right\} \Bigg] \\
&+ |D\rangle \frac{\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)} + |B\rangle \frac{\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)} \tag{176}
\end{aligned}$$

ここで,

$$\langle D | \hat{V} | D \rangle = \langle B | \hat{V} | B \rangle = \langle D | \hat{V} | B \rangle = \langle B | \hat{V} | D \rangle = 0 \tag{177}$$

$$E_n^{(1)} = 0 \tag{178}$$

$$\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle = C_{0,0} \langle D | \hat{V} | 0 \rangle + C_{8,0} \langle D | \hat{V} | 8 \rangle = C_{0,0}(-p/\sqrt{2}) + C_{8,0}(p/\sqrt{2}) \tag{179}$$

$$\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle = C_{0,0} \langle B | \hat{V} | 0 \rangle + C_{8,0} \langle B | \hat{V} | 8 \rangle = C_{0,0}(p/\sqrt{2}) + C_{8,0}(p/\sqrt{2}) \tag{180}$$

であるから,

$$|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle = |D\rangle \frac{\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_D)} + |B\rangle \frac{\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_B)} \tag{181}$$

$$\begin{aligned}
&= |D\rangle \frac{1}{(\epsilon_0 - \epsilon_D)} \left\{ C_{0,0}(-p/\sqrt{2}) + C_{8,0}(p/\sqrt{2}) \right\} \\
&+ |B\rangle \frac{1}{(\epsilon_0 - \epsilon_B)} \left\{ C_{0,0}(p/\sqrt{2}) + C_{8,0}(p/\sqrt{2}) \right\} \tag{182}
\end{aligned}$$

永年方程式を解き，2 次の補正項と規格化定数を求める

永年方程式

$$\sum_{\beta=1}^N \left[E_n^{(2)} \delta_{\alpha,\beta} - (\hat{V}^{(2)})_{\alpha,\beta} \right] C_{\beta,\alpha} = 0, \quad (183)$$

ここで，

$$(\hat{V}^{(2)})_{\alpha,\beta} \equiv \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (184)$$

を解き，エネルギー固有値の2 次の補正項 $E_{n,0}^{(2)}$, $E_{n,8}^{(2)}$ と固有状態の第ゼロ近似に関する展開係数， $C_{0,0}$, $C_{8,0}$, $C_{0,8}$, $C_{8,8}$ を求める．

まず，非摂動ハミルトニアンエネルギー固有値のうち，縮退していない状態のエネルギー固有値は以下のように与えられる：

$$\epsilon_D = \Delta_1 \quad (185)$$

$$\begin{aligned} \epsilon_B &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 8p^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 8p^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} (\Delta_1 + \Delta_2 - \epsilon) \end{aligned} \quad (186)$$

ここで，

$$\epsilon \equiv \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 8p^2} = (\Delta_1 - \Delta_2) \sqrt{1 + \frac{8p^2}{(\Delta_1 - \Delta_2)^2}} = (\Delta_1 - \Delta_2) \sqrt{1 + \delta_+}, \quad (187)$$

$$\delta_+ \equiv \frac{8p^2}{(\Delta_1 - \Delta_2)^2} \quad (188)$$

とおいた．次の Taylor 展開の公式を

$$\sqrt{1+x} = 1 + \frac{x}{2} - \frac{x^2}{8} + \frac{x^3}{16} - \frac{5x^4}{128} + \frac{7x^5}{256} + O(x^6) \quad (189)$$

使うと，

$$\begin{aligned} \epsilon &\simeq (\Delta_1 - \Delta_2) \sqrt{1 + \delta_+} \\ &= (\Delta_1 - \Delta_2) \left(1 + \frac{1}{2} \delta_+ \right) = (\Delta_1 - \Delta_2) \left(1 + \frac{4p^2}{(\Delta_1 - \Delta_2)^2} \right) \\ &= (\Delta_1 - \Delta_2) + \frac{4p^2}{(\Delta_1 - \Delta_2)} \end{aligned} \quad (190)$$

となり、エネルギー固有値 ϵ_B は以下ようになる：

$$\epsilon_B \simeq \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 + (\Delta_1 - \Delta_2) + \frac{4p^2}{(\Delta_1 - \Delta_2)} \right) = \Delta_1 + \frac{2p^2}{(\Delta_1 - \Delta_2)} = \Delta_1 + \delta_0 \quad (191)$$

ここで、

$$\delta_0 \equiv \frac{2p^2}{(\Delta_1 - \Delta_2)} \quad (192)$$

まず、2 次摂動に関する行列要素を計算する：

$$\begin{aligned} (\hat{V}^{(2)})_{0,0} &= \sum_{m \neq n} \frac{\langle 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | 0 \rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_m)} = \frac{\langle 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | 0 \rangle}{(-\epsilon_B)} + \frac{\langle 0 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | 0 \rangle}{(-\epsilon_D)} \\ &= \frac{|\langle 0 | \hat{V} | B \rangle|^2}{(-\epsilon_B)} + \frac{|\langle 0 | \hat{V} | D \rangle|^2}{(-\epsilon_D)} = \frac{1/2}{(-\epsilon_B)} + \frac{1/2}{(-\epsilon_D)} \end{aligned} \quad (193)$$

$$\begin{aligned} (\hat{V}^{(2)})_{8,8} &= \sum_{m \neq n} \frac{\langle 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(8)} \rangle \langle \varphi_m^{(8)} | \hat{V} | 8 \rangle}{(\epsilon_8 - \epsilon_m)} = \frac{\langle 8 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | 8 \rangle}{(-\epsilon_B)} + \frac{\langle 8 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | 8 \rangle}{(-\epsilon_D)} \\ &= \frac{|\langle 8 | \hat{V} | B \rangle|^2}{(-\epsilon_B)} + \frac{|\langle 8 | \hat{V} | D \rangle|^2}{(-\epsilon_D)} = \frac{1/2}{(-\epsilon_B)} + \frac{1/2}{(-\epsilon_D)} \end{aligned} \quad (194)$$

$$\begin{aligned} (\hat{V}^{(2)})_{0,8} &= (\hat{V}^{(2)})_{8,0} = \sum_{m \neq n} \frac{\langle 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(8)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | 8 \rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_m)} = \frac{\langle 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | 8 \rangle}{(-\epsilon_B)} + \frac{\langle 8 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | 0 \rangle}{(-\epsilon_D)} \\ &= \frac{1/2}{(-\epsilon_B)} + \frac{-1/2}{(-\epsilon_D)} \end{aligned} \quad (195)$$

$\epsilon_B = \Delta_1 + \delta_0$, $\epsilon_D = \Delta_1$ であるから、

$$\begin{aligned} (\hat{V}^{(2)})_{0,0} &= \frac{1/2}{(-\epsilon_B)} + \frac{1/2}{(-\epsilon_D)} = \frac{1/2}{-\Delta_1 - \delta_0} + \frac{1/2}{-\Delta_1} \\ &= \frac{1}{2} \left(\frac{-\Delta_1 - \Delta_1 - \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)} \right) = \frac{1}{2} \left(\frac{-2\Delta_1 - \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)} \right) \end{aligned} \quad (196)$$

$$(\hat{V}^{(2)})_{8,8} = \frac{1/2}{(-\epsilon_B)} + \frac{1/2}{(-\epsilon_D)} = \frac{1/2}{-\Delta_1 - \delta_0} + \frac{1/2}{-\Delta_1} = \frac{1}{2} \frac{-2\Delta_1 - \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)} \quad (197)$$

$$\begin{aligned} (\hat{V}^{(2)})_{0,8} &= \frac{1/2}{(-\epsilon_B)} + \frac{-1/2}{(-\epsilon_D)} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{-\Delta_1 - \delta_0} - \frac{1}{-\Delta_1} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\frac{\delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)} \right) = \frac{\delta_0}{B} \end{aligned} \quad (198)$$

$$E_n^{(2)} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} + (\hat{V}^{(2)})_{8,8} \mp \sqrt{D}}{2}, \quad (199)$$

$$\begin{aligned} D &= [(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - (\hat{V}^{(2)})_{8,8}]^2 + 4(\hat{V}^{(2)})_{0,8}^2 \\ &= 4 \frac{1}{4} \left(\frac{\delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)} \right)^2 = \frac{\delta_0^2}{\{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)\}^2} \end{aligned} \quad (200)$$

よって,

$$E_n^{(2)} = \frac{\frac{-2\Delta_1 - \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)} \mp \frac{\delta_0}{\{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)\}}}{2} = \frac{(-2\Delta_1 - \delta_0) \mp \delta_0}{2\{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)\}} = \frac{A}{B} [1 \mp \delta_0/A] \quad (201)$$

ここで,

$$A \equiv (-2\Delta_1 + \delta_0) \quad (202)$$

$$B \equiv 2\{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)\} \quad (203)$$

$$\delta_0 = \frac{2p^2}{(\Delta_1 - \Delta_2)} \quad (204)$$

とおいた.

$E_n^{(2)} = E_{n,0}^{(2)}$ のとき, 規格化定数の比は

$$\frac{C_{0,0}}{C_{0,8}} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - E_{n,0}^{(2)}}{2(\hat{V}^{(2)})_{0,8}} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - (\hat{V}^{(2)})_{8,8} \pm \sqrt{D}}{2(\hat{V}^{(2)})_{0,8}} \quad (205)$$

となるから,

$$\frac{C_{0,0}}{C_{0,8}} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - E_{n,0}^{(2)}}{2(\hat{V}^{(2)})_{0,8}} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - (\hat{V}^{(2)})_{8,8} \pm \sqrt{D}}{2(\hat{V}^{(2)})_{0,8}} \quad (206)$$

これより, $C_{0,0} = C_{0,8} = 1/\sqrt{2}$ を得る. すなわち, 第 0 近似は

$$|\varphi_{n,0}^0\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + |8\rangle) \quad (207)$$

第 1 次近似は

$$|\varphi_{n,0}^1\rangle = |B\rangle \frac{p}{\epsilon_0 - \epsilon_B} \quad (208)$$

と求まるから,

$$|\varphi_{n,0}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + |8\rangle) + |B\rangle \frac{p}{\epsilon_0 - \epsilon_B} \quad (209)$$

第 8 励起状態について，同様に計算を行う

第 8 励起状態については，

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,8}^{(1)}\rangle &= \sum_{\gamma \neq 8} |\varphi_n^{(0)}; 0\rangle \frac{1}{(E_{n,8}^{(2)} - E_{n,0}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
&= |\varphi_n^{(0)}; 0\rangle \frac{1}{(E_{n,8}^{(2)} - E_{n,0}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
&= |\varphi_n^{(0)}; 0\rangle \frac{1}{(E_{n,8}^{(2)} - E_{n,0}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_D)} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_B)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \tag{210}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,8}^{(1)}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; 0\rangle \frac{1}{(E_{n,8}^{(2)} - E_{n,0}^{(2)})} \\
&\times \left[\left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)(\epsilon_n - \epsilon_D)} \right. \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)(\epsilon_n - \epsilon_B)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)^2} \right\} \\
&+ \left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_D^{(0)} \rangle \langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)(\epsilon_n - \epsilon_D)} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)(\epsilon_n - \epsilon_B)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_B^{(0)} \rangle \langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)^2} \right\} \Bigg] \\
&+ |\varphi_D^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_D^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)} + |\varphi_B^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_B^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)} \tag{211}
\end{aligned}$$

$|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle = C_{0,0} |0\rangle + C_{8,0} |8\rangle$, $|\varphi_n^{(0)}; 8\rangle = C_{0,8} |0\rangle + C_{8,8} |8\rangle$, $|\varphi_D^{(0)}\rangle = |D\rangle$, $|\varphi_B^{(0)}\rangle = |B\rangle$ であるから,

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,8}^{(1)}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; 0\rangle \frac{1}{(E_{n,8}^{(2)} - E_{n,0}^{(2)})} \\
&\times \left[\left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)(\epsilon_n - \epsilon_D)} \right. \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)(\epsilon_n - \epsilon_B)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)^2} \right\} \\
&+ \left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)(\epsilon_n - \epsilon_D)} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)(\epsilon_n - \epsilon_B)} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)^2} \right\} \Bigg] \\
&+ |D\rangle \frac{\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_D)} + |B\rangle \frac{\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_B)} \tag{212}
\end{aligned}$$

ここで,

$$\langle D | \hat{V} | D \rangle = \langle B | \hat{V} | B \rangle = \langle D | \hat{V} | B \rangle = \langle B | \hat{V} | D \rangle = 0 \tag{213}$$

$$E_n^{(1)} = 0 \tag{214}$$

$$\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle = C_{0,8} \langle D | \hat{V} | 0 \rangle + C_{8,8} \langle D | \hat{V} | 8 \rangle = C_{0,8}(-p/\sqrt{2}) + C_{8,8}(p/\sqrt{2}) \tag{215}$$

$$\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle = C_{0,8} \langle B | \hat{V} | 0 \rangle + C_{8,8} \langle B | \hat{V} | 8 \rangle = C_{0,8}(p/\sqrt{2}) + C_{8,8}(p/\sqrt{2}) \tag{216}$$

であるから,

$$|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle = |D\rangle \frac{\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_8 - \epsilon_D)} + |B\rangle \frac{\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_8 - \epsilon_B)} \tag{217}$$

$$\begin{aligned}
&= |D\rangle \frac{1}{(\epsilon_8 - \epsilon_D)} \left\{ C_{0,8}(-p/\sqrt{2}) + C_{8,8}(p/\sqrt{2}) \right\} \\
&+ |B\rangle \frac{1}{(\epsilon_8 - \epsilon_B)} \left\{ C_{0,8}(p/\sqrt{2}) + C_{8,8}(p/\sqrt{2}) \right\} \tag{218}
\end{aligned}$$

$$|\varphi_{n,8}^{(1)}\rangle = |D\rangle \frac{p}{(\epsilon_8 - \epsilon_D)} \quad (219)$$

$$|\varphi_{n,8}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-|0\rangle + |8\rangle) + |D\rangle \frac{p}{\epsilon_0 - \epsilon_D} \quad (220)$$

8.4 縮退のない摂動論への移行

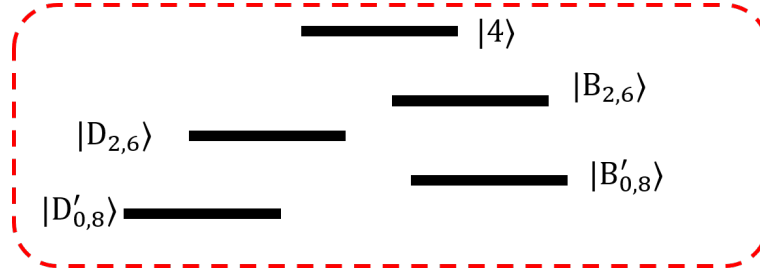


図 10 有効模型の概念図

上での摂動計算によって、摂動論により、補正された固有状態が次のように得られた：

$$|B'_{0,8}\rangle \equiv |\varphi_{n,0}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + |8\rangle) + \delta_1 |B_{2,6}\rangle, \quad (221)$$

$$\delta_1 \equiv \frac{p}{(\epsilon_0 - \epsilon_{B_{2,6}})} \quad (222)$$

$$|D'_{0,8}\rangle \equiv |\varphi_{n,8}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-|0\rangle + |8\rangle) + \delta_2 |D_{2,6}\rangle, \quad (223)$$

$$\delta_2 \equiv \frac{p}{(\epsilon_0 - \epsilon_{D_{2,6}})} \quad (224)$$

これで、すべての状態について、縮退が解け、縮退のない摂動論を用いて、有効模型の Hamiltonian のエネルギー固有値、対応するエネルギー固有状態を求めることが可能となる。まず、有効模型の摂動 Hamiltonian

$$\hat{V}^{\text{eff}} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & p_1 - p & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ p_1 - p & 0 & p_2 - p & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & p_2 - p & 0 & p_3 - p & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & p_3 - p & 0 & p_4 - p & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_4 - p & 0 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & 0 & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (225)$$

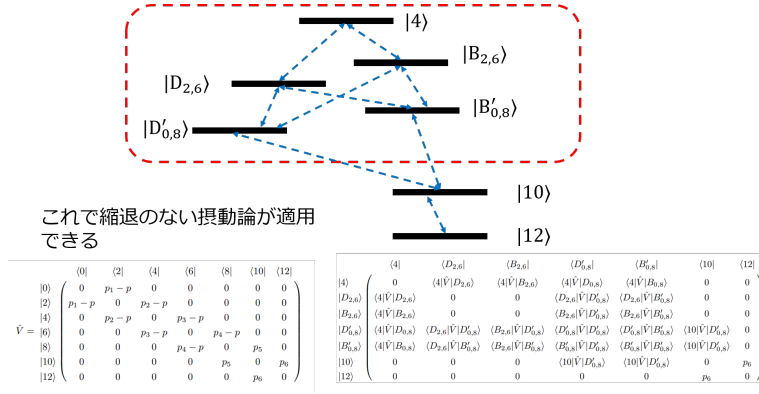


図 11 有効模型の概念図

を基底 $\{ \langle 0|, \langle 2|, \langle 4|, \langle 6|, \langle 8|, \langle 10|, \langle 12| \}$ で \hat{V}^{eff} を表示すると,

$$\hat{V}^{\text{eff}} = \begin{matrix} & \langle 4| & \langle D_{2,6}| & \langle B_{2,6}| & \langle D'_{0,8}| & \langle B'_{0,8}| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |4\rangle \\ |D_{2,6}\rangle \\ |B_{2,6}\rangle \\ |D'_{0,8}\rangle \\ |B'_{0,8}\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & \langle 4|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle 4|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & \langle 4|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle 4|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & 0 & 0 \\ \langle 4|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & 0 & 0 & \langle D_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & 0 & 0 \\ \langle 4|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & 0 & 0 & \langle B_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & 0 & 0 \\ \langle 4|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle D'_{0,8}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle D'_{0,8}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & \langle 10|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & 0 \\ \langle 4|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & \langle B'_{0,8}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle B'_{0,8}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & \langle 10|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & 0 \\ 0 & 0 & 0 & \langle 10|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle 10|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & 0 & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (226)$$

となる。行列要素が、0 となる場合だけ、あからさまに 0 と記述した。それ以外の、行列要素の具体的な値は、

以下のように求まる：

$$\langle 4|\hat{V}|4\rangle = 0 \quad (227)$$

$$\langle 4|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \langle D_{2,6}|\hat{V}|4\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-\langle 4|\hat{V}|2\rangle + \langle 4|\hat{V}|6\rangle) = \frac{1}{\sqrt{2}}\{-(p_2 - p) + (p_3 - p)\} \quad (228)$$

$$\langle 4|\hat{V}|B_{2,6}\rangle = \langle B_{2,6}|\hat{V}|4\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(\langle 4|\hat{V}|2\rangle + \langle 4|\hat{V}|6\rangle) = \frac{1}{\sqrt{2}}\{(p_2 - p) + (p_3 - p)\} \quad (229)$$

$$\begin{aligned} \langle 4|\hat{V}|D_{0,8}\rangle &= \langle D_{0,8}|\hat{V}|4\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-\langle 4|\hat{V}|0\rangle + \langle 4|\hat{V}|8\rangle) + \delta_2\langle 4|\hat{V}|D_{2,6}\rangle \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}}(0 + 0) + \frac{\delta_2}{\sqrt{2}}\{-(p_2 - p) + (p_3 - p)\} \end{aligned} \quad (230)$$

$$\begin{aligned} \langle 4|\hat{V}|B_{0,8}\rangle &= \langle B_{0,8}|\hat{V}|4\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(\langle 4|\hat{V}|0\rangle + \langle 4|\hat{V}|8\rangle) + \delta_2\langle 4|\hat{V}|B_{2,6}\rangle \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}}(0 + 0) + \frac{\delta_1}{\sqrt{2}}\{(p_2 - p) + (p_3 - p)\} \end{aligned} \quad (231)$$

$$(232)$$

$$\langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \frac{1}{2}(-\langle 2|\hat{V}|6\rangle - \langle 6|\hat{V}|2\rangle) = 0 \quad (233)$$

$$\langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle = \langle B_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \frac{1}{2}(-\langle 2|\hat{V}|6\rangle + \langle 6|\hat{V}|2\rangle) = 0 \quad (234)$$

$$\begin{aligned} \langle D_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle &= \langle D'_{0,8}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{0,8}\rangle + \delta_2\langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle \\ &= \frac{1}{2}(\langle 2|\hat{V}|0\rangle + \langle 6|\hat{V}|8\rangle) + \delta_2 \cdot 0 \\ &= \frac{1}{2}\{(p_1 - p) + (p_4 - p)\} \end{aligned} \quad (235)$$

$$\begin{aligned} \langle D_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle &= \langle B'_{0,8}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{0,8}\rangle + \delta_1\langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle \\ &= \frac{1}{2}(-\langle 2|\hat{V}|0\rangle + \langle 6|\hat{V}|8\rangle) + \delta_1 \cdot 0 \\ &= \frac{1}{2}\{-(p_1 - p) + (p_4 - p)\} \end{aligned} \quad (236)$$

$$\langle B_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle = \frac{1}{2}(\langle 2|\hat{V}|6\rangle + \langle 6|\hat{V}|2\rangle) = 0 \quad (237)$$

$$\begin{aligned} \langle B_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle &= \langle D'_{0,8}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle = \langle B_{2,6}|\hat{V}|D_{0,8}\rangle + \delta_2 \langle B_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle \\ &= \frac{1}{2}(-\langle 2|\hat{V}|0\rangle + \langle 6|\hat{V}|8\rangle) + \delta_2 \cdot 0 \\ &= \frac{1}{2}\left\{-(p_1 - p) + (p_4 - p)\right\} \end{aligned} \quad (238)$$

$$\begin{aligned} \langle B_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle &= \langle B'_{0,8}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle = \langle B_{2,6}|\hat{V}|B_{0,8}\rangle + \delta_1 \langle B_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle \\ &= \frac{1}{2}(\langle 2|\hat{V}|0\rangle + \langle 6|\hat{V}|8\rangle) + \delta_1 \cdot 0 \\ &= \frac{1}{2}\left\{(p_1 - p) + (p_4 - p)\right\} \end{aligned} \quad (239)$$

a

$$\begin{aligned} \langle D'_{0,8}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle &= \left(\langle D_{2,6}| + \delta_2 \langle D_{0,8}|\right)\hat{V}\left(|D_{2,6}\rangle + \delta_2 |D_{0,8}\rangle\right) \\ &= \langle D_{0,8}|\hat{V}|D_{0,8}\rangle + \delta_2^2 \langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle + 2\delta_2 \langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{0,8}\rangle \\ &= 2\delta_2 \langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{0,8}\rangle \\ &= 2\delta_2 \frac{1}{2}(\langle 2|\hat{V}|0\rangle + \langle 6|\hat{V}|8\rangle) \\ &= \delta_2 \left\{(p_1 - p) + (p_4 - p)\right\} \end{aligned} \quad (240)$$

$$\begin{aligned} \langle D'_{0,8}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle &= \left(\langle D_{2,6}| + \delta_2 \langle D_{0,8}|\right)\hat{V}\left(|B_{2,6}\rangle + \delta_1 |B_{0,8}\rangle\right) \\ &= \langle D_{0,8}|\hat{V}|B_{0,8}\rangle + \delta_1 \delta_2 \langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle + (\delta_1 + \delta_2) \langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{0,8}\rangle \\ &= (\delta_1 + \delta_2) \langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{0,8}\rangle \\ &= (\delta_1 + \delta_2) \frac{1}{2}(-\langle 2|\hat{V}|0\rangle + \langle 6|\hat{V}|8\rangle) \\ &= \frac{\delta_1 + \delta_2}{2} \left\{-(p_1 - p) + (p_4 - p)\right\} \end{aligned} \quad (241)$$

a

$$\begin{aligned}
\langle B'_{0,8} | \hat{V} | D'_{0,8} \rangle &= \langle D'_{0,8} | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle \\
\langle B'_{0,8} | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle &= \left(\langle B_{2,6} | + \delta_1 \langle D_{0,8} | \right) \hat{V} \left(| B_{2,6} \rangle + \delta_1 | B_{0,8} \rangle \right) \\
&= \langle B_{0,8} | \hat{V} | B_{0,8} \rangle + \delta_1^2 \langle B_{2,6} | \hat{V} | B_{2,6} \rangle + 2\delta_1 \langle B_{2,6} | \hat{V} | B_{0,8} \rangle \\
&= 2\delta_1 \langle B_{2,6} | \hat{V} | B_{0,8} \rangle \\
&= 2\delta_1 \frac{1}{2} (\langle 2 | \hat{V} | 0 \rangle + \langle 6 | \hat{V} | 8 \rangle) \\
&= \delta_1 \left\{ (p_1 - p) + (p_4 - p) \right\}
\end{aligned} \tag{242}$$

b

$$\begin{aligned}
\langle 10 | \hat{V} | D'_{0,8} \rangle &= \langle 10 | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle \\
&= \langle 10 | \hat{V} | D_{0,8} \rangle + \delta_2 \langle 10 | \hat{V} | D_{2,6} \rangle \\
&= \frac{1}{\sqrt{2}} \langle 10 | \hat{V} | 8 \rangle \\
&= \frac{1}{\sqrt{2}} p_5
\end{aligned} \tag{243}$$

次に縮退のない摂動論を実行するため、計算しやすいように、固有状態の第ゼロ近似それぞれに、次のようにラベルを付ける：

$$|\varphi_0^{(0)}\rangle \equiv |4\rangle \tag{244}$$

$$|\varphi_1^{(0)}\rangle \equiv |D_{2,6}\rangle \tag{245}$$

$$|\varphi_2^{(0)}\rangle \equiv |B_{2,6}\rangle \tag{246}$$

$$|\varphi_3^{(0)}\rangle \equiv |D'_{0,8}\rangle \tag{247}$$

$$|\varphi_4^{(0)}\rangle \equiv |B'_{0,8}\rangle \tag{248}$$

$$|\varphi_5^{(0)}\rangle \equiv |10\rangle \tag{249}$$

$$|\varphi_6^{(0)}\rangle \equiv |12\rangle \tag{250}$$

固有状態の 2 次の近似の公式は

$$\begin{aligned}
|\varphi_n\rangle &\simeq |\varphi_n^{(0)}\rangle + \lambda |\varphi_n^{(1)}\rangle + \lambda^2 |\varphi_n^{(2)}\rangle \\
&= |\varphi_n^{(0)}\rangle + \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \lambda \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} |\varphi_m^{(0)}\rangle \\
&\quad + \lambda^2 \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \left[\left(\sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_k^{(0)} \rangle \langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)(\epsilon_n - \epsilon_m)} \right) - \frac{\langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] |\varphi_m^{(0)}\rangle \quad (251)
\end{aligned}$$

で与えられる。これに、代入し、補正項を求めていくことにする：

$ith : 8, 0 : [[0.70710437 + 0.j]], 2 : [[0.00151543 + 0.j]], 4 : [[5.58643597e - 05 + 0.j]], 6 : [[0.00801705 + 0.j]], 8 : [[0.70703581 + 0.j]], 10 : [[-0.00609805 + 0.j]], 12 : [[2.65387791e - 05 + 0.j]]$

1 次の摂動

$$\begin{aligned}
|\varphi_4^{(1)}\rangle &= \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq 4}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_m)} |\varphi_m^{(0)}\rangle \\
&= \frac{\langle \varphi_0^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_0)} |\varphi_0^{(0)}\rangle + \frac{\langle \varphi_1^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_1)} |\varphi_1^{(0)}\rangle + \frac{\langle \varphi_2^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_2)} |\varphi_2^{(0)}\rangle \\
&\quad + \frac{\langle \varphi_3^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_3)} |\varphi_3^{(0)}\rangle + \frac{\langle \varphi_5^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_5)} |\varphi_5^{(0)}\rangle + \frac{\langle \varphi_6^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_6)} |\varphi_6^{(0)}\rangle \quad (252)
\end{aligned}$$

$$|\Psi_{4,i}^{(1)}\rangle \equiv \frac{\langle \varphi_i^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_i)} |\varphi_i^{(0)}\rangle \quad (253)$$

$$\begin{aligned}
|\Psi_{4,0}^{(1)}\rangle &= \frac{\langle \varphi_0^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_0)} |\varphi_0^{(0)}\rangle = \frac{\langle 4 | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_4)} |4\rangle \\
&= \frac{1}{(E_{B'_{0,8}} - E_4)} \frac{\delta_1}{\sqrt{2}} (p_2 + p_3 - 2p) |4\rangle = \frac{p(p_2 + p_3 - 2p)}{\sqrt{2}(E_{B'_{0,8}} - E_4)(E_0 - E_{B_{2,6}})} |4\rangle \quad (254)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
|\Psi_{4,1}^{(1)}\rangle &= \frac{\langle \varphi_1^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_1)} |\varphi_1^{(0)}\rangle = \frac{\langle D_{2,6} | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_{D_{2,6}})} |D_{2,6}\rangle \\
&= \frac{1}{(E_{B'_{0,8}} - E_{D_{2,6}})} \frac{1}{2} (-p_1 + p_4) |D_{2,6}\rangle = \frac{-p_1 + p_4}{2(E_{B'_{0,8}} - E_{D_{2,6}})} |D_{2,6}\rangle \quad (255)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
|\Psi_{4,2}^{(1)}\rangle &= \frac{\langle \varphi_2^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_2)} |\varphi_2^{(0)}\rangle = \frac{\langle B_{2,6} | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_{B_{2,6}})} |B_{2,6}\rangle \\
&= \frac{1}{(E_{B'_{0,8}} - E_{B_{2,6}})} \frac{1}{2} (p_1 + p_4 - 2p) |B_{2,6}\rangle = \frac{(p_1 + p_4 - 2p)}{2(E_{B'_{0,8}} - E_{B_{2,6}})} |B_{2,6}\rangle
\end{aligned} \tag{256}$$

$$\begin{aligned}
|\Psi_{4,3}^{(1)}\rangle &= \frac{\langle \varphi_3^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_3)} |\varphi_3^{(0)}\rangle = \frac{\langle D'_{0,8} | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_{D'_{0,8}})} |D'_{0,8}\rangle \\
&= \frac{1}{(E_{B'_{0,8}} - E_{D'_{0,8}})} \frac{\delta_1 + \delta_2}{2} (-p_1 + p_4) |D'_{0,8}\rangle = \frac{(\delta_1 + \delta_2)(-p_1 + p_4)}{2(E_{B'_{0,8}} - E_{D'_{0,8}})} |D'_{0,8}\rangle
\end{aligned} \tag{257}$$

$$|\Psi_{4,5}^{(1)}\rangle = \frac{\langle \varphi_5^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_5)} |\varphi_5^{(0)}\rangle = \frac{\langle 10 | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_{10})} |10\rangle = \frac{p_5}{\sqrt{2}(E_{B'_{0,8}} - E_{10})} |10\rangle \tag{258}$$

$$|\Psi_{4,6}^{(1)}\rangle = \frac{\langle \varphi_6^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_6)} |\varphi_6^{(0)}\rangle = \frac{\langle 12 | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_{12})} |12\rangle = 0 \cdot |12\rangle \tag{259}$$

ここで, $p_1 = \sqrt{2 \cdot 1}p$, $p_2 = \sqrt{4 \cdot 3}p$, $p_3 = \sqrt{6 \cdot 5}p$, $p_4 = \sqrt{8 \cdot 7}p$, $p_5 = \sqrt{10 \cdot 9}p$, $p_6 = \sqrt{12 \cdot 11}p$ である.

2 次の摂動

$$|\varphi_n^{(2)}\rangle = \sum_{\substack{m=1 \\ m \neq n}}^{\infty} \left[\left(\sum_{\substack{k=1 \\ k \neq n}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_k^{(0)} \rangle \langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_k)(\epsilon_n - \epsilon_m)} \right) - \frac{\langle \varphi_n^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)} \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] |\varphi_m^{(0)}\rangle \tag{260}$$

$$|\Psi_{4,i}^{(2)}\rangle \equiv \left[\left(\sum_{\substack{k=1 \\ k \neq 4}}^{\infty} \frac{\langle \varphi_i^{(0)} | \hat{V} | \varphi_k^{(0)} \rangle \langle \varphi_k^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_k)(\epsilon_4 - \epsilon_i)} \right) - \frac{\langle \varphi_4^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle \langle \varphi_i^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_i)^2} \right] |\varphi_i^{(0)}\rangle \tag{261}$$

$$\begin{aligned}
|\Psi_{4,0}^{(2)}\rangle &= \frac{\langle \varphi_0^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_0)} |\varphi_0^{(0)}\rangle = \frac{\langle 4 | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_4)} |4\rangle \\
&= \frac{1}{(E_{B'_{0,8}} - E_4)} \frac{\delta_1}{\sqrt{2}} (p_2 + p_3 - 2p) |4\rangle = \frac{p(p_2 + p_3 - 2p)}{\sqrt{2}(E_{B'_{0,8}} - E_4)(E_0 - E_{B_{2,6}})} |4\rangle
\end{aligned} \tag{262}$$

$$\begin{aligned}
|\Psi_{4,1}^{(1)}\rangle &= \frac{\langle \varphi_1^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_1)} |\varphi_1^{(0)}\rangle = \frac{\langle D_{2,6} | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_{D_{2,6}})} |D_{2,6}\rangle \\
&= \frac{1}{(E_{B'_{0,8}} - E_{D_{2,6}})} \frac{1}{2} (-p_1 + p_4) |D_{2,6}\rangle = \frac{-p_1 + p_4}{2(E_{B'_{0,8}} - E_{D_{2,6}})} |D_{2,6}\rangle
\end{aligned} \tag{263}$$

$$\begin{aligned}
|\Psi_{4,2}^{(1)}\rangle &= \frac{\langle \varphi_2^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_2)} |\varphi_2^{(0)}\rangle = \frac{\langle B_{2,6} | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_{B_{2,6}})} |B_{2,6}\rangle \\
&= \frac{1}{(E_{B'_{0,8}} - E_{B_{2,6}})} \frac{1}{2} (p_1 + p_4 - 2p) |B_{2,6}\rangle = \frac{(p_1 + p_4 - 2p)}{2(E_{B'_{0,8}} - E_{B_{2,6}})} |B_{2,6}\rangle
\end{aligned} \tag{264}$$

$$\begin{aligned}
|\Psi_{4,3}^{(1)}\rangle &= \frac{\langle \varphi_3^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_3)} |\varphi_3^{(0)}\rangle = \frac{\langle D'_{0,8} | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_{D'_{0,8}})} |D'_{0,8}\rangle \\
&= \frac{1}{(E_{B'_{0,8}} - E_{D'_{0,8}})} \frac{\delta_1 + \delta_2}{2} (-p_1 + p_4) |D'_{0,8}\rangle = \frac{(\delta_1 + \delta_2)(-p_1 + p_4)}{2(E_{B'_{0,8}} - E_{D'_{0,8}})} |D'_{0,8}\rangle
\end{aligned} \tag{265}$$

$$|\Psi_{4,5}^{(1)}\rangle = \frac{\langle \varphi_5^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_5)} |\varphi_5^{(0)}\rangle = \frac{\langle 10 | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_{10})} |10\rangle = \frac{p_5}{\sqrt{2}(E_{B'_{0,8}} - E_{10})} |10\rangle \tag{266}$$

$$|\Psi_{4,6}^{(1)}\rangle = \frac{\langle \varphi_6^{(0)} | \hat{V} | \varphi_4^{(0)} \rangle}{(\epsilon_4 - \epsilon_6)} |\varphi_6^{(0)}\rangle = \frac{\langle 12 | \hat{V} | B'_{0,8} \rangle}{(E_{B'_{0,8}} - E_{12})} |12\rangle = 0 \cdot |12\rangle \tag{267}$$

第Ⅳ部

KPO に対する摂動論 version2

9 $n = 0$ と 8 が縮退する場合

9.1 有効モデルの定義

$$\begin{aligned}
\hat{H}_{\text{KPO}}^{\text{eff}} &= \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} E_0 & p_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ p_1 & E_2 & p_2 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & p_2 & E_4 & p_3 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & p_3 & E_6 & p_4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_4 & E_8 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & E_{10} & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & E_{12} \end{pmatrix} \end{matrix} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & p_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ p_1 & \Delta_1 & p_2 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & p_2 & \Delta_2 & p_3 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & p_3 & \Delta_1 & p_4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_4 & 0 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & -\Delta_3 & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & -\Delta_4 \end{pmatrix} \end{matrix} \\
&= \hat{H}_0 + \hat{V}
\end{aligned} \tag{268}$$

ここで、この有効模型の非摂動 Hamiltonian \hat{H}_0^{eff} と摂動 Hamiltonian \hat{V}^{eff} はそれぞれ以下のように与える：

$$\hat{H}_0^{\text{eff}} = \begin{array}{c} \begin{array}{ccccccc} \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \end{array} \\ \begin{array}{l} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{array} \end{array} \begin{pmatrix} 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & \Delta_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & \Delta_2 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & \Delta_1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & -\Delta_3 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & -\Delta_4 \end{pmatrix}$$

$$\hat{V}^{\text{eff}} = \begin{array}{c} \begin{array}{ccccccc} \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \end{array} \\ \begin{array}{l} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{array} \end{array} \begin{pmatrix} 0 & p_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ p_1 & 0 & p_2 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & p_2 & 0 & p_3 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & p_3 & 0 & p_4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_4 & 0 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & 0 & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & 0 \end{pmatrix} \quad (269)$$

$$= \begin{array}{c} \begin{array}{ccccccc} \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \end{array} \\ \begin{array}{l} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{array} \end{array} \begin{pmatrix} 0 & \sqrt{2 \cdot 1}p & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ \sqrt{2 \cdot 1}p & 0 & \sqrt{4 \cdot 3}p & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & \sqrt{4 \cdot 3}p & 0 & \sqrt{6 \cdot 5}p & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & \sqrt{6 \cdot 5}p & 0 & \sqrt{8 \cdot 7}p & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & \sqrt{8 \cdot 7}p & 0 & \sqrt{10 \cdot 9}p & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & \sqrt{10 \cdot 9}p & 0 & \sqrt{12 \cdot 11}p \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & \sqrt{12 \cdot 11}p & 0 \end{pmatrix} \quad (270)$$

ここで、 $p_1 = \sqrt{2 \cdot 1}p$, $p_2 = \sqrt{4 \cdot 3}p$, $p_3 = \sqrt{6 \cdot 5}p$, $p_4 = \sqrt{8 \cdot 7}p$, $p_5 = \sqrt{10 \cdot 9}p$, $p_6 = \sqrt{12 \cdot 11}p$ である。

9.2

次に、この有効模型の非摂動 Hamiltonian \hat{H}_0^{eff} に注目する。この Hamiltonian \hat{H}_0^{eff} は Block 対角化されており、 $\{|0\rangle, |2\rangle, |4\rangle, |6\rangle, |8\rangle\}$ と $|10\rangle, |12\rangle$ で張られる部分空間に分けることができ、Hamiltonian は以下のように書き直すことができる：

$$\hat{H}_0^{\text{eff}} = \hat{H}_0^{0 \rightarrow 8} \oplus \hat{H}_0^{10,12} \quad (271)$$

ここで、

$$\hat{H}_0^{0 \rightarrow 8} = \begin{array}{c} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \end{array} \begin{array}{ccccc} \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| \\ \left(\begin{array}{ccccc} 0 & p & 0 & 0 & 0 \\ p & \Delta_1 & p & 0 & 0 \\ 0 & p & \Delta_2 & p & 0 \\ 0 & 0 & p & \Delta_1 & p \\ 0 & 0 & 0 & p & 0 \end{array} \right) \end{array} \quad (272)$$

$$\hat{H}_0^{10,12} = \begin{array}{c} |10\rangle \\ |12\rangle \end{array} \begin{array}{cc} \langle 10| & \langle 12| \\ \left(\begin{array}{cc} -\Delta_3 & 0 \\ 0 & -\Delta_4 \end{array} \right) \end{array} \quad (273)$$

である．Hamiltonian $\hat{H}_0^{0 \rightarrow 8}$ を対角化する．これを実行するために，まず， $\{|2\rangle, |4\rangle, |6\rangle\}$ で張られる部分空間を考え，その空間における Hamiltonian $\hat{H}^{2,4,6}$ を以下のように定義する：

$$\hat{H}^{2,4,6} = \begin{array}{c} |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \end{array} \begin{array}{ccc} \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| \\ \left(\begin{array}{ccc} \Delta_1 & p_2 & 0 \\ p_2 & \Delta_2 & p_3 \\ 0 & p_3 & \Delta_1 \end{array} \right) \end{array} \quad (274)$$

ここで， $\Delta_1 > \Delta_2$ を仮定する．この Hamiltonian を対角化し，エネルギー固有値とエネルギー固有状態を求めると以下のように得られる：

エネルギー固有値

$$E_{D_{2,6}} = \Delta_1 \quad (275)$$

$$\begin{aligned} E_4 &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \end{aligned} \quad (276)$$

$$\begin{aligned} E_{B_{2,6}} &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 + \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 + \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \end{aligned} \quad (277)$$

$p_2 < p_3$ とすると， $E_4 < E_{B_{2,6}} < E_{D_{2,6}}$ である．

固有状態 $|2\rangle, |4\rangle, |6\rangle$ で展開する.

$$|\psi_D\rangle = C_0 \left\{ -\frac{p_3}{p_2}, 0, 1 \right\} \quad (278)$$

$$\begin{aligned} |\psi_4\rangle &= C_1 \left\{ \frac{p_2}{p_3}, -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 + \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2}}{2p_3}, 1 \right\} \\ &= C_1 \left\{ \frac{p_2}{p_3}, -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 + \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2}}{2p_3}, 1 \right\} \\ &= C_1 \left\{ \frac{p_2}{p_3}, \epsilon_+(\Delta_1, \Delta_2, p_2, p_3), 1 \right\} \end{aligned} \quad (279)$$

$$\begin{aligned} |\psi_{B_{2,6}}\rangle &= C_2 \left\{ \frac{p_2}{p_3}, -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2}}{2p_3}, 1 \right\} \\ &= C_2 \left\{ \frac{p_2}{p_3}, \epsilon_-(\Delta_1, \Delta_2, p_2, p_3), 1 \right\} \end{aligned} \quad (280)$$

$$\epsilon_{\pm}(\Delta_1, \Delta_2, p_2, p_3) = -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 \pm \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2}}{2p_3} \quad (281)$$

規格化

$$|D_{2,6}\rangle \equiv |\psi_0\rangle = \begin{pmatrix} -\frac{p_3}{p_2 \sqrt{\left|\frac{p_3}{p_2}\right|^2 + 1}} \\ 0 \\ \frac{1}{\sqrt{\left|\frac{p_3}{p_2}\right|^2 + 1}} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\frac{p_3}{\sqrt{|p_3|^2 + |p_2|^2}} \\ 0 \\ \frac{p_2}{\sqrt{|p_3|^2 + |p_2|^2}} \end{pmatrix} \quad (282)$$

$$|4\rangle \equiv |\psi_1\rangle = \begin{pmatrix} \frac{p_2}{p_3 \sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \\ -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 + \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2}}{2p_3 \sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{p_2}{p_3 \sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \\ \frac{\epsilon_+}{\sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \end{pmatrix} \quad (283)$$

$$|B_{2,6}\rangle \equiv |\psi_2\rangle = \begin{pmatrix} \frac{p_2}{p_3 \sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \\ -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2}}{2p_3 \sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{p_2}{p_3 \sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \\ \frac{\epsilon_-}{\sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_2}{p_3}\right|^2 + 1}} \end{pmatrix} \quad (284)$$

ここで、パラメトリックドライブの振幅 β が十分小さい場合、次の状態を定義する：

$$|D_{2,6}\rangle = -a_{D,2}|2\rangle + a_{D,6}|6\rangle \quad (285)$$

$$|B_{2,6}\rangle = a_{B,2}|2\rangle + a_{B,6}|6\rangle \quad (286)$$

ここで、 $a_{D,2} < a_{D,6}$, $a_{B,2} < a_{B,6}$ である。

$$1/\sqrt{2} \simeq 0.70710678118$$

$$\hat{H}_0 = E_0|0\rangle\langle 0| + E_8|8\rangle\langle 8| + E_{D_{2,6}}|D_{2,6}\rangle\langle D_{2,6}| + E_{B_{2,6}}|B_{2,6}\rangle\langle B_{2,6}| \quad (287)$$

$$\hat{V} = \sqrt{2 \cdot 1}\beta|0\rangle\langle 2| + \sqrt{8 \cdot 7}\beta|8\rangle\langle 6| + \text{h.c.} \quad (288)$$

$$\hat{H}_{\text{KPO}} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 6| & \langle 8| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & \sqrt{2 \cdot 1}\beta & 0 & 0 \\ \sqrt{2 \cdot 1}\beta & \Delta_1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & \Delta_1 & \sqrt{8 \cdot 7}\beta \\ 0 & 0 & \sqrt{8 \cdot 7}\beta & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (289)$$

次の状態を定義する：

$$|D\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-|2\rangle + |6\rangle) \quad (290)$$

$$|B_{2,6}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|2\rangle + |6\rangle) \quad (291)$$

9.3

部分空間 $\{|2\rangle, |4\rangle, |6\rangle\}$ 内で、対角化することができたため、これで、 $|2\rangle$ と $|6\rangle$ の縮退を解くことができた。したがって、次に、Hamiltonian $\hat{H}_0^{0 \rightarrow 8}$ に対して、縮退する摂動論を適用し、そのエネルギー固有値と対応するエネルギー固有状態を求めていくことにする。

そのために、まず、摂動 Hamiltonian を基底 $\{|D_{2,6}\rangle, |B_{2,6}\rangle, |0\rangle, |8\rangle, |10\rangle, |12\rangle\}$ で展開する：

$$\hat{V}^{\text{eff}} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & p_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ p_1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_4 & 0 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & 0 & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (292)$$

$$\hat{V}^{\text{eff}} = p_1|0\rangle\langle 2| + p_4|8\rangle\langle 6| + p_5|10\rangle\langle 8| + p_6|12\rangle\langle 10| + \text{h.c.} \quad (293)$$

$$\begin{aligned}
\hat{V}^{\text{eff}} &= \begin{matrix} & \langle D_{2,6}| & \langle B_{2,6}| & \langle 0| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |D_{2,6}\rangle \\ |B_{2,6}\rangle \\ |0\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} \langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|0\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|8\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|10\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|12\rangle \\ \langle B_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|0\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|8\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|10\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|12\rangle \\ \langle 0|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle 0|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & \langle 0|\hat{V}|0\rangle & \langle 0|\hat{V}|8\rangle & \langle 0|\hat{V}|10\rangle & \langle 0|\hat{V}|12\rangle \\ \langle 8|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle 8|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & \langle 8|\hat{V}|0\rangle & \langle 8|\hat{V}|8\rangle & \langle 8|\hat{V}|10\rangle & \langle 8|\hat{V}|12\rangle \\ \langle 10|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle 10|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & \langle 10|\hat{V}|0\rangle & \langle 10|\hat{V}|8\rangle & \langle 10|\hat{V}|10\rangle & \langle 10|\hat{V}|12\rangle \\ \langle 12|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle 12|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & \langle 12|\hat{V}|0\rangle & \langle 12|\hat{V}|8\rangle & \langle 12|\hat{V}|10\rangle & \langle 12|\hat{V}|12\rangle \end{pmatrix} \\
&= \begin{matrix} & \langle D_{2,6}| & \langle B_{2,6}| & \langle 0| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |D_{2,6}\rangle \\ |B_{2,6}\rangle \\ |0\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & 0 & \langle D_{2,6}|\hat{V}|0\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|8\rangle & 0 & 0 \\ 0 & 0 & \langle B_{2,6}|\hat{V}|0\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|8\rangle & 0 & 0 \\ \langle 0|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle 0|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & 0 & 0 & 0 & 0 \\ \langle 8|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle 8|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & 0 & 0 & \langle 8|\hat{V}|10\rangle & 0 \\ 0 & 0 & 0 & \langle 10|\hat{V}|8\rangle & 0 & \langle 10|\hat{V}|12\rangle \\ 0 & 0 & 0 & 0 & \langle 12|\hat{V}|10\rangle & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (294)
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\hat{V}^{\text{eff}} &= \begin{matrix} & \langle D_{2,6}| & \langle B_{2,6}| & \langle 0| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |D_{2,6}\rangle \\ |B_{2,6}\rangle \\ |0\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & 0 & -a_{D,2}p_1 & a_{D,6}p_4 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & a_{B,2}p_1 & a_{B,6}p_4 & 0 & 0 \\ -a_{D,2}p_1 & a_{B,2}p_1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ a_{D,6}p_4 & a_{B,6}p_4 & 0 & 0 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_5 & 0 & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (295)
\end{aligned}$$

行列要素の計算は以下である：

$$\langle D_{2,6}|\hat{V}^{\text{eff}}|0\rangle = \langle 0|\hat{V}^{\text{eff}}|D_{2,6}\rangle = -a_{D,2}\langle 0|\hat{V}^{\text{eff}}|2\rangle + a_{D,6}\langle 0|\hat{V}^{\text{eff}}|6\rangle = -a_{D,2}p_1 \quad (296)$$

$$\langle D_{2,6}|\hat{V}^{\text{eff}}|8\rangle = \langle 8|\hat{V}^{\text{eff}}|D_{2,6}\rangle = -a_{D,2}\langle 8|\hat{V}^{\text{eff}}|2\rangle + a_{D,6}\langle 8|\hat{V}^{\text{eff}}|6\rangle = a_{D,6}p_4 \quad (297)$$

$$\langle D_{2,6}|\hat{V}^{\text{eff}}|10\rangle = \langle 10|\hat{V}^{\text{eff}}|D_{2,6}\rangle = 0 \quad (298)$$

$$\langle D_{2,6}|\hat{V}^{\text{eff}}|12\rangle = \langle 12|\hat{V}^{\text{eff}}|D_{2,6}\rangle = 0 \quad (299)$$

$$\langle B_{2,6}|\hat{V}^{\text{eff}}|0\rangle = \langle 0|\hat{V}^{\text{eff}}|B_{2,6}\rangle = a_{B,2}\langle 0|\hat{V}^{\text{eff}}|2\rangle + a_{B,6}\langle 0|\hat{V}^{\text{eff}}|6\rangle = a_{B,2}p_1 \quad (300)$$

$$\langle B_{2,6}|\hat{V}^{\text{eff}}|8\rangle = \langle 8|\hat{V}^{\text{eff}}|B_{2,6}\rangle = a_{B,2}\langle 8|\hat{V}^{\text{eff}}|2\rangle + a_{B,6}\langle 8|\hat{V}^{\text{eff}}|6\rangle = a_{B,6}p_4 \quad (301)$$

$$\langle B_{2,6}|\hat{V}^{\text{eff}}|10\rangle = \langle 10|\hat{V}^{\text{eff}}|B_{2,6}\rangle = 0 \quad (302)$$

$$\langle B_{2,6}|\hat{V}^{\text{eff}}|12\rangle = \langle 12|\hat{V}^{\text{eff}}|B_{2,6}\rangle = 0 \quad (303)$$

これら以外の行列要素は元の摂動 Hamiltonian より明らかである。

STEP1：固有状態の1次摂動を計算する

この摂動 Hamiltonian に従って，縮退のある摂動論を適用していく．まず，固有状態の1次摂動を計算する：

$$\begin{aligned}
 |\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle &= \sum_{\gamma \neq 0} |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
 &\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
 &\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
 &= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
 &\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
 &\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
 &= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
 &\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
 &\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | 10 \rangle \langle 10 | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_{10})} \\
 &\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
 &\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \tag{304}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \\
&\times \left[\frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad + \frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{10}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{10}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{10})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})^2} \right\} \\
&+ \left[\frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad + \frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{10}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{10}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{10})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})^2} \right] \\
&+ \left[\frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{10}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{10}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{10}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{10}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad + \frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{10}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{10}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{10}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{10}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})(\epsilon_n - \epsilon_{10})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle\langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{10}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{10}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})^2} \right] \\
&+ |\varphi_{D_{2,6}}^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} + |\varphi_{B_{2,6}}^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} + |\varphi_{10}^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_{10}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})}
\end{aligned} \tag{305}$$

$|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle = C_{0,0} |0\rangle + C_{8,0} |8\rangle$, $|\varphi_n^{(0)}; 8\rangle = C_{0,8} |0\rangle + C_{8,8} |8\rangle$, $|\varphi_{D_{2,6}}^{(0)}\rangle = |D_{2,6}\rangle$, $|\varphi_{B_{2,6}}^{(0)}\rangle = |B_{2,6}\rangle$, $|\varphi_{10}^{(0)}\rangle = |10\rangle$ であるから,

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \\
&\times \left[\frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|D_{2,6}\rangle\langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle\langle D_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|D_{2,6}\rangle\langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle\langle B_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad + \frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|D_{2,6}\rangle\langle D_{2,6}|\hat{V}|10\rangle\langle 10|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{10})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|D_{2,6}\rangle\langle D_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})^2} \right] \\
&+ \left[\frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|B_{2,6}\rangle\langle B_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle\langle D_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|B_{2,6}\rangle\langle B_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle\langle B_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad + \frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|B_{2,6}\rangle\langle B_{2,6}|\hat{V}|10\rangle\langle 10|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{10})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|B_{2,6}\rangle\langle B_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})^2} \right] \\
&+ \left[\frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|10\rangle\langle 10|\hat{V}|D_{2,6}\rangle\langle D_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|10\rangle\langle 10|\hat{V}|B_{2,6}\rangle\langle B_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad + \frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|10\rangle\langle 10|\hat{V}|10\rangle\langle 10|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})(\epsilon_n - \epsilon_{10})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle\langle\varphi_n^{(0)}; 8|\hat{V}|10\rangle\langle 10|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})^2} \right] \\
&+ |D_{2,6}\rangle \frac{\langle D_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} + |B_{2,6}\rangle \frac{\langle B_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} + |10\rangle \frac{\langle 10|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})} \quad (306)
\end{aligned}$$

ここで,

$$\langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \langle B_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle = \langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle = \langle B_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = 0 \quad (307)$$

$$\langle 10|\hat{V}|10\rangle = \langle B_{2,6}|\hat{V}|10\rangle = \langle D_{2,6}|\hat{V}|10\rangle = \langle 10|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \langle 10|\hat{V}|B_{2,6}\rangle = 0 \quad (308)$$

$$E_n^{(1)} = 0 \quad (309)$$

$$\langle D_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle = C_{0,0} \langle D_{2,6}|\hat{V}|0\rangle + C_{8,0} \langle D_{2,6}|\hat{V}|8\rangle = C_{0,0}(-a_{D,2p_1}) + C_{8,0}(a_{D,6p_4}) \quad (310)$$

$$\langle B_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle = C_{0,0} \langle B_{2,6}|\hat{V}|0\rangle + C_{8,0} \langle B_{2,6}|\hat{V}|8\rangle = C_{0,0}(a_{B,2p_1}) + C_{8,0}(a_{B,6p_4}) \quad (311)$$

$$\langle 10|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle = C_{0,0} \langle 10|\hat{V}|0\rangle + C_{8,0} \langle 10|\hat{V}|8\rangle = C_{8,0}(p_5) \quad (312)$$

であるから,

$$|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle = |D_{2,6}\rangle \frac{\langle D_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} + |B_{2,6}\rangle \frac{\langle B_{2,6}|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} + |10\rangle \frac{\langle 10|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})} \quad (313)$$

$$|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle = |D_{2,6}\rangle \frac{\langle D|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_{D_{2,6}})} + |B_{2,6}\rangle \frac{\langle B|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_{B_{2,6}})} + |10\rangle \frac{\langle 10|\hat{V}|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})} \quad (314)$$

$$\begin{aligned} &= |D_{2,6}\rangle \frac{1}{(\epsilon_0 - \epsilon_{D_{2,6}})} \left\{ C_{0,0}(-a_{D,2p_1}) + C_{8,0}(a_{D,6p_4}) \right\} \\ &+ |B_{2,6}\rangle \frac{1}{(\epsilon_0 - \epsilon_{B_{2,6}})} \left\{ C_{0,0}(a_{B,2p_1}) + C_{8,0}(a_{B,6p_4}) \right\} \\ &+ |10\rangle \frac{1}{(\epsilon_n - \epsilon_{10})} C_{8,0}(p_5) \end{aligned} \quad (315)$$

永年方程式を解き，2 次の補正項と規格化定数を求める

永年方程式

$$\sum_{\beta=1}^N \left[E_n^{(2)} \delta_{\alpha,\beta} - (\hat{V}^{(2)})_{\alpha,\beta} \right] C_{\beta,\alpha} = 0, \quad (316)$$

ここで,

$$(\hat{V}^{(2)})_{\alpha,\beta} \equiv \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (317)$$

を解き，エネルギー固有値の2 次の補正項 $E_{n,0}^{(2)}$, $E_{n,8}^{(2)}$ と固有状態の第ゼロ近似に関する展開係数， $C_{0,0}$, $C_{8,0}$, $C_{0,8}$, $C_{8,8}$ を求める．

まず、非摂動ハミルトニアンエネルギー固有値のうち、縮退していない状態のエネルギー固有値は以下の
ように与えられる：

$$\epsilon_{D_{2,6}} = \Delta_1 \quad (318)$$

$$\begin{aligned} \epsilon_{B_{2,6}} &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 + \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 + \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} (\Delta_1 + \Delta_2 + \epsilon) \end{aligned} \quad (319)$$

ここで、

$$\epsilon \equiv \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} = (\Delta_1 - \Delta_2) \sqrt{1 + \frac{4p_2^2 + 4p_3^2}{(\Delta_1 - \Delta_2)^2}} = (\Delta_1 - \Delta_2) \sqrt{1 + \delta_+}, \quad (320)$$

$$\delta_+ \equiv \frac{4(p_2^2 + p_3^2)}{(\Delta_1 - \Delta_2)^2} \quad (321)$$

とおいた。次の Taylor 展開の公式を

$$\sqrt{1+x} = 1 + \frac{x}{2} - \frac{x^2}{8} + \frac{x^3}{16} - \frac{5x^4}{128} + \frac{7x^5}{256} + O(x^6) \quad (322)$$

使うと、

$$\begin{aligned} \epsilon &\simeq (\Delta_1 - \Delta_2) \sqrt{1 + \delta_+} \\ &= (\Delta_1 - \Delta_2) \left(1 + \frac{1}{2} \delta_+ \right) = (\Delta_1 - \Delta_2) \left(1 + \frac{2(p_2^2 + p_3^2)}{(\Delta_1 - \Delta_2)^2} \right) \\ &= (\Delta_1 - \Delta_2) + \frac{2(p_2^2 + p_3^2)}{(\Delta_1 - \Delta_2)} \end{aligned} \quad (323)$$

となり、エネルギー固有値 $\epsilon_{B_{2,6}}$ は以下のようになる：

$$\epsilon_{B_{2,6}} \simeq \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 + (\Delta_1 - \Delta_2) + \frac{2(p_2^2 + p_3^2)}{(\Delta_1 - \Delta_2)} \right) = \Delta_1 + \frac{(p_2^2 + p_3^2)}{(\Delta_1 - \Delta_2)} = \Delta_1 + \delta_0 \quad (324)$$

ここで、

$$\delta_0 \equiv \frac{(p_2^2 + p_3^2)}{(\Delta_1 - \Delta_2)} \quad (325)$$

まず、2 次摂動に関する行列要素を計算する：

$$\begin{aligned} (\hat{V}^{(2)})_{0,0} &= \sum_{m \neq n} \frac{\langle 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | 0 \rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_m)} = \frac{\langle 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | 0 \rangle}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{\langle 0 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | 0 \rangle}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} \\ &= \frac{|\langle 0 | \hat{V} | B \rangle|^2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{|\langle 0 | \hat{V} | D \rangle|^2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} = \frac{(a_{B,2} p_1)^2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{(-a_{D,2} p_1)^2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} \end{aligned} \quad (326)$$

$$\begin{aligned}
(\hat{V}^{(2)})_{8,8} &= \sum_{m \neq n} \frac{\langle 8|\hat{V}|\varphi_m^{(8)}\rangle\langle\varphi_m^{(8)}|\hat{V}|8\rangle}{(\epsilon_8 - \epsilon_m)} = \frac{\langle 8|\hat{V}|B\rangle\langle B|\hat{V}|8\rangle}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{\langle 8|\hat{V}|D\rangle\langle D|\hat{V}|8\rangle}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} + \frac{\langle 8|\hat{V}|10\rangle\langle 10|\hat{V}|8\rangle}{(-\epsilon_{10})} \\
&= \frac{|\langle 8|\hat{V}|B\rangle|^2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{|\langle 8|\hat{V}|D\rangle|^2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} + \frac{|\langle 8|\hat{V}|10\rangle|^2}{(-\epsilon_{10})} = \frac{(a_{B,6}p_4)^2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{(a_{D,6}p_4)^2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} + \frac{p_5^2}{(-\epsilon_{10})}
\end{aligned} \tag{327}$$

$$\begin{aligned}
(\hat{V}^{(2)})_{0,8} &= (\hat{V}^{(2)})_{8,0} = \sum_{m \neq n} \frac{\langle 0|\hat{V}|\varphi_m^{(8)}\rangle\langle\varphi_m^{(0)}|\hat{V}|8\rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_m)} = \frac{\langle 0|\hat{V}|B\rangle\langle B|\hat{V}|8\rangle}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{\langle 8|\hat{V}|D\rangle\langle D|\hat{V}|0\rangle}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} \\
&= \frac{(a_{B,2}p_1)(a_{B,6}p_4)}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{(-a_{D,2}p_1)(a_{D,6}p_4)}{(-\epsilon_{D_{2,6}})}
\end{aligned} \tag{328}$$

$\epsilon_{B_{2,6}} = \Delta_1 + \delta_0$, $\epsilon_{D_{2,6}} = \Delta_1$ であるから,

$$\begin{aligned}
(\hat{V}^{(2)})_{0,0} &= \frac{(a_{B,2}p_1)^2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{(-a_{D,2}p_1)^2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} = \frac{(a_{B,2}p_1)^2}{-(\Delta_1 + \delta_0)} + \frac{(-a_{D,2}p_1)^2}{-\Delta_1} \\
&= \frac{1}{2} \left(\frac{-\Delta_1 - \Delta_1 - \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)} \right) = \frac{1}{2} \left(\frac{-2\Delta_1 - \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)} \right)
\end{aligned} \tag{329}$$

$$(\hat{V}^{(2)})_{8,8} = \frac{(a_{B,6}p_4)^2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{(a_{D,6}p_4)^2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} + \frac{p_5^2}{(-\epsilon_{10})} = \frac{1/2}{-\Delta_1 - \delta_0} + \frac{1/2}{-\Delta_1} = \frac{1}{2} \frac{-2\Delta_1 - \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)} \tag{330}$$

$$\begin{aligned}
(\hat{V}^{(2)})_{0,8} &= \frac{(a_{B,2}p_1)(a_{B,6}p_4)}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{(-a_{D,2}p_1)(a_{D,6}p_4)}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{-\Delta_1 - \delta_0} - \frac{1}{-\Delta_1} \right) \\
&= \frac{1}{2} \left(\frac{\delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)} \right) = \frac{\delta_0}{B}
\end{aligned} \tag{331}$$

$$E_n^{(2)} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} + (\hat{V}^{(2)})_{8,8} \mp \sqrt{D}}{2}, \tag{332}$$

$$\begin{aligned}
D &= [(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - \hat{V}^{(2)}_{8,8}]^2 + 4(\hat{V}^{(2)})_{0,8}^2 \\
&= 4 \frac{1}{4} \left(\frac{\delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)} \right)^2 = \frac{\delta_0^2}{\{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)\}^2}
\end{aligned} \tag{333}$$

ここで断念

よって,

$$E_n^{(2)} = \frac{\frac{-2\Delta_1 - \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)} \mp \frac{\delta_0}{\{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)\}}}{2} = \frac{(-2\Delta_1 - \delta_0) \mp \delta_0}{2\{-\Delta_1(-\Delta_1 - \delta_0)\}} = \frac{A}{B} [1 \mp \delta_0/A] \tag{334}$$

ここで,

$$A \equiv (-2\Delta_1 + \delta_0) \quad (335)$$

$$B \equiv 2\{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)\} \quad (336)$$

$$\delta_0 = \frac{2p^2}{(\Delta_1 - \Delta_2)} \quad (337)$$

とおいた.

$E_n^{(2)} = E_{n,0}^{(2)}$ のとき, 規格化定数の比は

$$\frac{C_{0,0}}{C_{0,8}} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - E_{n,0}^{(2)}}{2(\hat{V}^{(2)})_{0,8}} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - (\hat{V}^{(2)})_{8,8} \pm \sqrt{D}}{2(\hat{V}^{(2)})_{0,8}} \quad (338)$$

となるから,

$$\frac{C_{0,0}}{C_{0,8}} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - E_{n,0}^{(2)}}{2(\hat{V}^{(2)})_{0,8}} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - (\hat{V}^{(2)})_{8,8} \pm \sqrt{D}}{2(\hat{V}^{(2)})_{0,8}} \quad (339)$$

これより, $C_{0,0} = C_{0,8} = 1/\sqrt{2}$ を得る. すなわち, 第 0 近似は

$$|\varphi_{n,0}^0\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + |8\rangle) \quad (340)$$

第 1 次近似は

$$|\varphi_{n,0}^1\rangle = |B_{2,6}\rangle \frac{p}{\epsilon_0 - \epsilon_{B_{2,6}}} \quad (341)$$

と求まるから,

$$|\varphi_{n,0}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + |8\rangle) + |B_{2,6}\rangle \frac{p}{\epsilon_0 - \epsilon_{B_{2,6}}} \quad (342)$$

第 8 励起状態について，同様に計算を行う

第 8 励起状態については，

$$\begin{aligned}
 |\varphi_{n,8}^{(1)}\rangle &= \sum_{\gamma \neq 8} |\varphi_n^{(0)}; 0\rangle \frac{1}{(E_{n,8}^{(2)} - E_{n,0}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
 &\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
 &\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
 &= |\varphi_n^{(0)}; 0\rangle \frac{1}{(E_{n,8}^{(2)} - E_{n,0}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
 &\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
 &\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
 &= |\varphi_n^{(0)}; 0\rangle \frac{1}{(E_{n,8}^{(2)} - E_{n,0}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | D_{2,6} \rangle \langle D_{2,6} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
 &\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | B_{2,6} \rangle \langle B_{2,6} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
 &\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
 &\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \tag{343}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,8}^{(1)}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; 0\rangle \frac{1}{(E_{n,8}^{(2)} - E_{n,0}^{(2)})} \\
&\times \left[\frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})^2} \right\} \\
&+ \left[\frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})^2} \right] \\
&+ |\varphi_{D_{2,6}}^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} + |\varphi_{B_{2,6}}^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \tag{344}
\end{aligned}$$

$|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle = C_{0,0} |0\rangle + C_{8,0} |8\rangle$, $|\varphi_n^{(0)}; 8\rangle = C_{0,8} |0\rangle + C_{8,8} |8\rangle$, $|\varphi_{D_{2,6}}^{(0)}\rangle = |D_{2,6}\rangle$, $|\varphi_{B_{2,6}}^{(0)}\rangle = |B_{2,6}\rangle$ であるから,

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,8}^{(1)}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; 0\rangle \frac{1}{(E_{n,8}^{(2)} - E_{n,0}^{(2)})} \\
&\times \left[\left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})^2} \right\} \\
&+ \left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})^2} \right\} \Bigg] \\
&+ |D_{2,6}\rangle \frac{\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} + |B_{2,6}\rangle \frac{\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \tag{345}
\end{aligned}$$

ここで,

$$\langle D | \hat{V} | D \rangle = \langle B | \hat{V} | B \rangle = \langle D | \hat{V} | B \rangle = \langle B | \hat{V} | D \rangle = 0 \tag{346}$$

$$E_n^{(1)} = 0 \tag{347}$$

$$\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle = C_{0,8} \langle D | \hat{V} | 0 \rangle + C_{8,8} \langle D | \hat{V} | 8 \rangle = C_{0,8}(-p/\sqrt{2}) + C_{8,8}(p/\sqrt{2}) \tag{348}$$

$$\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle = C_{0,8} \langle B | \hat{V} | 0 \rangle + C_{8,8} \langle B | \hat{V} | 8 \rangle = C_{0,8}(p/\sqrt{2}) + C_{8,8}(p/\sqrt{2}) \tag{349}$$

であるから,

$$|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle = |D_{2,6}\rangle \frac{\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_8 - \epsilon_{D_{2,6}})} + |B_{2,6}\rangle \frac{\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 8 \rangle}{(\epsilon_8 - \epsilon_{B_{2,6}})} \tag{350}$$

$$\begin{aligned}
&= |D_{2,6}\rangle \frac{1}{(\epsilon_8 - \epsilon_{D_{2,6}})} \left\{ C_{0,8}(-p/\sqrt{2}) + C_{8,8}(p/\sqrt{2}) \right\} \\
&+ |B_{2,6}\rangle \frac{1}{(\epsilon_8 - \epsilon_{B_{2,6}})} \left\{ C_{0,8}(p/\sqrt{2}) + C_{8,8}(p/\sqrt{2}) \right\} \tag{351}
\end{aligned}$$

$$|\varphi_{n,8}^{(1)}\rangle = |D_{2,6}\rangle \frac{p}{(\epsilon_8 - \epsilon_{D_{2,6}})} \quad (352)$$

$$|\varphi_{n,8}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-|0\rangle + |8\rangle) + |D_{2,6}\rangle \frac{p}{\epsilon_0 - \epsilon_{D_{2,6}}} \quad (353)$$

9.4 縮退のない摂動論への移行

上での摂動計算によって、摂動論により、補正された固有状態が次のように得られた：

$$|B'_{0,8}\rangle \equiv |\varphi_{n,0}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + |8\rangle) + \delta_1 |B_{2,6}\rangle, \quad (354)$$

$$\delta_1 \equiv \frac{p}{(\epsilon_0 - \epsilon_{B_{2,6}})} \quad (355)$$

$$|D'_{0,8}\rangle \equiv |\varphi_{n,8}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-|0\rangle + |8\rangle) + \delta_2 |D_{2,6}\rangle, \quad (356)$$

$$\delta_2 \equiv \frac{p}{(\epsilon_0 - \epsilon_{D_{2,6}})} \quad (357)$$

これで、すべての状態について、縮退が解け、縮退のない摂動論を用いて、有効模型の Hamiltonian のエネルギー固有値、対応するエネルギー固有状態を求めることが可能となる。まず、有効模型の摂動 Hamiltonian

$$\hat{V}^{\text{eff}} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & p_1 - p & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ p_1 - p & 0 & p_2 - p & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & p_2 - p & 0 & p_3 - p & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & p_3 - p & 0 & p_4 - p & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & p_4 - p & 0 & p_5 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & p_5 & 0 & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (358)$$

を基底 $\{|0\rangle, |2\rangle, |4\rangle, |6\rangle, |8\rangle, |10\rangle, |12\rangle\}$ で \hat{V}^{eff} を表示すると、

$$\hat{V}^{\text{eff}} = \begin{matrix} & \langle 4| & \langle D_{2,6}| & \langle B_{2,6}| & \langle D'_{0,8}| & \langle B'_{0,8}| & \langle 10| & \langle 12| \\ \begin{matrix} |4\rangle \\ |D_{2,6}\rangle \\ |B_{2,6}\rangle \\ |D'_{0,8}\rangle \\ |B'_{0,8}\rangle \\ |10\rangle \\ |12\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & \langle 4|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & \langle 4|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & \langle 4|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle 4|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & 0 & 0 \\ \langle 4|\hat{V}|D_{2,6}\rangle & 0 & 0 & \langle D_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & 0 & 0 \\ \langle 4|\hat{V}|B_{2,6}\rangle & 0 & 0 & \langle B_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & 0 & 0 \\ \langle 4|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle D'_{0,8}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle D'_{0,8}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & \langle 10|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & 0 \\ \langle 4|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & \langle D_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & \langle B_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & \langle B'_{0,8}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle B'_{0,8}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle & \langle 10|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & 0 \\ 0 & 0 & 0 & \langle 10|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & \langle 10|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle & 0 & p_6 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & p_6 & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (359)$$

となる．行列要素が，0 となる場合だけ，あからさまに 0 と記述した．それ以外の，行列要素の具体的な値は，以下のように求まる：

$$\langle 4|\hat{V}|4\rangle = 0 \quad (360)$$

$$\langle 4|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \langle D_{2,6}|\hat{V}|4\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-\langle 4|\hat{V}|2\rangle + \langle 4|\hat{V}|6\rangle) = \frac{1}{\sqrt{2}}\{-(p_2 - p) + (p_3 - p)\} \quad (361)$$

$$\langle 4|\hat{V}|B_{2,6}\rangle = \langle B_{2,6}|\hat{V}|4\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(\langle 4|\hat{V}|2\rangle + \langle 4|\hat{V}|6\rangle) = \frac{1}{\sqrt{2}}\{(p_2 - p) + (p_3 - p)\} \quad (362)$$

$$\begin{aligned} \langle 4|\hat{V}|D_{0,8}\rangle &= \langle D_{0,8}|\hat{V}|4\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-\langle 4|\hat{V}|0\rangle + \langle 4|\hat{V}|8\rangle) + \delta_2\langle 4|\hat{V}|D_{2,6}\rangle \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}}(0 + 0) + \frac{\delta_2}{\sqrt{2}}\{-(p_2 - p) + (p_3 - p)\} \end{aligned} \quad (363)$$

$$\begin{aligned} \langle 4|\hat{V}|B_{0,8}\rangle &= \langle B_{0,8}|\hat{V}|4\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(\langle 4|\hat{V}|0\rangle + \langle 4|\hat{V}|8\rangle) + \delta_2\langle 4|\hat{V}|B_{2,6}\rangle \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}}(0 + 0) + \frac{\delta_1}{\sqrt{2}}\{(p_2 - p) + (p_3 - p)\} \end{aligned} \quad (364)$$

$$(365)$$

$$\langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \frac{1}{2}(-\langle 2|\hat{V}|6\rangle - \langle 6|\hat{V}|2\rangle) = 0 \quad (366)$$

$$\langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle = \langle B_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \frac{1}{2}(-\langle 2|\hat{V}|6\rangle + \langle 6|\hat{V}|2\rangle) = 0 \quad (367)$$

$$\begin{aligned} \langle D_{2,6}|\hat{V}|D'_{0,8}\rangle &= \langle D'_{0,8}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{0,8}\rangle + \delta_2\langle D_{2,6}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle \\ &= \frac{1}{2}(\langle 2|\hat{V}|0\rangle + \langle 6|\hat{V}|8\rangle) + \delta_2 \cdot 0 \\ &= \frac{1}{2}\{(p_1 - p) + (p_4 - p)\} \end{aligned} \quad (368)$$

$$\begin{aligned} \langle D_{2,6}|\hat{V}|B'_{0,8}\rangle &= \langle B'_{0,8}|\hat{V}|D_{2,6}\rangle = \langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{0,8}\rangle + \delta_1\langle D_{2,6}|\hat{V}|B_{2,6}\rangle \\ &= \frac{1}{2}(-\langle 2|\hat{V}|0\rangle + \langle 6|\hat{V}|8\rangle) + \delta_1 \cdot 0 \\ &= \frac{1}{2}\{-(p_1 - p) + (p_4 - p)\} \end{aligned} \quad (369)$$

10 高次の摂動の計算について

今, KPO の光子数固有状態について, $|0\rangle, |4\rangle$ が縮退している場合を考える. また, 高励起エネルギー固有状態は考えないとする. この場合の Hamiltonian は,

$$\hat{H} = \hat{H}_0 + \hat{H}' \quad (370)$$

$$\hat{H}_0 = \Delta |2\rangle \langle 2|$$

$$\hat{H}' = p(|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2| + |2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4|) = p(\hat{A} + \hat{A}^\dagger) \quad (371)$$

ここで, $\hat{A} = |0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2|$ である. Hamiltonian を $|0\rangle, |2\rangle, |4\rangle$ の基底を使って, 行列表示すると,

$$\hat{H} = \begin{pmatrix} 0 & p & 0 \\ p & \Delta & p \\ 0 & p & 0 \end{pmatrix} \quad (372)$$

この Hamiltonian を対角化すると

10.1 KPO に関する摂動論

偶数番目の Fock 状態で表現すれば

$$\hat{H}_{\text{KPO}} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| & \cdots & \cdots \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \\ \vdots \\ \vdots \end{matrix} & \begin{pmatrix} E_0 & \sqrt{2 \cdot 1}\beta & 0 & 0 & 0 & \cdots & \cdots \\ \sqrt{2 \cdot 1}\beta & E_2 & \sqrt{4 \cdot 3}\beta & 0 & 0 & \cdots & \cdots \\ 0 & \sqrt{4 \cdot 3}\beta & E_4 & \sqrt{6 \cdot 5}\beta & 0 & \cdots & \cdots \\ 0 & 0 & \sqrt{6 \cdot 5}\beta & E_6 & \sqrt{8 \cdot 7}\beta & \cdots & \cdots \\ 0 & 0 & 0 & \sqrt{8 \cdot 7}\beta & E_8 & \cdots & \cdots \\ \vdots & \vdots & \vdots & \vdots & \cdots & \ddots & \vdots \\ \vdots & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & \cdots & \ddots \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (373)$$

まず, $n = 0$ と $n = 8$ が縮退している場合を考えよう. この場合の Hamiltonian は以下のように書ける:

$$\hat{H}_{\text{KPO}} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} E_0 & \sqrt{2 \cdot 1}\beta & 0 & 0 & 0 \\ \sqrt{2 \cdot 1}\beta & E_2 & \sqrt{4 \cdot 3}\beta & 0 & 0 \\ 0 & \sqrt{4 \cdot 3}\beta & E_4 & \sqrt{6 \cdot 5}\beta & 0 \\ 0 & 0 & \sqrt{6 \cdot 5}\beta & E_6 & \sqrt{8 \cdot 7}\beta \\ 0 & 0 & 0 & \sqrt{8 \cdot 7}\beta & E_8 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (374)$$

$$= \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 4| & \langle 6| & \langle 8| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |4\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & \sqrt{2 \cdot 1}\beta & 0 & 0 & 0 \\ \sqrt{2 \cdot 1}\beta & \Delta_1 & \sqrt{4 \cdot 3}\beta & 0 & 0 \\ 0 & \sqrt{4 \cdot 3}\beta & \Delta_2 & \sqrt{6 \cdot 5}\beta & 0 \\ 0 & 0 & \sqrt{6 \cdot 5}\beta & \Delta_1 & \sqrt{8 \cdot 7}\beta \\ 0 & 0 & 0 & \sqrt{8 \cdot 7}\beta & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (375)$$

ここで, $E_0 = E_8 = 0$, $E_2 = E_6 = \Delta_1$, $E_4 = \Delta_2$ である.

Step1 : $n = 2, 4, 6$ の部分空間での厳密解

$$\hat{H} = \begin{pmatrix} \Delta_1 & p_1 & 0 \\ p_1 & \Delta_2 & p_2 \\ 0 & p_2 & \Delta_1 \end{pmatrix} \quad (376)$$

エネルギー固有値

$$E_D = \Delta_1 \quad (377)$$

$$\begin{aligned} E_B &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \end{aligned} \quad (378)$$

$$\begin{aligned} E_4 &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 + \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 + \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \end{aligned} \quad (379)$$

固有状態 $|2\rangle, |4\rangle, |6\rangle$ で展開する.

$$|\psi_D\rangle = C_0 \left\{ -\frac{p_3}{p_2}, 0, 1 \right\} \quad (380)$$

$$\begin{aligned} |\psi_B\rangle &= C_1 \left\{ \frac{p_2}{p_3}, -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 + \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2}}{2p_3}, 1 \right\} \\ &= C_1 \left\{ \frac{p_2}{p_3}, -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 + \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2}}{2p_3}, 1 \right\} \\ &= C_1 \left\{ \frac{p_2}{p_3}, \epsilon_+(\Delta_1, \Delta_2, p_1, p_2), 1 \right\} \end{aligned} \quad (381)$$

$$\begin{aligned} |\psi_4\rangle &= C_2 \left\{ \frac{p_2}{p_3}, -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2}}{2p_3}, 1 \right\} \\ &= C_2 \left\{ \frac{p_2}{p_3}, \epsilon_-(\Delta_1, \Delta_2, p_1, p_2), 1 \right\} \end{aligned} \quad (382)$$

$$\epsilon_{\pm}(\Delta_1, \Delta_2, p_1, p_2) = -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 \pm \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2}}{2p_3} \quad (383)$$

規格化

$$|D_{2,6}\rangle \equiv |\psi_0\rangle = \begin{pmatrix} -\frac{p_2}{p_1 \sqrt{\left|\frac{p_2}{p_1}\right|^2 + 1}} \\ 0 \\ \frac{1}{\sqrt{\left|\frac{p_2}{p_1}\right|^2 + 1}} \end{pmatrix} \quad (384)$$

$$|B_{2,6}\rangle \equiv |\psi_1\rangle = \begin{pmatrix} \frac{p_1}{p_2 \sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \\ -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 + \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_1^2 + 4p_2^2}}{2p_2 \sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{p_1}{p_2 \sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \\ \frac{\epsilon_+}{\sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_+|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \end{pmatrix} \quad (385)$$

$$|4\rangle \equiv |\psi_2\rangle = \begin{pmatrix} \frac{p_1}{p_2 \sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \\ -\frac{\Delta_1 - \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_1^2 + 4p_2^2}}{2p_2 \sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{p_1}{p_2 \sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \\ \frac{\epsilon_-}{\sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \\ \frac{1}{\sqrt{|\epsilon_-|^2 + \left|\frac{p_1}{p_2}\right|^2 + 1}} \end{pmatrix} \quad (386)$$

ここで、パラメトリックドライブの振幅 β が十分小さい場合、
 $1/\sqrt{2} \simeq 0.70710678118$

$$\hat{H}_0 = E_0 |0\rangle \langle 0| + E_8 |8\rangle \langle 8| + E_{D_{2,6}} |D_{2,6}\rangle \langle D| + E_B |B_{2,6}\rangle \langle B| \quad (387)$$

$$\hat{V} = \sqrt{2 \cdot 1} \beta |0\rangle \langle 2| + \sqrt{8 \cdot 7} \beta |8\rangle \langle 6| + \text{h.c.} \quad (388)$$

$$\hat{H}_{\text{KPO}} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 2| & \langle 6| & \langle 8| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |2\rangle \\ |6\rangle \\ |8\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & \sqrt{2 \cdot 1} \beta & 0 & 0 \\ \sqrt{2 \cdot 1} \beta & \Delta_1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & \Delta_1 & \sqrt{8 \cdot 7} \beta \\ 0 & 0 & \sqrt{8 \cdot 7} \beta & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (389)$$

次の状態を定義する：

$$|D\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(-|2\rangle + |6\rangle) \quad (390)$$

$$|B_{2,6}\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|2\rangle + |6\rangle) \quad (391)$$

摂動 Hamiltonian を基底 $\{|0\rangle, |8\rangle, |D\rangle, |B_{2,6}\rangle\}$ で展開する：

$$\hat{V} = \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 8| & \langle D| & \langle B| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |8\rangle \\ |D\rangle \\ |B_{2,6}\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} \langle 0|\hat{V}|0\rangle & \langle 0|\hat{V}|8\rangle & \langle 0|\hat{V}|D\rangle & \langle 0|\hat{V}|B\rangle \\ \langle 8|\hat{V}|0\rangle & \langle 8|\hat{V}|8\rangle & \langle 8|\hat{V}|D\rangle & \langle 8|\hat{V}|B\rangle \\ \langle D|\hat{V}|0\rangle & \langle D|\hat{V}|8\rangle & \langle D|\hat{V}|D\rangle & \langle D|\hat{V}|B\rangle \\ \langle B|\hat{V}|0\rangle & \langle B|\hat{V}|8\rangle & \langle B|\hat{V}|D\rangle & \langle B|\hat{V}|B\rangle \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (392)$$

$$= \begin{matrix} & \langle 0| & \langle 8| & \langle D| & \langle B| \\ \begin{matrix} |0\rangle \\ |8\rangle \\ |D\rangle \\ |B_{2,6}\rangle \end{matrix} & \begin{pmatrix} 0 & 0 & -\sqrt{2}\beta/\sqrt{2} & \sqrt{2}\beta/\sqrt{2} \\ 0 & 0 & \sqrt{8 \cdot 7}\beta/\sqrt{2} & \sqrt{8 \cdot 7}\beta/\sqrt{2} \\ -\sqrt{2}\beta/\sqrt{2} & \sqrt{2}\beta/\sqrt{2} & 0 & 0 \\ \sqrt{8 \cdot 7}\beta/\sqrt{2} & \sqrt{8 \cdot 7}\beta/\sqrt{2} & 0 & 0 \end{pmatrix} \end{matrix} \quad (393)$$

$$\langle 0|\hat{V}|D\rangle = \langle D|\hat{V}|0\rangle = -\sqrt{2}\beta/\sqrt{2} \quad (394)$$

$$\langle 0|\hat{V}|B\rangle = \langle B|\hat{V}|0\rangle = \sqrt{2}\beta/\sqrt{2} \quad (395)$$

$$\langle 8|\hat{V}|D\rangle = \langle D|\hat{V}|8\rangle = \sqrt{8 \cdot 7}\beta/\sqrt{2} \quad (396)$$

$$\langle 8|\hat{V}|B\rangle = \langle B|\hat{V}|8\rangle = \sqrt{8 \cdot 7}\beta/\sqrt{2} \quad (397)$$

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle &= \sum_{\gamma \neq 0} |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; \gamma | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
&= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\sum_{p \neq n} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_p^{(0)} \rangle \langle \varphi_p^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_p)} \right. \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \\
&= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \sum_{m \neq n} \left[\frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)^2} \right] \\
&\quad + \sum_{m \neq n} |\varphi_m^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \tag{398}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \\
&\times \left[\frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})^2} \right\} \\
&+ \left[\frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} \rangle \langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})^2} \right] \\
&+ |\varphi_{D_{2,6}}^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_{D_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} + |\varphi_{B_{2,6}}^{(0)}\rangle \frac{\langle \varphi_{B_{2,6}}^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \tag{399}
\end{aligned}$$

$|\varphi_n^{(0)}; 0\rangle = C_{0,0} |0\rangle + C_{8,0} |8\rangle$, $|\varphi_n^{(0)}; 8\rangle = C_{0,8} |0\rangle + C_{8,8} |8\rangle$, $|\varphi_{D_{2,6}}^{(0)}\rangle = |D\rangle$, $|\varphi_{B_{2,6}}^{(0)}\rangle = |B_{2,6}\rangle$ であるから,

$$\begin{aligned}
|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle &= |\varphi_n^{(0)}; 8\rangle \frac{1}{(E_{n,0}^{(2)} - E_{n,8}^{(2)})} \\
&\times \left[\left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})^2} \right\} \\
&+ \left\{ \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} \right. \\
&\quad + \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \\
&\quad \left. - E_n^{(1)} \frac{\langle \langle \varphi_n^{(0)}; 8 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})^2} \right\} \\
&+ |D\rangle \frac{\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{D_{2,6}})} + |B_{2,6}\rangle \frac{\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_{B_{2,6}})} \tag{400}
\end{aligned}$$

ここで,

$$\langle D | \hat{V} | D \rangle = \langle B | \hat{V} | B \rangle = \langle D | \hat{V} | B \rangle = \langle B | \hat{V} | D \rangle = 0 \tag{401}$$

$$E_n^{(1)} = 0 \tag{402}$$

$$\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle = C_{0,0} \langle D | \hat{V} | 0 \rangle + C_{8,0} \langle D | \hat{V} | 8 \rangle = C_{0,0}(-\sqrt{2}\beta/\sqrt{2}) + C_{8,0}(\sqrt{8 \cdot 7}\beta/\sqrt{2}) \tag{403}$$

$$\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle = C_{0,0} \langle B | \hat{V} | 0 \rangle + C_{8,0} \langle B | \hat{V} | 8 \rangle = C_{0,0}(\sqrt{2}\beta/\sqrt{2}) + C_{8,0}(\sqrt{8 \cdot 7}\beta/\sqrt{2}) \tag{404}$$

であるから,

$$|\varphi_{n,0}^{(1)}\rangle = |D\rangle \frac{\langle D | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_{D_{2,6}})} + |B_{2,6}\rangle \frac{\langle B | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; 0 \rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_{B_{2,6}})} \tag{405}$$

$$\begin{aligned}
&= |D\rangle \frac{1}{(\epsilon_0 - \epsilon_{D_{2,6}})} \left\{ C_{0,0}(-\sqrt{2}\beta/\sqrt{2}) + C_{8,0}(\sqrt{8 \cdot 7}\beta/\sqrt{2}) \right\} \\
&+ |B_{2,6}\rangle \frac{1}{(\epsilon_0 - \epsilon_{B_{2,6}})} \left\{ C_{0,0}(\sqrt{2}\beta/\sqrt{2}) + C_{8,0}(\sqrt{8 \cdot 7}\beta/\sqrt{2}) \right\} \tag{406}
\end{aligned}$$

永年方程式を解き，2 次の補正項と規格化定数を求める

永年方程式

$$\sum_{\beta=1}^N \left[E_n^{(2)} \delta_{\alpha,\beta} - (\hat{V}^{(2)})_{\alpha,\beta} \right] C_{\beta,\alpha} = 0, \quad (407)$$

ここで，

$$(\hat{V}^{(2)})_{\alpha,\beta} \equiv \sum_{m \neq n} \frac{\langle \varphi_n^{(0)}; \alpha | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | \varphi_n^{(0)}; \beta \rangle}{(\epsilon_n - \epsilon_m)} \quad (408)$$

を解き，エネルギー固有値の2 次の補正項 $E_{n,0}^{(2)}$, $E_{n,8}^{(2)}$ と固有状態の第ゼロ近似に関する展開係数， $C_{0,0}$, $C_{8,0}$, $C_{0,8}$, $C_{8,8}$ を求める．

まず，非摂動ハミルトニアン of エネルギー固有値のうち，縮退していない状態のエネルギー固有値は以下のように与えられる：

$$\epsilon_{D_{2,6}} = \Delta_1 \quad (409)$$

$$\begin{aligned} \epsilon_{B_{2,6}} &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - \sqrt{\Delta_1^2 - 2\Delta_1\Delta_2 + \Delta_2^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} \right) \\ &= \frac{1}{2} (\Delta_1 + \Delta_2 - \epsilon) \end{aligned} \quad (410)$$

ここで，

$$\epsilon \equiv \sqrt{(\Delta_1 - \Delta_2)^2 + 4p_2^2 + 4p_3^2} = (\Delta_1 - \Delta_2) \sqrt{1 + \frac{4p_2^2 + 4p_3^2}{(\Delta_2 - \Delta_1)^2}} \quad (411)$$

とおいた．

$$x \equiv \frac{4p_2^2 + 4p_3^2}{(\Delta_2 - \Delta_1)^2} \quad (412)$$

とおき，次の Taylor 展開の公式を

$$\sqrt{1+x} = 1 + \frac{x}{2} - \frac{x^2}{8} + \frac{x^3}{16} - \frac{5x^4}{128} + \frac{7x^5}{256} + O(x^6) \quad (413)$$

使うと,

$$\begin{aligned}
\epsilon &\simeq (\Delta_1 - \Delta_2) \sqrt{1 + \frac{4p_2^2 + 4p_3^2}{(\Delta_2 - \Delta_1)^2}} \\
&= (\Delta_2 - \Delta_1) \left(1 + \frac{4p_2^2 + 4p_3^2}{2(\Delta_2 - \Delta_1)^2} \right) = (\Delta_2 - \Delta_1) \left(1 + \frac{2(p_2^2 + p_3^2)}{(\Delta_2 - \Delta_1)^2} \right) \\
&= (\Delta_2 - \Delta_1) + \frac{2(p_2^2 + p_3^2)}{(\Delta_2 - \Delta_1)}
\end{aligned} \tag{414}$$

となり, エネルギー固有値 $\epsilon_{B_{2,6}}$ は以下のようになる:

$$\epsilon_{B_{2,6}} \simeq \frac{1}{2} \left(\Delta_1 + \Delta_2 - (\Delta_2 - \Delta_1) + \frac{2(p_2^2 + p_3^2)}{(\Delta_2 - \Delta_1)} \right) = \Delta_1 - \frac{p_2^2 + p_3^2}{(\Delta_2 - \Delta_1)} = \Delta_1 - \delta_0 \tag{415}$$

ここで,

$$\delta_0 \equiv \frac{p_2^2 + p_3^2}{(\Delta_2 - \Delta_1)} \tag{416}$$

まず, 2 次摂動に関する行列要素を計算する:

$$\begin{aligned}
(\hat{V}^{(2)})_{0,0} &= \sum_{m \neq n} \frac{\langle 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(0)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | 0 \rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_m)} = \frac{\langle 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | 0 \rangle}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{\langle 0 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | 0 \rangle}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} \\
&= \frac{|\langle 0 | \hat{V} | B \rangle|^2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{|\langle 0 | \hat{V} | D \rangle|^2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} = \frac{(2 \cdot 1)/2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{(2 \cdot 1)/2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})}
\end{aligned} \tag{417}$$

$$\begin{aligned}
(\hat{V}^{(2)})_{8,8} &= \sum_{m \neq n} \frac{\langle 8 | \hat{V} | \varphi_m^{(8)} \rangle \langle \varphi_m^{(8)} | \hat{V} | 8 \rangle}{(\epsilon_8 - \epsilon_m)} = \frac{\langle 8 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | 8 \rangle}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{\langle 8 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | 8 \rangle}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} \\
&= \frac{|\langle 8 | \hat{V} | B \rangle|^2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{|\langle 8 | \hat{V} | D \rangle|^2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} = \frac{(8 \cdot 7)/2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{(8 \cdot 7)/2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})}
\end{aligned} \tag{418}$$

$$\begin{aligned}
(\hat{V}^{(2)})_{0,8} &= (\hat{V}^{(2)})_{8,0} = \sum_{m \neq n} \frac{\langle 0 | \hat{V} | \varphi_m^{(8)} \rangle \langle \varphi_m^{(0)} | \hat{V} | 8 \rangle}{(\epsilon_0 - \epsilon_m)} = \frac{\langle 0 | \hat{V} | B \rangle \langle B | \hat{V} | 8 \rangle}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{\langle 8 | \hat{V} | D \rangle \langle D | \hat{V} | 0 \rangle}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} \\
&= \frac{\sqrt{8 \cdot 7 \cdot 2 \cdot 1}/2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{-\sqrt{8 \cdot 7 \cdot 2 \cdot 1}/2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})}
\end{aligned} \tag{419}$$

$\epsilon_{B_{2,6}} = \Delta_1 - \delta_0$, $\epsilon_{D_{2,6}} = \Delta_1$ であるから,

$$\begin{aligned}
(\hat{V}^{(2)})_{0,0} &= \frac{1/2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{1/2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} = \frac{1}{-\Delta_1 + \delta_0} + \frac{1}{-\Delta_1} \\
&= \frac{-\Delta_1 - \Delta_1 + \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)} = \frac{-2\Delta_1 + \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)}
\end{aligned} \tag{420}$$

$$(\hat{V}^{(2)})_{8,8} = \frac{(8 \cdot 7)/2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{(8 \cdot 7)/2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} = \frac{(8 \cdot 7)/2}{-\Delta_1 + \delta_0} + \frac{(8 \cdot 7)/2}{-\Delta_1} = \frac{8 \cdot 7}{2} \frac{-2\Delta_1 + \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)} \quad (421)$$

$$\begin{aligned} (\hat{V}^{(2)})_{0,8} &= \frac{\sqrt{8 \cdot 7 \cdot 2 \cdot 1}/2}{(-\epsilon_{B_{2,6}})} + \frac{-\sqrt{8 \cdot 7 \cdot 2 \cdot 1}/2}{(-\epsilon_{D_{2,6}})} = \frac{\sqrt{8 \cdot 7 \cdot 2 \cdot 1}}{2} \left(\frac{1}{-\Delta_1 + \delta_0} - \frac{1}{-\Delta_1} \right) \\ &= \frac{\sqrt{8 \cdot 7 \cdot 2 \cdot 1}}{2} \left(\frac{-\delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)} \right) = \frac{\epsilon'}{B} \end{aligned} \quad (422)$$

ここで, $\epsilon' = \sqrt{8 \cdot 7 \cdot 2 \cdot 1}(-\delta_0)$ とおいた.

$$E_n^{(2)} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} + (\hat{V}^{(2)})_{8,8} \mp \sqrt{D}}{2}, \quad (423)$$

$$\begin{aligned} D &= [(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - (\hat{V}^{(2)})_{8,8}]^2 + 4(\hat{V}^{(2)})_{0,8}^2 \\ &= (28 - 1)^2 \left(\frac{-2\Delta_1 + \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)} \right)^2 + 4 \frac{8 \cdot 7 \cdot 2}{4} \left(\frac{-\delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)} \right)^2 \\ &= \frac{27^2(-2\Delta_1 + \delta_0)^2 + 8 \cdot 7 \cdot 2\delta_0^2}{\{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)\}^2} \end{aligned} \quad (424)$$

よって,

$$\begin{aligned} E_n^{(2)} &= \frac{27 \frac{-2\Delta_1 + \delta_0}{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)} \mp \sqrt{\frac{27^2(-2\Delta_1 + \delta_0)^2 + 8 \cdot 7 \cdot 2\delta_0^2}{\{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)\}^2}}}{2} \\ &= \frac{27(-2\Delta_1 + \delta_0) \mp \sqrt{27^2(-2\Delta_1 + \delta_0)^2 + 8 \cdot 7 \cdot 2\delta_0^2}}{2\{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)\}} \\ &= \frac{27(-2\Delta_1 + \delta_0)}{2\{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)\}} \left[1 \mp \sqrt{1 + \frac{8 \cdot 7 \cdot 2\delta_0^2}{27^2(-2\Delta_1 + \delta_0)^2}} \right] \\ &= \frac{A}{B} [1 \mp \sqrt{1 + \delta}] \end{aligned} \quad (425)$$

ここで,

$$A \equiv 27(-2\Delta_1 + \delta_0) \quad (426)$$

$$B \equiv 2\{-\Delta_1(-\Delta_1 + \delta_0)\} \quad (427)$$

$$C \equiv \epsilon'^2 = 8 \cdot 7 \cdot 2\delta_0^2 \quad (428)$$

$$\delta = C/A^2 \quad (429)$$

$$\delta_0 = \frac{p_2^2 + p_3^2}{(\Delta_2 - \Delta_1)} \quad (430)$$

とおいた.

$E_n^{(2)} = E_{n,0}^{(2)}$ のとき, 規格化定数は

$$\frac{C_{0,0}}{C_{0,8}} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - E_{n,0}^{(2)}}{2(\hat{V}^{(2)})_{0,8}} = \frac{(\hat{V}^{(2)})_{0,0} - (\hat{V}^{(2)})_{8,8} \pm \sqrt{D}}{2(\hat{V}^{(2)})_{0,8}} \quad (431)$$

$$(432)$$

第 V 部

その他の摂動論について

11 Schrieffer-Wolff 変換

Schrieffer-Wolff 変換とは, 非対角項を持つ Hamiltonian に対して, 近似的に対角化を行う, 一種の摂動論である.

Schrieffer-Wolff transformation is a perturbation theory which a Hamiltonian with off-diagonal elements approximately diagonalize.

We consider the following Hamiltonian

$$\hat{H} = \hat{H}_0 + \lambda \hat{V} \quad (433)$$

where, \hat{H}_0 is the non-perturbative Hamiltonian and \hat{V} is the interaction Hamiltonian. Here, we decompose $\hat{V} = \hat{H}_1 + \hat{H}_2$, where \hat{H}_1 and \hat{H}_2 denote ブロック対角 Hamiltonian and 非対角ブロック Hamiltonian.

The Schrieffer-Wolff transformation is defined by

$$\hat{H}' \equiv e^{\hat{S}} \hat{H} e^{-\hat{S}}, \quad (434)$$

where \hat{S} is an anti-Hermitian operator.

We choose \hat{S} such that \hat{H}' satisfies

Using BCH-formula,

$$e^{\hat{S}} \hat{H} e^{-\hat{S}} = \hat{H} + [\hat{S}, \hat{H}] + \frac{1}{2!} [\hat{S}, [\hat{S}, \hat{H}]] + \frac{1}{3!} [\hat{S}, [\hat{S}, [\hat{S}, \hat{H}]]] + \dots \quad (435)$$

$$\begin{aligned} e^{\hat{S}} \hat{H} e^{-\hat{S}} &= \hat{H}_0 + \lambda \hat{V} + [\hat{S}, \hat{H}_0 + \lambda \hat{V}] + \frac{1}{2!} [\hat{S}, [\hat{S}, \hat{H}_0 + \lambda \hat{V}]] + \frac{1}{3!} [\hat{S}, [\hat{S}, [\hat{S}, \hat{H}_0 + \lambda \hat{V}]]] + \dots \\ &= \hat{H}_0 + \lambda \hat{V} + [\hat{S}, \hat{H}_0] + \lambda [\hat{S}, \hat{V}] + \frac{1}{2!} [\hat{S}, [\hat{S}, \hat{H}_0]] + \frac{1}{2!} \lambda [\hat{S}, [\hat{S}, \hat{V}]] + \dots \end{aligned} \quad (436)$$

$$= \hat{H}_0 + \hat{W}, \quad (437)$$

where

$$\hat{W} = \lambda \hat{V} + [\hat{S}, \hat{H}_0] + \lambda [\hat{S}, \hat{V}] + \frac{1}{2!} [\hat{S}, [\hat{S}, \hat{H}_0]] + \frac{1}{2!} \lambda [\hat{S}, [\hat{S}, \hat{V}]] + \dots \quad (438)$$

この演算子は level-shift 演算子と呼ばれている.

11.1 Iterative calculation of \hat{S}

We expand \hat{S} as $\sum_n \lambda^n \hat{S}_n$, so we obtain

$$\begin{aligned}
e^{\hat{S}} \hat{H} e^{-\hat{S}} &= \hat{H}_0 + \lambda \hat{V} + \left[\sum_n \lambda^n \hat{S}_n, \hat{H}_0 \right] + \lambda \left[\sum_n \lambda^n \hat{S}_n, \hat{V} \right] \\
&+ \frac{1}{2!} \left[\sum_n \lambda^n \hat{S}_n, \left[\sum_n \lambda^n \hat{S}_n, \hat{H}_0 \right] \right] + \frac{1}{2!} \lambda \left[\sum_n \lambda^n \hat{S}_n, \left[\sum_n \lambda^n \hat{S}_n, \hat{V} \right] \right] + \dots \\
&= \hat{H}_0 + \lambda \hat{V} + \lambda [\hat{S}_1, \hat{H}_0] + \lambda^2 [\hat{S}_2, \hat{H}_0] + \lambda^2 [\hat{S}_1, \hat{V}] + \frac{1}{2!} \lambda^2 [\hat{S}_1, [\hat{S}_1, \hat{H}_0]] + \mathcal{O}(\lambda^3) \\
&= \hat{H}_0 + \lambda \left\{ \hat{V} + [\hat{S}_1, \hat{H}_0] \right\} + \lambda^2 \left\{ [\hat{S}_2, \hat{H}_0] + [\hat{S}_1, \hat{V}] + \frac{1}{2} [\hat{S}_1, [\hat{S}_1, \hat{H}_0]] \right\} + \mathcal{O}(\lambda^3) \quad (439)
\end{aligned}$$

λ の次数について、整理すると、

$$\begin{aligned}
e^{\hat{S}} \hat{H} e^{-\hat{S}} &= \hat{H}_0 + \lambda \left\{ \hat{V} + [\hat{S}_1, \hat{H}_0] \right\} \\
&+ \lambda^2 \left\{ [\hat{S}_2, \hat{H}_0] + [\hat{S}_1, \hat{V}] + \frac{1}{2} [\hat{S}_1, [\hat{S}_1, \hat{H}_0]] \right\} + \mathcal{O}(\lambda^3) \quad (440)
\end{aligned}$$

$$e^{\hat{S}} \hat{H} e^{-\hat{S}} = \hat{H}_0 + \lambda \left\{ \hat{V} + [\hat{S}_1, \hat{H}_0] \right\} + \lambda^2 \left\{ [\hat{S}_2, \hat{H}_0] + [\hat{S}_1, \hat{V}] + \frac{1}{2} [\hat{S}_1, [\hat{S}_1, \hat{H}_0]] \right\} + \mathcal{O}(\lambda^3) \quad (441)$$

We have $\hat{V} = \hat{H}_1 + \hat{H}_2$ and obtain

$$\begin{aligned}
e^{\hat{S}} \hat{H} e^{-\hat{S}} &= \hat{H}_0 + \lambda \left\{ \hat{H}_1 + \hat{H}_2 + [\hat{S}_1, \hat{H}_0] \right\} + \lambda^2 \left\{ [\hat{S}_2, \hat{H}_0] + [\hat{S}_1, \hat{H}_1] + [\hat{S}_1, \hat{H}_2] + \frac{1}{2} [\hat{S}_1, [\hat{S}_1, \hat{H}_0]] \right\} + \mathcal{O}(\lambda^3) \\
&= \hat{H}_0 + \lambda \hat{H}_1 + \lambda^2 \left\{ [\hat{S}_1, \hat{H}_2] + \frac{1}{2} [\hat{S}_1, [\hat{S}_1, \hat{H}_0]] \right\} \\
&+ \lambda \left\{ \hat{H}_2 + [\hat{S}_1, \hat{H}_0] \right\} + \lambda^2 \left\{ [\hat{S}_2, \hat{H}_0] + [\hat{S}_1, \hat{H}_1] \right\} + \mathcal{O}(\lambda^3) \quad (442)
\end{aligned}$$

ここで、 $[\hat{S}_1, [\hat{S}_1, \hat{H}_0]]$ は [非ブロック対角, 非ブロック対角, ブロック対角] = [非ブロック対角, ブロック対角] = ブロック対角よりブロック対角, $[\hat{S}_2, \hat{H}_0]$, $[\hat{S}_1, \hat{H}_1]$ は非ブロック対角行列である。なぜならば、ブロック対角行列と非ブロック対角行列の交換関係は非ブロック対角であり、2つの非ブロック対角行列の交換関係はブロック対角になるからである。

Here, we choose \hat{S}_1 and \hat{S}_2 to cancel the off-diagonal elements of \hat{H}' ,

$$[\hat{S}_1, \hat{H}_0] = -\hat{H}_2 \quad (443)$$

$$[\hat{S}_2, \hat{H}_0] = -[\hat{S}_1, \hat{H}_1] \quad (444)$$

Therefore we obtain the effective Hamiltonian

$$\hat{H}' = \hat{H}_0 + \lambda \hat{H}_1 + \lambda^2 \left\{ [\hat{S}_1, \hat{H}_2] + \frac{1}{2} \left[\hat{S}_1, [\hat{S}_1, \hat{H}_0] \right] \right\} \quad (445)$$

$$\begin{aligned} &= \hat{H}_0 + \lambda \hat{H}_1 + \lambda^2 \left\{ [\hat{S}_1, \hat{H}_2] - \frac{1}{2} [\hat{S}_1, \hat{H}_2] \right\} \\ &= \hat{H}_0 + \lambda \hat{H}_1 + \frac{1}{2} \lambda^2 [\hat{S}_1, \hat{H}_2] \end{aligned} \quad (446)$$

11.2 Example : Jaynes-Cummings model

We introduce the Jaynes-Cummings model. The Hamiltonian is given by

$$\hat{H}_{\text{JC}} = \frac{1}{2} \hbar \omega \hat{\sigma}_z + \hbar \omega_0 \hat{a}^\dagger \hat{a} + \hbar g (\hat{\sigma}_+ \hat{a} + \hat{\sigma}_- \hat{a}^\dagger) \quad (447)$$

To construct of an effective Hamiltonian, we can list out the diagonal and off-diagonal parts of the Hamiltonian as \hat{H}_0 and $\hat{V} = \hat{H}_2$ respectively:

$$\hat{H}_0 = \frac{1}{2} \hbar \omega \hat{\sigma}_z + \hbar \omega_0 \hat{a}^\dagger \hat{a} \quad (448)$$

$$\hat{V} = \hbar g (\hat{\sigma}_+ \hat{a} + \hat{\sigma}_- \hat{a}^\dagger) \quad (449)$$

We assume that \hat{S}_1 is given by

$$\hat{S}_1 = - \sum_{m,n} \frac{\langle m | \hat{V} | n \rangle}{E_m - E_n} |m\rangle \langle n|. \quad (450)$$

これは, \hat{H}_0 の固有状態で,

$$\hat{S}_1 = \sum_{m,n} |m\rangle \langle m | \hat{S}_1 | n \rangle \langle n| = \sum_{m,n} c_{m,n} |m\rangle \langle n| \quad (451)$$

をと展開し, (??) へ代入することで得られる.

Using \hat{S}_1 , we obtain

$$\begin{aligned} \hat{S}_1 &= - \sum_{m,n} \left[\frac{\langle m | \hat{\sigma}_+ \hat{a} | n \rangle}{E_m - E_n} |m\rangle \langle n| + \frac{\langle m | \hat{\sigma}_- \hat{a}^\dagger | n \rangle}{E_m - E_n} |m\rangle \langle n| \right] \\ &= \frac{g}{\Delta} (\hat{\sigma}_+ \hat{a} - \hat{\sigma}_- \hat{a}^\dagger) \end{aligned} \quad (452)$$

where $\Delta = \omega - \omega_0$. We adapt the Schrieffer-Wolff transformation of \hat{S}_1 , and we obtain

$$\begin{aligned}
\hat{H}' &= \hat{H}_0 + \frac{1}{2}\lambda^2[\hat{S}_1, \hat{H}_2] \\
&= \frac{1}{2}\hbar\omega\hat{\sigma}_z + \hbar\omega_0\hat{a}^\dagger\hat{a} + \frac{\hbar g^2}{\Delta}(\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- + \hat{\sigma}_z\hat{a}^\dagger\hat{a}) \\
&= \frac{1}{2}\hbar\omega(\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- - \hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+) + \hbar\omega_0(\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- + \hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+)\hat{a}^\dagger\hat{a} + \frac{\hbar g^2}{\Delta}\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- + \frac{\hbar g^2}{\Delta}(\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- - \hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+)\hat{a}^\dagger\hat{a} \\
&= \frac{1}{2}\hbar\omega\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- - \frac{1}{2}\hbar\omega\hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+ + \hbar\omega_0\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger\hat{a} + \hbar\omega_0\hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+\hat{a}^\dagger\hat{a} + \frac{\hbar g^2}{\Delta}\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- + \frac{\hbar g^2}{\Delta}\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger\hat{a} - \frac{\hbar g^2}{\Delta}\hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+\hat{a}^\dagger\hat{a} \\
&= \frac{1}{2}\hbar\omega|e\rangle\langle e| - \frac{1}{2}\hbar\omega|g\rangle\langle g| + \hbar\omega_0|e\rangle\langle e|\hat{a}^\dagger\hat{a} + \hbar\omega_0|g\rangle\langle g|\hat{a}^\dagger\hat{a} + \frac{\hbar g^2}{\Delta}|e\rangle\langle e| + \frac{\hbar g^2}{\Delta}|e\rangle\langle e|\hat{a}^\dagger\hat{a} - \frac{\hbar g^2}{\Delta}|g\rangle\langle g|\hat{a}^\dagger\hat{a} \\
&= \frac{1}{2}\hbar\omega|e\rangle\langle e| + \frac{\hbar g^2}{\Delta}|e\rangle\langle e| + \hbar\omega_0|e\rangle\langle e|\hat{a}^\dagger\hat{a} + \frac{\hbar g^2}{\Delta}|e\rangle\langle e|\hat{a}^\dagger\hat{a} - \frac{1}{2}\hbar\omega|g\rangle\langle g| + \hbar\omega_0|g\rangle\langle g|\hat{a}^\dagger\hat{a} - \frac{\hbar g^2}{\Delta}|g\rangle\langle g|\hat{a}^\dagger\hat{a} \\
&= |e\rangle\langle e| \otimes \left\{ \left(\frac{1}{2}\hbar\omega + \frac{\hbar g^2}{\Delta} \right) + \left(\hbar\omega_0 + \frac{\hbar g^2}{\Delta} \right) \hat{a}^\dagger\hat{a} \right\} + |g\rangle\langle g| \left\{ -\frac{1}{2}\hbar\omega + \left(\hbar\omega_0 - \frac{\hbar g^2}{\Delta} \right) \hat{a}^\dagger\hat{a} \right\}
\end{aligned} \tag{453}$$

where we calculate

$$\begin{aligned}
[\hat{S}_1, \hat{H}_2] &= \hat{S}_1\hat{H}_2 - \hat{H}_2\hat{S}_1 \\
&= \frac{g^2}{\Delta}[(\hat{\sigma}_+\hat{a} - \hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger), (\hat{\sigma}_+\hat{a} + \hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger)] \\
&= \frac{g^2}{\Delta}\left\{ [\hat{\sigma}_+\hat{a}, \hat{\sigma}_+\hat{a}] + [\hat{\sigma}_+\hat{a}, \hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger] - [\hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger, \hat{\sigma}_+\hat{a}] - [\hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger, \hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger] \right\} \\
&= \frac{g^2}{\Delta}\left\{ [\hat{\sigma}_+\hat{a}, \hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger] - [\hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger, \hat{\sigma}_+\hat{a}] \right\} \\
&= \frac{g^2}{\Delta}\left\{ (\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_-\hat{a}\hat{a}^\dagger - \hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+\hat{a}^\dagger\hat{a}) - (\hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+\hat{a}^\dagger\hat{a} - \hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_-\hat{a}\hat{a}^\dagger) \right\} \\
&= \frac{2g^2}{\Delta}(\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_-\hat{a}\hat{a}^\dagger - \hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+\hat{a}^\dagger\hat{a})
\end{aligned} \tag{454}$$

$$\begin{aligned}
\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_-\hat{a}\hat{a}^\dagger - \hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+\hat{a}^\dagger\hat{a} &= \hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_-\hat{a}^\dagger\hat{a} + \hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- - \hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+\hat{a}^\dagger\hat{a} \\
&= \hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- + (\hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- - \hat{\sigma}_-\hat{\sigma}_+)\hat{a}^\dagger\hat{a} \\
&= \hat{\sigma}_+\hat{\sigma}_- + \hat{\sigma}_z\hat{a}^\dagger\hat{a}
\end{aligned} \tag{455}$$

12 Peter Knight perturbation

12.1 $|0\rangle$ and $|4\rangle$

今, KPO の光子数固有状態について, $|0\rangle$, $|4\rangle$ が縮退している場合を考える. また, 高励起エネルギー固有状態は考えないとする. この場合の Hamiltonian は,

$$\hat{H} = \hat{H}_0 + \hat{H}' \quad (456)$$

$$\hat{H}_0 = \Delta |2\rangle \langle 2|$$

$$\hat{H}' = p(|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2| + |2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4|) = p(\hat{A} + \hat{A}^\dagger) \quad (457)$$

The timed-dependent Schrödinger equation in the Schrödinger picture(SP) is

$$i\hbar \frac{d}{dt} |\psi_{\text{SP}}(t)\rangle = (\hat{H}_0 + \hat{H}_I) |\psi_{\text{SP}}(t)\rangle \quad (458)$$

where $|\psi_{\text{SP}}(t)\rangle$ is the state vector in the SP.

We now can transform out of the interaction picture (IP) using the transformation

$$\hat{U}_0 = e^{-i\hat{H}_0 t} = e^{-i\Delta |2\rangle \langle 2| t} \quad (459)$$

The state vector in the IP is given by

$$|\psi_{\text{IP}}(t)\rangle = \hat{U}_0^\dagger |\psi_{\text{SP}}(t)\rangle \quad (460)$$

and the Schrödinger equation in the IP becomes

$$i\hbar \frac{d}{dt} |\psi_{\text{IP}}(t)\rangle = (\hat{H}_0 + \hat{H}_I) |\psi_{\text{IP}}(t)\rangle, \quad (461)$$

where

$$\hat{H}_{\text{IP}}(t) = \hat{U}_0^\dagger \hat{H} \hat{U}_0 - i\hbar \hat{U}_0^\dagger \frac{d}{dt} \hat{U}_0 \quad (462)$$

$$= \hat{H}_0 + \beta (|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2|) e^{i\Delta t} + (|2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4|) e^{-i\Delta t} - i\hbar \hat{U}_0^\dagger \left(-i \frac{\hat{H}_0}{\hbar} \right) \hat{U}_0 \quad (463)$$

$$= \beta (|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2|) e^{i\Delta t} + (|2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4|) e^{-i\Delta t}$$

$$= \beta (\hat{A} e^{i\Delta t} + \hat{A}^\dagger e^{-i\Delta t}) \quad (464)$$

Also, we use the following relation

$$\hat{U}_0^\dagger \hat{a} \hat{U}_0 = \hat{a} e^{-i\omega t} \quad (465)$$

$$\hat{U}_0^\dagger \hat{a}^\dagger \hat{U}_0 = \hat{a}^\dagger e^{i\omega t}, \quad (466)$$

and

$$\hat{U}_0^\dagger \hat{\sigma}_\pm \hat{U}_0 = \hat{\sigma}_\pm e^{\pm i\omega t}. \quad (467)$$

The detuning will be assumed large, $\Delta \gg 1$.

The solution to Eq. (??) can be written formally as

$$|\psi_{\text{IP}}(t)\rangle = \hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] |\psi_{\text{IP}}(0)\rangle. \quad (468)$$

We make the perturbation expansion

$$\begin{aligned} & \hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] \\ &= \hat{\mathcal{T}} \left[\hat{1} - \frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') + \frac{(-i)^2}{2!\hbar^2} \int_0^t dt' \int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \right] \\ &= \hat{1} - \frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') + \frac{(-i)^2}{2!\hbar^2} \int_0^t dt' \hat{\mathcal{T}} \left[\int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \right] \end{aligned} \quad (469)$$

The second term in Eq.(527) yields

$$\begin{aligned} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') &= \int_0^t dt' \left[\beta \left(\hat{A} e^{i\Delta t} + \hat{A}^\dagger e^{-i\Delta t} \right) \right] \\ &= \beta \left[\hat{A} \frac{e^{i\Delta t'}}{i\Delta} + \hat{A}^\dagger \frac{e^{-i\Delta t'}}{-i\Delta} \right]_0^t \\ &= \frac{\beta}{i\Delta} \left[\hat{A} (e^{i\Delta t} - 1) - \hat{A}^\dagger (e^{-i\Delta t} - 1) \right] \end{aligned} \quad (470)$$

The second-order term now becomes

$$\begin{aligned} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t'') &= \frac{\beta^2}{i\Delta} \int_0^t dt' \left[\hat{A} e^{i\Delta t'} + \hat{A}^\dagger e^{-i\Delta t'} \right] \times \left[\hat{A} (e^{i\Delta t'} - 1) - \hat{A}^\dagger (e^{-i\Delta t'} - 1) \right] \\ &= \frac{\beta^2}{i\Delta} \int_0^t dt' \left[\hat{A}^2 e^{2i\Delta t'} - \hat{A}^2 e^{i\Delta t'} - \hat{A}^{\dagger 2} e^{-2i\Delta t'} + \hat{A}^{\dagger 2} e^{-i\Delta t'} \right. \\ &\quad \left. + \hat{A}^\dagger \hat{A} (1 - e^{-i\Delta t'}) - \hat{A} \hat{A}^\dagger (1 - e^{i\Delta t'}) \right] \end{aligned} \quad (471)$$

t' に関する積分を実行すると, terms of g^2/Δ^2 に関する項が出てくるが, detuning が十分大きい場合にはこれらの項は小さくなり無視できる. Thus we obtain

$$\int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \simeq \frac{i\hbar^2 g^2}{\Delta} t [\hat{A}, \hat{A}^\dagger] \quad (472)$$

ここで, $\hat{A} = |0\rangle\langle 2| + |4\rangle\langle 2|$ である.

Thus to second order time evolution operator we have

$$\hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] \simeq \hat{1} - \frac{g}{\Delta} [\hat{A}(e^{i\Delta t} - 1) - \hat{A}^\dagger(e^{-i\Delta t} - 1)] - \frac{ig^2 t}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^\dagger]. \quad (473)$$

もし、平均光子数 $\langle \hat{A} \rangle \simeq (\langle \hat{A}^\dagger \hat{A} \rangle)^{1/2}$ が小さく、

$$\left| \frac{g}{\Delta} (\langle \hat{A}^\dagger \hat{A} \rangle)^{1/2} \right| \ll 1 \quad (474)$$

If the mean excitation A is not large and if B, assumed valid because of the large detuning, then the second term of Eq. 1.

平均励起 A が大きくなく、B の場合、離調が大きいために有効であると想定される場合、式 (1) の第 2 項は次のようになります。 1.1。

$$\hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] \simeq \hat{1} - \frac{ig^2 t}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^\dagger] = \hat{1} - \frac{i}{\hbar} \hat{H}_{\text{eff}} t, \quad (475)$$

where

$$\hat{H}_{\text{eff}} = \frac{\hbar g^2}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^\dagger]. \quad (476)$$

For our model we have $\hat{A} = |0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2|$ so that

$$\hat{H}_{\text{eff}} = \frac{\hbar g^2}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^\dagger] = \frac{\beta^2}{\Delta} \left[|0\rangle \langle 0| + |4\rangle \langle 4| + |0\rangle \langle 4| + |4\rangle \langle 0| - 2 |2\rangle \langle 2| \right] \quad (477)$$

where we have

$$\begin{aligned} [\hat{A}, \hat{A}^\dagger] &= \left[|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2|, |2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4| \right] \\ &= \left(|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2| \right) \left(|2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4| \right) - \left(|2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4| \right) \left(|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2| \right) \\ &= \left(|0\rangle \langle 0| + |4\rangle \langle 0| + |0\rangle \langle 4| + |4\rangle \langle 4| \right) - 2 |2\rangle \langle 2| \end{aligned} \quad (478)$$

また、ここで、次の Bright state と Dark state を定義する：

$$|B\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + |4\rangle) \quad (479)$$

$$|D\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle - |4\rangle) \quad (480)$$

すると、上で求めた有効 Hamiltonian は

$$\hat{H}_{\text{eff}} = \frac{2\beta^2}{\Delta} \left[|B\rangle \langle B| - |2\rangle \langle 2| \right] \quad (481)$$

where we use

$$2 |B\rangle \langle B| = |0\rangle \langle 0| + |4\rangle \langle 0| + |0\rangle \langle 4| + |4\rangle \langle 4| \quad (482)$$

12.2 $|0\rangle$ and $|6\rangle$

今, KPO の光子数固有状態について, $|0\rangle$, $|6\rangle$ が縮退している場合を考える. また, 高励起エネルギー固有状態は考えないとする. この場合の Hamiltonian は,

$$\hat{H} = \hat{H}_0 + \hat{H}' \quad (483)$$

$$\hat{H}_0 = \Delta_2 |2\rangle \langle 2| + \Delta_4 |4\rangle \langle 4|$$

$$\begin{aligned} \hat{H}' &= p(|0\rangle \langle 2| + |2\rangle \langle 4| + |6\rangle \langle 4| + |2\rangle \langle 0| + |4\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 6|) \\ &= p(\hat{A} + \hat{A}^\dagger) \end{aligned} \quad (484)$$

The timed-dependent Schrödinger equation in the Schrödinger picture(SP) is

$$i\hbar \frac{d}{dt} |\psi_{\text{SP}}(t)\rangle = (\hat{H}_0 + \hat{H}_I) |\psi_{\text{SP}}(t)\rangle \quad (485)$$

where $|\psi_{\text{SP}}(t)\rangle$ is the state vector in the SP.

We now can transform out of the interaction picture (IP) using the transformation

$$\hat{U}_0 = e^{-i\hat{H}_0 t} = e^{-i\Delta|2\rangle \langle 2| t} \quad (486)$$

The state vector in the IP is given by

$$|\psi_{\text{IP}}(t)\rangle = \hat{U}_0^\dagger |\psi_{\text{SP}}(t)\rangle \quad (487)$$

and the Schrödinger equation in the IP becomes

$$i\hbar \frac{d}{dt} |\psi_{\text{IP}}(t)\rangle = (\hat{H}_0 + \hat{H}_I) |\psi_{\text{IP}}(t)\rangle, \quad (488)$$

where

$$\hat{H}_{\text{IP}}(t) = \hat{U}_0^\dagger \hat{H} \hat{U}_0 - i\hbar \hat{U}_0^\dagger \frac{d}{dt} \hat{U}_0 \quad (489)$$

$$= \hat{H}_0 + \beta ((|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2|) e^{i\Delta t} + (|2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4|) e^{-i\Delta t}) - i\hbar \hat{U}_0^\dagger \left(-i \frac{\hat{H}_0}{\hbar} \right) \hat{U}_0 \quad (490)$$

$$= \beta ((|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2|) e^{i\Delta t} + (|2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4|) e^{-i\Delta t})$$

$$= \beta \left(\hat{A} e^{i\Delta t} + \hat{A}^\dagger e^{-i\Delta t} \right) \quad (491)$$

Also, we use the following relation

$$\hat{U}_0^\dagger \hat{a} \hat{U}_0 = \hat{a} e^{-i\omega t} \quad (492)$$

$$\hat{U}_0^\dagger \hat{a}^\dagger \hat{U}_0 = \hat{a}^\dagger e^{i\omega t}, \quad (493)$$

and

$$\hat{U}_0^\dagger \hat{\sigma}_\pm \hat{U}_0 = \hat{\sigma}_\pm e^{\pm i\omega t}. \quad (494)$$

The detuning will be assumed large, $\Delta \gg 1$.

The solution to Eq. (??) can be written formally as

$$|\psi_{\text{IP}}(t)\rangle = \hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] |\psi_{\text{IP}}(0)\rangle. \quad (495)$$

We make the perturbation expansion

$$\begin{aligned} & \hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] \\ &= \hat{\mathcal{T}} \left[\hat{1} - \frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') + \frac{(-i)^2}{2!\hbar^2} \int_0^t dt' \int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \hat{H}_{\text{IP}}(t'') + \frac{(-i)^3}{3!\hbar^3} \int_0^t dt' \int_0^{t'} dt'' \int_0^{t''} dt''' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \hat{H}_{\text{IP}}(t''') \right] \\ &= \hat{1} - \frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') + \frac{(-i)^2}{2!\hbar^2} \int_0^t dt' \hat{\mathcal{T}} \left[\int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \right] \\ &+ \frac{(-i)^3}{3!\hbar^3} \hat{\mathcal{T}} \left[\int_0^t dt' \int_0^{t'} dt'' \int_0^{t''} dt''' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \hat{H}_{\text{IP}}(t''') \right] \end{aligned} \quad (496)$$

The second term in Eq.(527) yields

$$\begin{aligned} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') &= \int_0^t dt' \left[\beta \left(\hat{A} e^{i\Delta t} + \hat{A}^\dagger e^{-i\Delta t} \right) \right] \\ &= \beta \left[\hat{A} \frac{e^{i\Delta t'}}{i\Delta} + \hat{A}^\dagger \frac{e^{-i\Delta t'}}{-i\Delta} \right]_0^t \\ &= \frac{\beta}{i\Delta} \left[\hat{A} (e^{i\Delta t} - 1) - \hat{A}^\dagger (e^{-i\Delta t} - 1) \right] \end{aligned} \quad (497)$$

The second-order term now becomes

$$\begin{aligned} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t'') &= \frac{\beta^2}{i\Delta} \int_0^t dt' \left[\hat{A} e^{i\Delta t'} + \hat{A}^\dagger e^{-i\Delta t'} \right] \times \left[\hat{A} (e^{i\Delta t'} - 1) - \hat{A}^\dagger (e^{-i\Delta t'} - 1) \right] \\ &= \frac{\beta^2}{i\Delta} \int_0^t dt' \left[\hat{A}^2 e^{2i\Delta t'} - \hat{A}^2 e^{i\Delta t'} - \hat{A}^{\dagger 2} e^{-2i\Delta t'} + \hat{A}^{\dagger 2} e^{-i\Delta t'} \right. \\ &\quad \left. + \hat{A}^\dagger \hat{A} (1 - e^{-i\Delta t'}) - \hat{A} \hat{A}^\dagger (1 - e^{i\Delta t'}) \right] \end{aligned} \quad (498)$$

The third-order term also becomes

$$\begin{aligned}
& \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \int_0^{t''} dt''' \hat{H}_{\text{IP}}(t''') \\
&= \frac{\beta^2}{i\Delta} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \int_0^{t'} dt'' \left[\hat{A} e^{i\Delta t''} + \hat{A}^\dagger e^{-i\Delta t''} \right] \times \left[\hat{A} (e^{i\Delta t''} - 1) - \hat{A}^\dagger (e^{-i\Delta t''} - 1) \right] \\
&= \frac{\beta^2}{i\Delta} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \int_0^{t'} dt'' \left[\hat{A}^2 e^{2i\Delta t''} - \hat{A}^2 e^{i\Delta t''} - \hat{A}^{\dagger 2} e^{-2i\Delta t''} + \hat{A}^{\dagger 2} e^{-i\Delta t''} \right. \\
&\quad \left. + \hat{A}^\dagger \hat{A} (1 - e^{-i\Delta t''}) - \hat{A} \hat{A}^\dagger (1 - e^{i\Delta t''}) \right] \\
&= \frac{\beta^2}{i\Delta} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \left[\hat{A}^2 \frac{(e^{2i\Delta t'} - 1)}{2i\Delta} - \hat{A}^2 \frac{(e^{i\Delta t'} - 1)}{i\Delta} - \hat{A}^{\dagger 2} \frac{(e^{-2i\Delta t'} - 1)}{-2i\Delta} + \hat{A}^{\dagger 2} \frac{(e^{-i\Delta t'} - 1)}{-i\Delta} \right. \\
&\quad \left. + \hat{A}^\dagger \hat{A} t - \hat{A}^\dagger \hat{A} \frac{(e^{-i\Delta t'} - 1)}{-i\Delta} - \hat{A} \hat{A}^\dagger t + \hat{A} \hat{A}^\dagger \frac{(e^{i\Delta t'} - 1)}{i\Delta} \right] \\
&= \frac{\beta^2}{(i\Delta)^2} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \left[\frac{1}{2} \hat{A}^2 (e^{2i\Delta t'} - 1) - \hat{A}^2 (e^{i\Delta t'} - 1) + \frac{1}{2} \hat{A}^{\dagger 2} (e^{-2i\Delta t'} - 1) - \hat{A}^{\dagger 2} (e^{-i\Delta t'} - 1) \right. \\
&\quad \left. + \hat{A}^\dagger \hat{A} t + \hat{A}^\dagger \hat{A} (e^{-i\Delta t'} - 1) - \hat{A} \hat{A}^\dagger t + \hat{A} \hat{A}^\dagger (e^{i\Delta t'} - 1) \right] \\
&= \frac{\beta^3}{(i\Delta)^2} \int_0^t dt' \left[\hat{A} e^{i\Delta t'} + \hat{A}^\dagger e^{-i\Delta t'} \right] \times \left[\frac{1}{2} \hat{A}^2 (e^{2i\Delta t'} - 1) - \hat{A}^2 (e^{i\Delta t'} - 1) + \frac{1}{2} \hat{A}^{\dagger 2} (e^{-2i\Delta t'} - 1) - \hat{A}^{\dagger 2} (e^{-i\Delta t'} - 1) \right. \\
&\quad \left. + \hat{A}^\dagger \hat{A} t + \hat{A}^\dagger \hat{A} (e^{-i\Delta t'} - 1) - \hat{A} \hat{A}^\dagger t + \hat{A} \hat{A}^\dagger (e^{i\Delta t'} - 1) \right] \tag{499}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
I_3 = & \frac{\beta^3}{(i\Delta)^2} \int_0^t dt' \left[\frac{1}{2} \hat{A}^3 (e^{3i\Delta t'} - e^{i\Delta t'}) - \hat{A}^3 (e^{2i\Delta t'} - e^{i\Delta t'}) + \frac{1}{2} \hat{A} \hat{A}^{\dagger 2} (e^{-i\Delta t'} - e^{i\Delta t'}) - \hat{A} \hat{A}^{\dagger 2} (1 - e^{i\Delta t'}) \right. \\
& + \hat{A} \hat{A}^{\dagger} \hat{A} t e^{i\Delta t'} + \hat{A} \hat{A}^{\dagger} \hat{A} (1 - e^{i\Delta t'}) - \hat{A}^2 \hat{A}^{\dagger} t e^{i\Delta t'} + \hat{A}^2 \hat{A}^{\dagger} (e^{2i\Delta t'} - e^{i\Delta t'}) \left. \right] \\
& + \left[\frac{1}{2} \hat{A}^{\dagger} \hat{A}^2 (e^{i\Delta t'} - e^{-i\Delta t'}) - \hat{A}^{\dagger} \hat{A}^2 (1 - e^{-i\Delta t'}) + \frac{1}{2} \hat{A}^{\dagger 3} (e^{-3i\Delta t'} - e^{-i\Delta t'}) - \hat{A}^{\dagger 3} (e^{-2i\Delta t'} - e^{-i\Delta t'}) \right. \\
& + \hat{A}^{\dagger 2} \hat{A} t e^{-i\Delta t'} + \hat{A}^{\dagger 2} \hat{A} (e^{-2i\Delta t'} - e^{-i\Delta t'}) - \hat{A}^{\dagger} \hat{A} \hat{A}^{\dagger} t e^{-i\Delta t'} + \hat{A}^{\dagger} \hat{A} \hat{A}^{\dagger} (1 - e^{-i\Delta t'}) \left. \right] \quad (500)
\end{aligned}$$

t' に関する積分を実行すると, terms of g^2/Δ^2 に関する項が出てくるが, detuning が十分大きい場合にはこれらの項は小さくなり無視できる. Thus we obtain

$$\int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \simeq \frac{i\hbar^2 g^2}{\Delta} t [\hat{A}, \hat{A}^{\dagger}] \quad (501)$$

ここで, $\hat{A} = |0\rangle\langle 2| + |4\rangle\langle 2|$ である.

Thus to second order time evolution operator we have

$$\hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] \simeq \hat{1} - \frac{g}{\Delta} [\hat{A} (e^{i\Delta t} - 1) - \hat{A}^{\dagger} (e^{-i\Delta t} - 1)] - \frac{ig^2 t}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^{\dagger}]. \quad (502)$$

もし, 平均光子数 $\langle \hat{A} \rangle \simeq (\langle \hat{A}^{\dagger} \hat{A} \rangle)^{1/2}$ が小さく,

$$\left| \frac{g}{\Delta} (\langle \hat{A}^{\dagger} \hat{A} \rangle)^{1/2} \right| \ll 1 \quad (503)$$

If the mean excitation A is not large and if B, assumed valid because of the large detuning, then the second term of Eq. 1.

平均励起 A が小さくなく、B の場合、離調が大きいために有効であると想定される場合、式 (1) の第 2 項は次のようになります。 1.1。

$$\hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] \simeq \hat{1} - \frac{ig^2 t}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^{\dagger}] = \hat{1} - \frac{i}{\hbar} \hat{H}_{\text{eff}} t, \quad (504)$$

where

$$\hat{H}_{\text{eff}} = \frac{\hbar g^2}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^{\dagger}]. \quad (505)$$

For our model we have $\hat{A} = |0\rangle\langle 2| + |4\rangle\langle 2|$ so that

$$\hat{H}_{\text{eff}} = \frac{\hbar g^2}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^{\dagger}] = \frac{\beta^2}{\Delta} \left[|0\rangle\langle 0| + |4\rangle\langle 4| + |0\rangle\langle 4| + |4\rangle\langle 0| - 2|2\rangle\langle 2| \right] \quad (506)$$

where we have

$$\begin{aligned}
[\hat{A}, \hat{A}^\dagger] &= \left[|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2|, |2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4| \right] \\
&= \left(|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2| \right) \left(|2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4| \right) - \left(|2\rangle \langle 0| + |2\rangle \langle 4| \right) \left(|0\rangle \langle 2| + |4\rangle \langle 2| \right) \\
&= \left(|0\rangle \langle 0| + |4\rangle \langle 0| + |0\rangle \langle 4| + |4\rangle \langle 4| \right) - 2 |2\rangle \langle 2|
\end{aligned} \tag{507}$$

また、ここで、次の Bright state と Dark state を定義する：

$$|B\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle + |4\rangle) \tag{508}$$

$$|D\rangle = \frac{1}{\sqrt{2}}(|0\rangle - |4\rangle) \tag{509}$$

すると、上で求めた有効 Hamiltonian は

$$\hat{H}_{\text{eff}} = \frac{2\beta^2}{\Delta} \left[|B\rangle \langle B| - |2\rangle \langle 2| \right] \tag{510}$$

where we use

$$2 |B\rangle \langle B| = |0\rangle \langle 0| + |4\rangle \langle 0| + |0\rangle \langle 4| + |4\rangle \langle 4| \tag{511}$$

12.3 Dispersive Shift

Here we introduce a model of a mode coupled with a qubit. The total Hamiltonian then is given by

$$\hat{H} = \hat{H}_0 + \hat{H}_I, \tag{512}$$

where \hat{H}_0 is the non-perturbative Hamiltonian and \hat{H}_I is the interaction Hamiltonian. ここで相互作用 Hamiltonian は

$$\hat{H}_I = \hbar g (\hat{A} + \hat{A}^\dagger) \tag{513}$$

と書く. where \hat{A} and g denote the product of operators describing the interaction, and the coupling constant, respectively. Here we take $\hat{A} = \hat{a}\hat{\sigma}_+$, and we consider the following interaction Hamiltonian

$$\hat{H}_I = \hbar g (\hat{a}\hat{\sigma}_+ + \hat{a}^\dagger\hat{\sigma}_-) \tag{514}$$

and

$$\hat{H}_0 = \hbar\omega\hat{a}^\dagger\hat{a} + \frac{\hbar\omega_0}{2}\hat{\sigma}_z. \tag{515}$$

The timed-dependent Schrödinger equation in the Schrödinger picture(SP) is

$$i\hbar \frac{d}{dt} |\psi_{\text{SP}}(t)\rangle = (\hat{H}_0 + \hat{H}_I) |\psi_{\text{SP}}(t)\rangle \tag{516}$$

where $|\psi_{\text{SP}}(t)\rangle$ is the state vector in the SP.

We now can transform out of the interaction picture (IP) using the transformation

$$\hat{U}_0 = e^{-i\hat{H}_0 t/\hbar} = e^{-i\omega\hat{a}^\dagger\hat{a}t} \otimes e^{-i\omega_0\hat{\sigma}_z t/2} \quad (517)$$

The state vector in the IP is given by

$$|\psi_{\text{IP}}(t)\rangle = \hat{U}_0^\dagger |\psi_{\text{SF}}(t)\rangle \quad (518)$$

and the SchÖdinger equation in the IP becomes

$$i\hbar \frac{d}{dt} |\psi_{\text{IP}}(t)\rangle = \left(\hat{H}_0 + \hat{H}_I \right) |\psi_{\text{IP}}(t)\rangle, \quad (519)$$

where

$$\hat{H}_{\text{IP}}(t) = \hat{U}_0^\dagger \hat{H} \hat{U}_0 - i\hbar \hat{U}_0^\dagger \frac{d}{dt} \hat{U}_0 \quad (520)$$

$$= \hat{H}_0 + \hbar g \left(\hat{a}\hat{\sigma}_+ e^{i(\omega_0-\omega)t} + \hat{a}^\dagger\hat{\sigma}_- e^{-i(\omega_0-\omega)t} \right) - i\hbar \hat{U}_0^\dagger \left(-i\frac{\hat{H}_0}{\hbar} \right) \hat{U}_0 \quad (521)$$

$$= \hbar g \left(\hat{a}\hat{\sigma}_+ e^{i(\omega_0-\omega)t} + \hat{a}^\dagger\hat{\sigma}_- e^{-i(\omega_0-\omega)t} \right), \quad (522)$$

where $\Delta = \omega_0 - \omega$ is the detuning of the field and the atom.

Also, we use the following relation

$$\hat{U}_0^\dagger \hat{a} \hat{U}_0 = \hat{a} e^{-i\omega t} \quad (523)$$

$$\hat{U}_0^\dagger \hat{a}^\dagger \hat{U}_0 = \hat{a}^\dagger e^{i\omega t}, \quad (524)$$

and

$$\hat{U}_0^\dagger \hat{\sigma}_\pm \hat{U}_0 = \hat{\sigma}_\pm e^{\pm i\omega t}. \quad (525)$$

The detuning will be assumed large, $\Delta \gg 1$.

The solution to Eq. (??) can be written formally as

$$|\psi_{\text{IP}}(t)\rangle = \hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] |\psi_{\text{IP}}(0)\rangle. \quad (526)$$

We make the perturbation expansion

$$\begin{aligned} & \hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] \\ &= \hat{\mathcal{T}} \left[\hat{1} - \frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') + \frac{(-i)^2}{2!\hbar^2} \int_0^t dt' \int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \right] \\ &= \hat{1} - \frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') + \frac{(-i)^2}{2!\hbar^2} \int_0^t dt' \hat{\mathcal{T}} \left[\int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \right] \end{aligned} \quad (527)$$

The second term in Eq.(527) yields

$$\begin{aligned}
\int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') &= \int_0^t dt' \left[\hbar g \left(\hat{a} \hat{\sigma}_+ e^{i\Delta t'} + \hat{a}^\dagger \hat{\sigma}_- e^{-i\Delta t'} \right) \right] \\
&= \hbar g \left[\hat{a} \hat{\sigma}_+ \frac{e^{i\Delta t'}}{i\Delta} + \hat{a}^\dagger \hat{\sigma}_- \frac{e^{-i\Delta t'}}{-i\Delta} \right]_0^t \\
&= \frac{\hbar g}{i\Delta} \left[\hat{a} \hat{\sigma}_+ (e^{i\Delta t} - 1) - \hat{a}^\dagger \hat{\sigma}_- (e^{-i\Delta t} - 1) \right]
\end{aligned} \tag{528}$$

The second-order term now becomes

$$\begin{aligned}
\int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t'') &= \frac{\hbar^2 g^2}{i\Delta} \int_0^t dt' \left[\hat{a} \hat{\sigma}_+ e^{i\Delta t'} + \hat{a}^\dagger \hat{\sigma}_- e^{-i\Delta t'} \right] \times \left[\hat{a} \hat{\sigma}_+ (e^{i\Delta t'} - 1) - \hat{a}^\dagger \hat{\sigma}_- (e^{-i\Delta t'} - 1) \right] \\
&= \frac{\hbar^2 g^2}{i\Delta} \int_0^t dt' \left[\hat{a}^2 \hat{\sigma}_+^2 e^{2i\Delta t'} - \hat{a}^2 \hat{\sigma}_+^2 e^{i\Delta t'} - \hat{a}^{\dagger 2} \hat{\sigma}_-^2 e^{-2i\Delta t'} + \hat{a}^{\dagger 2} \hat{\sigma}_-^2 e^{-i\Delta t'} \right. \\
&\quad \left. + \hat{a}^\dagger \hat{a} \hat{\sigma}_- \hat{\sigma}_+ (1 - e^{-i\Delta t'}) - \hat{a} \hat{a}^\dagger \hat{\sigma}_+ \hat{\sigma}_- (1 - e^{i\Delta t'}) \right]
\end{aligned} \tag{529}$$

t' に関する積分を実行すると, terms of g^2/Δ^2 に関する項が出てくるが, detuning が十分大きい場合にはこれらの項は小さくなり無視できる. Thus we obtain

$$\int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \int_0^{t'} dt'' \hat{H}_{\text{IP}}(t'') \simeq \frac{i\hbar^2 g^2}{\Delta} t [\hat{A}, \hat{A}^\dagger] \tag{530}$$

ここで, $\hat{A} = \hat{a} \hat{\sigma}_+$ である.

Thus to second order time evolution operator we have

$$\hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] \simeq \hat{1} - \frac{g}{\Delta} [\hat{A}(e^{i\Delta t} - 1) - \hat{A}^\dagger(e^{-i\Delta t} - 1)] - \frac{ig^2 t}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^\dagger]. \tag{531}$$

もし, 平均光子数 $\langle \hat{A} \rangle \simeq (\langle \hat{A}^\dagger \hat{A} \rangle)^{1/2}$ が小さく,

$$\left| \frac{g}{\Delta} (\langle \hat{A}^\dagger \hat{A} \rangle)^{1/2} \right| \ll 1 \tag{532}$$

If the mean excitation A is not large and if B, assumed valid because of the large detuning, then the second term of Eq. 1.

平均励起 A が小さくなく、B の場合、離調が大きいために有効であると想定される場合、式 (1) の第 2 項は次のようになります。 1.1。

$$\hat{\mathcal{T}} \left[\exp \left(-\frac{i}{\hbar} \int_0^t dt' \hat{H}_{\text{IP}}(t') \right) \right] \simeq \hat{1} - \frac{ig^2 t}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^\dagger] = \hat{1} - \frac{i}{\hbar} \hat{H}_{\text{eff}} t, \tag{533}$$

where

$$\hat{H}_{\text{eff}} = \frac{\hbar g^2}{\Delta} [\hat{A}, \hat{A}^\dagger]. \tag{534}$$

For the Jaynes-Cummings interaction we have $\hat{A} = \hat{a}\hat{\sigma}_+$ so that

$$\hat{H}_{\text{eff}} = \frac{\hbar g^2}{\Delta} (\hat{\sigma}_+ \hat{\sigma}_- + \hat{a}^\dagger \hat{a} \hat{\sigma}_z), \quad (535)$$

where we have

$$\begin{aligned} [\hat{A}, \hat{A}^\dagger] &= [\hat{a}\hat{\sigma}_+, \hat{a}^\dagger \hat{\sigma}_-] = \hat{a}\hat{a}^\dagger \hat{\sigma}_+ \hat{\sigma}_- - \hat{a}^\dagger \hat{a} \hat{\sigma}_- \hat{\sigma}_+ \\ &= \hat{\sigma}_+ \hat{\sigma}_- + \hat{a}\hat{a}^\dagger \hat{\sigma}_+ \hat{\sigma}_- - \hat{a}^\dagger \hat{a} \hat{\sigma}_- \hat{\sigma}_+ \\ &= \hat{\sigma}_+ \hat{\sigma}_- + \hat{a}\hat{a}^\dagger (\hat{\sigma}_+ \hat{\sigma}_- - \hat{\sigma}_- \hat{\sigma}_+) \\ &= \hat{\sigma}_+ \hat{\sigma}_- + \hat{a}\hat{a}^\dagger (|e\rangle \langle g|g\rangle \langle e| - |g\rangle \langle e|e\rangle \langle g|) \\ &= \hat{\sigma}_+ \hat{\sigma}_- + \hat{a}\hat{a}^\dagger \hat{\sigma}_z \end{aligned} \quad (536)$$

参考文献